

渉り野を越えて、一つの丘にとどまつたと想像して下さい。馬はその歩みを止めて嘶いたのです。偉丈夫は日々の探勝に疲れた馬を樹影に憩はせんとして、樹を求めつゝ見廻すに、雑木林——ほんとに武蔵野のそれに似た——の展開されてはるかに緑の畑、はるかに大平原を見おろすその丘が高原の中心として多くの丘陵を従へてゐるに氣づくや、馬を繋いだ樹木も珍らしくポブラの若樹であつたそうです。

緑濃きポブラの下陰に偉丈夫は少許黙考しながら。

「此處だ、州の若い人達をして學ばしむ可きの地」と決心して、其ポブラを離れて晝餐の後の渴を岩のあひだに湧く清い泉に求めて、そのポブラと泉を目標として去らんとすれば、近くの森蔭から清教徒のみが謳ふ讚美歌が洩れ傳はつて來たので、それにそつてる林をぬけてゆけば、そこに古い小さい教會があつたそうであります。この偉丈夫こそノウス、カロライナ州の名知事として今から約二百年前首都から二三十哩はなれた形勝の丘に州立大學の礎を決す可き境を求めつゝ、愛馬に鞭うつた主人公、ガバナア、デイビーその人で、デイビーはこの丘をチャベル、ヒルとその舊い教會堂に縁んで命名したのであります。デイビーが馬を繋いだポブラは「デイビーのポブラ」として、その泉は「デイビーの泉」として今でもノウス、カロライナ州立大學の象徴として

培はれた知識の樹と源泉は共に大學に光榮あれと祈つてゐるやうに生き／＼としておりました。デイビイー眠つていく久しからも彼の精神は大學街の上に現はれて永遠に英俊の學徒を培ふ聖堂として今に榮えて大學生活は清く繁く續いてゐるのであります。靜かな大學街、緒土甍々として丘は丘へ傳はり、櫟に似て非なる異國の雜木林には落葉の音繁く、殘雪は凍れる落葉をのせて冬の端麗さを偲ばせてゐます。放課後好んで散策すれば林の中に音もなく立ち止まつて無限の靜寂を覺えるのであります。林の切り展かれた谿の陽光のある處には黒奴コリの小屋があり、悲しげな俗語すら留學する身には深い想ひ出となつております。

大學街では大學生の犯罪に對しては大學懲罰權によつて處罰して而して後に警察權の行使を許す順序になつてゐますから大學生の犯罪行為に對しては大學の學生委員會が處罰を決定する特權をもつてゐますのみか、街邑の自治的干涉權社交教機關に對して相當の活動を爲し、禁酒區域たるは勿論でありますから芳醇な麻痺液は公然とは販賣不可能で、松脂がストウブに燃えるやうな唇をもつた妓婦の出沒は殆んどなく、あるとしても大學生委員會は大學の榮譽の爲めに退去を命令しかねない位で、さればこそ大學は永遠に靜かな大學街として存在せねばならないのであります。

大學街が斯の如くその都邑の自治權や警察權を大學に保つてゐるのは中世紀に於ける歐洲の大學市の歴史によるものであらうかと信ぜられます。歐洲の大學が中世紀時代に權勢をもつてゐたことは法王國王や又は僧正によつて免許されたものだと思はれてゐますが、維納大學の創建と同時にルードルフ四世が一三六五年に大學に關して國王の布告を以て

「學生を襲撃して手足を害はしめたり、或は身體の他の部分に危害を加へた者は、處罰として學生が蒙つたと同じ負傷を身體全部に受けねばならぬ。但學生の蒙つた負傷が輕微である時には、攻撃者の處罰は唯一手の負傷でよろし。 (*debet manus pugione transfigi*) 罪人は重傷に對しては銀百マルク、輕傷に對しては銀四十マルクを以て體罰の代償とすることを得、而して被害者は罰金の一半を受領する」と規定して市民へ對して學生の特殊待遇をしてゐるのは大學街の歴史として甚だ面白いことでありませう。牛津の歴史には大學生對市民爭鬭史で頗る興味のあるものは一三五四年のセント・スコラスチカ聖祭の葡萄酒事件であります、酒場にはゐりこんだ大學生が葡萄酒の事から酒場の主人公に空瓶を投げつけたのが原因で、「青二才の大學生共、いつも／＼暴威を振りやがる」と町の人々の怒りから大學生對市民の市街戰となつて、教會の鐘を打ち鳴ら

して兇器を手にし、學校の包圍となり學生のみか大學牧師までも慘忍な犠牲となつた争闘であります。此結果國王は大學に市を裁判する權利を與へたり、市場支配權も讓與して大學の保護を計つたのであります。牛津大學劍橋大學の記録、ライプツヒ市の Acta Rectorum のライプツヒ大學と大學街の行政權や大學保護權を窺ふ可き興味の盡きぬ材料がございます。

亞米利加の大學街も謂ふ迄もなく中世歐洲の遺風を享け繼いで發達したものであることは議論の餘地もありますまいが、大學街に於ける大學生對市民の争闘史は未だに聞き及びません。然し大學街の形式にしる大學の學位服裝たる大學制服——Academic Gown and Cap——の如きは中世紀時代の歐洲の大學にあつたものを其の儘踏襲してゐるのでありませうが、此ガウンをみるにつけても着るにつけても修道院生活と學園生活の密接な遺習が想はれます。亞米利加の大學のガウン及びその角帽が基督教の法服から變遷して來たものであることは疑ふ餘地がありません。黒い上衣は袖口を廣く展らかして、日本の禪僧衣か修道服に似て、能の紀州道成寺の舞臺に現れて鐘に呪文を唱ふ僧都の法服は一種のガウンとも申し得るでせう。その黒い上衣は角帽の垂總(ツッス)(Tassel)の色彩と共に落つた服裝を偲ばせて、大學では主として式服として卒業式開校紀念日等の場合にのみ着用いたしております。ガウンの頸覆布(Hood)なるものが學位を表示する



フレシユマン、キャップの著者(上)  
ガウンの總長、總長の左は國務卿コ  
ルベイ氏(X)總長のうしろは海軍卿  
ダニエル氏(下)



もので、それは恰も僧侶の袈裟のやうに肩から胸の前へかける頸飾の一種で學位や學科を意味する色とりどりの天鵝絨の飾をつけてみるからに學位服に相應しく、そのホットの色が亞米利加では研學の學問を種別するもので、その色彩は東西相似て法理學がをちつた理智と判斷の紫、哲學が考ひ深い色の藍、神學が燃ゆる信仰と愛の象徴たる眞紅、醫學が淡々たる新清の緑で、工學の黄は黄金に縁ありと謂ふのでせうか。この學位服はきつと中世紀時代に中歐南歐の大學が宗教的勢力のもとに抱擁されて僧侶が學問の師であつた頃、法服の種々が大學の教授としての階段を語るものであつたと云ふやうな風習から傳へられてゐるのでありませう。卒業式の如き卒業生はその修學した學科別の垂總とホツドをつけて式場に現はれてくる Academic profession の快さはいつか卒業式 (Commencement) のことを申上げる機会に譲つて、長いたよりに句切りをつけさせて頂く事に致します。

お健祥で！。

プリンストンエピソード

ウィルソン大統領は国際法学者として大學に育ち、やがてプリンストン大學總長よりニュージェルシイ州の民主黨知事として、政治界に趨つた學究的政治家でありますことはよくお了知でありませうが、更にウィルソンは大統領として、國際聯盟の主唱家として世界的舞臺にのぼつたのですが大學總長としての同僚でかれの政治を援けるために大學のガウンをかゝるなぐつて官僚になつた人が多いのは世間に喧傳せられております。プリンストン大學の教授會の牛耳を握つて居るフライン博士はアメリカ有数の數學者でありますが、駐獨米國大使としてベルリンでウィルソンを代表するやうに頼まれたのであります。數學者は打算に長じて居ります、とても所定の俸給と手當とではベルリンの交際界に打つて出ることが出来ない、といふので辭したのだと噂されて居りました。プリンストン大學の文學教授にして而かも詩人として親しくその溫容に接し得たヘンリー、ヴァンダイク博士は和蘭駐在の米國公使になつたのでしたが辭職して、更めて大統領ウィルソンの特別任命の下に陸軍中佐となつて、軍服姿で運送船に乗つたのであります。ヴァンダイク博士の演説は人を魅する力があり、説教としても實に眞摯なもので、そのためか歐洲の戦地に向ふアメリカの出征軍隊を鼓舞奨励し慰勞するといふ重大な役目に就いて、歐洲大戰へ米國が參戦す



ヒイベン總長とフライン先生



ると同時に潜航艇の襲来を物ともせず、斯界第一人のヴンダイク氏が挺身陸軍中佐に身を落して幾往復となくこの重要な尊い職務に従事して居るところにプリンストニアンの面目が發揮されて居たと思ひます。この重大な任務に就てヴンダイク氏を抜擢したウイルスン・ウイルスンの知己に感じて犠牲的に働いたヴンダイク、切り去り難き縁の絲は唯々彼此俱々母校プリンストン時代の友情によつて織り出されたものではありませんまいか。

而かも私がプリンストン大學の大学院へ入學した始めての「宵の晩餐」に出席するために、規定のガウンが間に合はなかつたので、借りた大學ガウンが頂度その時日本へ観光に行かれて不在中だったヘンリー、ヴンダイク先生のガウンであつたことは想ひ出の種になることでありませう。

——クリイバアランド塔の下で——

忘れ難きプリンス頓大學から (三)

ブレセプトリアルの宵

"Don't let your studies interfere with your education"

—from the motto on the

wall of student room of

Old Princeton University.—

今しがたF教授の經濟學史のプレセプトリアル、アハア——訓陶演習——を終つて下宿へと歸つて來たので、今夜は尠しく吾々が享けてゐる大學院のプレセプトリアルの餘談を誌してみませう。

F教授の經濟學史は一週に八時間の講義でありましてカレッジの第四年生の選擇生と俱に講堂で聴くのですが、大學院學生の訓陶時間はアングア、グラデュエイト——基本科生とも申しませうか——の四年生とは全然區別されて、毎週水曜日と金曜日との八時から教授の書齋で二回は行はれ、その訓陶時間と講義以外に隔週の金曜日の午後約三四時間位研究報告とその討論質問が圖書館附屬の經濟學研究室でやることになつてをります。語學そのものに大きい控制をも



たねばならぬ日本人には一課目だけの豫習復習でもかなりの重い負擔でありますのに研究報告は三週に一回位の割で課せられてゐるのでからその準備のためには時々徹夜も覺悟せねばなりません。研究報告の時間には教授も研究態度を以て學生に伍してどしどし忌憚なき批評、遠慮なき質問、時には皮肉な冷笑さへ浴びせかけられるのですから、背に冷汗を覺えることは今まで數知れぬ程経験してをります。

學生の能力キャパシティーの差異に従つて訓陶法を考察するのがプリンストンの訓陶制度の根本目的である以上、その訓陶時間には訓陶者 (Preceptor) は講義する教授としてよりも、より深い理解とより大きい同情とを學生に頒つ可きで、F教授は經濟學史の講義者としての態度を訓陶時間には全然脱ぎ去つて別箇の指導者として學生を導くのでありますからその態度にはおだやかな愛想のいゝ元氣な個人として學生の學問上の友人となられてあれこれと大學院學生に助言と智識の分配を骨折られるのみか、時としては講堂で講義せられる自分の講義そのものに對して客觀的批判をせられることも毎々でありますからその時には吾々は心ゆくばかりに先生の學究的良心に觸れて思はず知らず、秋の夜長を十一時過までも教授と膝つきあはして、ストーブの焰に快い氣持になつて聴き惚れるのです。今宵も教授は社會主義運動史の經過からマルクスの餘剩價值論に高潮して半白

の何處  
フルシヨフ  
田  
の何處

の老教授の顔面には時ならぬ若々しさをのぼせて、最近教授の講義の参考書として擧げられてゐるイングラム教授の「經濟學史」とヘネイ教授の「經濟思想史」を評して曰く、彼等はあまりに平面的考察に耽つた結果、經濟學上のディレクタントとなり了せて、尠なくも彼等自身の經濟思想の背景たる可き哲學を覗ふ可き術もない恨みがあると極めこまれてゆくのです。

小ぢんまりとしてよく配整された藏書で書齋の二面をとりまいて、暖爐の火焰は盡きそうにもなく、物語も談話も訓陶時間のそれとしては既に語り盡くされてゐても、話上手の教授の唇は閉ぢられる氣配もなく、愛用のパイプからは煙がしきりなしにのぼつてゆくのであります。南部のある小さい大學の經濟學の若い助教授とかが、近頃このセミナリイに出席して今宵も教授の愛煙家たることから、

「マルクスは非常な喫煙家であつたさうですが……」

と話が横道にそれれば教授は想ひ出したやうに、

「さうだ。」

非常な喫煙家で筆を執る時でも議論をする時でも、マルクス自身の影とパイプは離れなかつたのだらう。而し倫敦は葉巻シガレットが高いから、安いみるからに胸のつまるやうな安煙草に満足せ

ざるを得なかつたのだらう。獨逸からの社會主義の同志が土産に齋らす香の高い獨逸葉巻は恐らくマルクスの待ちあぐんだ渡來ものであつたかもしれない。屹度ハバナアの好い香の葉巻などはその切口をなめすりしまはして悦んで吹かしたことであつたらう。

社會主義經濟學派の大きい經濟學者たる彼が彼自身の喫煙に對しては終始「慾望の満足」を現出し得なかつたと言ふ實情は尠なくも資本論の構想に何物かの交渉があつたとさへ思はれる。暮らし向きが甚だしく苦しくてもマルクスはそのために「煙草の量を減少する」の苦痛には堪え難いので、より安いのを用ひて喫煙慾の満足と金錢との均等を計つたに相違ない。即ち「節約」の學説は彼の喫煙から實行し始めたかもしれないよ」

と教授は想像と眞實の絲を綾に織りだして物語りながら垂れさがる胡麻鹽の髪を撫であげられるのであります。

卓上の冷えきつた紅茶に咽喉を潤はせた老教授は、齒ぎれのいゝ英語で轉ばすやうな餘談を進められてゆく時に、窓外の風はバツタリとやんで靜寂な夜を破る音響の一つさへなく室内には話に聴き惚れてゐる學生が黙まりこんでゐます。教授は今しも何を物語らうとなされるのでありませうか。

「スミスと言ひマルクスと謂ひその二人が世にも稀な美しい友情家であつたことは君達もよく覚えてゐる筈だ。スミスにダビッド、ヒューム、マルクスにエンゲルスが心友として學友として存在してゐたことは偶然とは云へ定に彩の麗しい挿話で、而かもヒュームが牛津大學の學生時代からスミスに倫理學上哲學上測り知る可からざる影響と感化とを與へて、スミスの經濟學説に密接な關係をもつてゐることは、マルクスの所謂唯物史觀の最も據る可きものと認められてゐる「共產黨宣言」が——よしやその構圖が全てマルクスの思想からであるとしても——エンゲルスとの共同勞作であるのみか、資本論に重大の共鳴を及ぼした「英國に於ける勞働階級の實狀」がエンゲルスの著作であり、且は資本論三卷がマルクスの歿後エンゲルスの友情の發露學問的知己の努力によつて上梓されたのであるとの話は麗しい友情物語である。」

「スミスとヒューム、マルクスとエンゲルス、のみならず重農主義經濟學派と自由主義經濟學派「ウエルス、オブ、ネイション」と「資本論」斯くも經濟學史は總てが一箇の冷たい人文科學の一部のみではない、探がしだせばその冷たい科學の記録にも人の世に奇しい心と心の囁があらう、人の味ひを學問の境地に誘ひ出すのはあるひは非學究的な態度かも知れない

が徹頭徹尾學問的講義に偏重して冷たい眞摯ばかりを強ひるのみが教師としての全能ではあるまい、自由なプレセプターの時間には君達に個人と個人、人と人との妙味を出来るだけ享けさせねばならないと思ふのである。」

と教授は消えかゝつた葉巻に火をつけながら話を打ち切つて仕舞はれたのであります。

それからしばらくの自由な雑談に笑ひ興じてプレセプトリアルプレセプトリアルの時間であるのに、説明し難い情緒の洶湧を覺えつゝ、別れの挨拶を交はして玄關口に立てば教授は優さしい老奥さんと立ちならんで

「ニュージェルシイの冬は寒いから今からよく健康に注意しなさいよ」

と未だ此大學に物馴れぬ異國の學生に情ある言葉を下さるのです。セミナーイでは研究報告の不充分なのを叱られたり、参考書の讀了の遅いのを鞭撻して下さつたり、論理の錯誤を訂正して下さつたりして、秋霜のやうに冷たいのかと思はせる教授が、斯く物さびしい郷愁を感じ續けてゐる皮膚の黄い、ともすればみすばらしい體軀と榮ない顔を輕蔑と嘲笑のうちに眺められがちの異國の學生に研究室を一步出れば限りない優しさと子を思ふ親の慈愛を頷ち與へて下さる慈しみの心には今宵も思はず涙の沁むのを覺えたのです。教授が肩においた手を外すが早いか温い握

手をして、夜風のびつたりとやんだプリンストンの大學街プリンストンの教授街を僚友と話し話し歸る時には、學問の感激と人間味の情熱に溢れて、いろ／＼の印象が複雑にこんがらかつた、昂奮した心持で暗い空を思はず知らず仰でみれば、茫々と靄が立つた空には薄青い月の光が明るい雲だけを總ふさのやうにして、じつと動かずに懸つてゐました。

プレセプトリアルプレセプトリアル、システムが唯にプリンストン大學に新しい生命の泉となつたばかりでなく、現在此訓陶制度は米國のカレッヂ教育の缺陷と短所を補ふ可きものとして非常に注目せられてゐます。米國の大學教育が過去の生氣を失つた偶像的な劃一と傳統のために生氣潑刺たる感を生はんとしつゝあるのは識見ある教育家の一樣に認むる處で、各大學がお互に模倣と流行を追ふて、而かも各自がその爲に疲かれかゝつてゐることは、エールを觀てもハアバードを見學しても、乃至は大學經營の極度に營利的であるコロンビヤ大學、市俄古大學をみても看取し得る處で、この最近の大學教育の趨異期に際して、プリンストン大學をして「大學教育の革命」とも云ふ可き程の獨創性オリジナリテイを發揮させた時の總長ウィルソンは世界大戰の終結と共に國際聯盟と講和會議に著しい幻滅の悲哀を味つても、平和の理想を議するために巴里に渡れば政治とか外交とかの現實活動の舞臺では巴里のソルボン大學の講壇で大學の理想向上と眞理の認容を高叫し得る精神

的大政治家たる名大學總長たる用意に傾らそかでなかつたと斷言しても寸分の抗辯は許されずまいと存じます。

プリンストン大學總長ウッドロ、ウイリスン博士はハアバード大學の大學經營及その大學授業主義を自由選擇科目制に改革したエリオット博士と共に亞米利加大學總長の雙壁であると申しても過言ではありませんまい。何故なればウイリスン總長は亞米利加の大學の霧のなかの迷路を辿つてゐるやうな大學理想に憧れてゐる時に、大學は何事かを教へねばならぬと云ふ目的のために、莫大の基本金とその制度の創建に努力して、而かも見事仕遂げた總長でありますから、皮肉屋のスロステン博士——紐育「インデペンデント」誌の主筆で有名な大學評論家——はウイリスンはその名案を夢寐の間に獲享された天籟の福音のやうに誇張してゐるが、その妙案は彼が曾て學生時代に専攻した英國政治制度史の研究の間に得たに違ひない、ウイリスンは理想に燃えて現實を忘れるから、而かもその理想を現實化せしめたプリンストン大學はそれだけの能力と資力とを幸いに準備してゐて總長をして成功せしめたのであると。

最近大學院もかなり隆盛となりつゝありますが大學の基本科生(アンダア、グラデュエイト)の數からみれば、ハアバード、ミシガン、コロンビヤ大學に比すればプリンストンは約三分の一に

しか足りない狀況で、ジョンズホプキンス大學を除けば亞米利加の大きい十四大學中の最小のものであつて、プリンストンはあらゆる意味でハアバード、エールと對立す可き三角形の一角を占有して堂々の陣を張つてゆくにはプリンストン獨特の執着力の強いことを想像して頂かねばなりません。プリンストン大學入學願書の第何項だけに、

「爾の父は、爾の祖父はプリンストン何年の卒業生なりや又は爾の兄は如何に！」

と誌されてゐる位に、プリンストンは同質同系を尊び、この同質同系を迎ふるを悦ぶプリンストンの精神は、種々雑多の雜種混合を嫌惡するのみか、一つに集る愛校心はその卒業生の數字に於ては、ハアバード、エール、コロンビヤの遙か下位にあつてもプリンストン大學同窓會は亞米利加有數のもので、この勢力とその集注はより以上に強いものとなつてプリンストンをより善くなすための力は、大學からも大學の外からも常に現はれてゐます。のみならずプリンストンはハアバードが國際主義世界主義を採つてあらゆる種類の條件の下に、あらゆるものに入學を許し、而かも大學教育としてあらゆる課目を與へてゐるのに對しても、又はハアバードがそのハアバードの獨占としてゐる自由選擇制に對しても、プリンストンが必制と選擇制とを授業課程に冠してゐるのも、總て趣きかたを異にしてゐる事は大學一覽表の比較だけでも顯らかで、プリ

ンストンでは歴代の總長とその教授團が合一して法律醫學農業齒科醫學等の純粹なプロフェショナルコースを大學の一分科として設けておく事を全く簡潔な理由でその存在を否定してゐるのでありますがその理由に曰く、プロフェショナルコースでは人格陶冶と英俊訓育がおろそかになされ勝ちであるからと。ですからプリンストン大學には職業的教育は全く設けられてゐないのが現状であります。勿論プリンストンには、亞米利加の大學が大學の兼營として財政的利益のための夜學部、夏期講習會、通信教育を全然やつてをりません。その代り大學生と社會との交渉のためにはアインスタン博士アゴール等世界の名聲家を招聘して學生にその警咳風貌だけでも接せしむるために頗る用意周到で費用を惜しまずやり通してゐるのもプリンストンの校風を窺ふに足る一證であります。プリンストンは學問に國境なしの諺を是認してかなり多種の外國留學生を包括してゐますが、決してハアバード、コロンピヤ、市俄古のやうに扉を自由に開いてコスモポリタニツクを看板板とすることは好んではゐませんやうであります。

支那人と日本人が有色人種として許されてゐても、亞米利加市民たる權利を主張し得る黒人は全然その入學を許可されてゐませんのみか、強いて黒人が大學に入學を求むるあれば、プリンストン大學は恐らく黒人の顔に唾を吐く位に面倒がるでせう。更に興味あることは亞米利加の諸大

學が最近その門戸を婦人のために開いて、男女共同教育 (Co-education) を高唱するに反して、プリンストンは性とは一元的——即ち男性だけのもの——のものであると信じ切つてゐる位に、婦人の入學を拒絶してゐます。その婦人拒絶の主義のよしあしの理由は再考す可き問題であるとしても而かもその拒絶主義の據る可き理由が歎ぶ可き程に甚だ單純なものであります。プリンストン大學は婦人のために建立された大學ではないと謂ふことで少々堅苦しい偏狭な排他性を帯びてゐる厭ひはありますが古典的趣味とコスモポリタニツクな又はヘテロジニアスの風潮とは一致しないから當然斯る歸趨をきたすのでありませうと信じます。

ですから、自然とプリンストンを慕ひ集る學生の氣質は到つて風雅典麗で贅澤な學生氣質があつてもその眞髓は猶太富豪式の惡どい金持風がありませんで日常の服裝に動作に優美に物やはらかに洗練された妙味を遺憾なく現はして、野趣たつぷりなダートマス大學やコーネル大學の學生氣質に比して非常な差異があります。特異的な狭い範圍でプリンストニアンは大學生活を亨樂したがる傾向があつてそれは兎もすれば反猶太人思潮、反セミテツク感情を強めて、プリンストンの方にハアバードよりも寧ろ永遠に清教徒主義を以て押し通し、コロンピヤ、ペンシルヴァニア大學等の猶太主義に對抗して行きたいと希ふ人種の差別觀念が基本科四ヶ年の學窓生活で根深く培

つてしまはれるのでありますが、此傾向には私は心から不愉快な感じを味つております。而し、プリンストンはプリンストンの途を久遠に守つてゆかねばならぬ宿命はもつてゐませうから……。

然しこの排他的の雰圍氣のなかに靜かに自然と人爲の恩恵に浴して、日本人だから、遠くからきてゐるのだからと云ふ温かい同情に擁まれて讀書研學を進めてゆかれることは衷心から感謝せねばなりませんまい。

悲しきしらせ

北澤先生に。

降り続く秋雨の日は捲ひ上る塵の一つも無いくらひに沈み返つて、感高い教授の妻君の聲も聞えず、朝から晩まで駛る高速度の郊外電車の軌る音さえ物靜かで、遠い教會の鐘が遮る雜音のない裡に窓を鼓つてゐます。雨に曇つた玻璃窓から庭の霜がれてゆく様が見えて、黙つてゐる自然の嚴肅さが迫まつてまゐります。こんな靜寂な、一切の瑣細を斥けた學窓生活にゐても、外國生活の焦燥が拷問にでもかけられたやうに心に響いてくるのはどをしたこととごさいませうか。一つ厭な便を書きませう。

先生から親しく紹介狀を頂いたグラハム先生は二三日前——十月廿六日に竟に逝去されました。溫容のうちに學者らしい鋭さを見せて、邊幅を飾らぬ嗜好は流俗とかけ離れてゐてもグラハム先生の瞳には人の爲には火の様に熱し、正しい事に測り切れぬ努力を包んだ風貌がございましたね。瘦身鶴の様に、而かも大きい眼鏡の下に潤み勝ちの長眸で、

「Kドクトルは壯健かね？」

と軽く首を傾けて初對面の僕をしてなかつかしの學者と始めに印象させて下さつた。ノウス、カロライナ大學總長のエドワード、グラハム先生は四十三のお若い歳で逝去いたしました。亞米利加の大學教育界は、このまたとなき年若き名總長の他界に依つて、大なる希望を繋いだ一生命を失つたのであります。御承知でもありませんが、米國が歐洲參戰を宣言する時局に、時の大統領ウィルソン氏は全米の大學に向つて、大學生の強制的軍事教育を提唱致しましたが、グラハム總長はウィルソン大統領の提案に贊して所謂 S. A. T. C. — Student Army Training Corps — 制度を主張して南部十一州の大學軍事教育督察官となられたのであります。而かも常備軍制度の到つて不完全な米國をして、三百萬の大軍を歐大陸の戰場へ輸送すると大言壯語し得たのは一に此大學強制軍事教育制度に依るものであつて此點に關して、グラハム總長は亞米利加の大學教育へ一

つの曙光を點じたる第一人として大なる期待をなされておりましたが、總長は西班牙感冒に罹り後肺炎の胃す所となつて僅かに一週間にして長逝されたのであります。

總長は一八九八年北カロリナ大學を卒業するとすぐコロンムビア大學の大學院に入学し、歴史、英文學を専攻されて、業成り母校に歸るや教授となり、トランスライ經營員の職に就き州立大學の經營に對して驚異す可きその才能と人格の力を直ちに示したので、三十九歳の若冠にして、ヴァージニア大學、イリノイス大學、ミチガン大學、カリフォルニア大學と共に州立大學として亞米利加の模範大學たるものとされてゐたノウス、カロライナ大學の總長に擧げられ、參戰と共に才能を發揮されたのであります。グラハム總長の長逝は、亞米利加の高等教育界にとつて大なる損失であり、州の青年に對しては大なる悲愁であります。先生がお留學の時代にはグラハム博士も新婚の楽しい生活をチャペル、ヒルでなされてゐたことでありましたらうが、グラハム總長は自身も流行性感冒の病床に就く以前に奥様とお嬢さんとを二週間のうちに引き續いで奪はれ、悲みの涙乾かぬうちに、總長お自身も亦吾々と幽明界を異になされねばならぬ悲しき日がまゐつてしまいました。このごろでは總長官邸の寂しい庭には總長の愛犬がひとりうなだれてゐるのを見るに耐え兼ねて、廻り道をして登校することさへございます。

無學のエヅラ、コーネルの片腕としてコーネル大學を創建した、アンドリュウ、デチキンソン、ホワイト博士は八十六歳の高齡を以てこの程逝去致されました。博士の逝去に依つて、亞米利加の大學から十九世紀後半に於ける最も顯著にして而かも典型的大學總長の一人を喪つたのであります。愈々残る明星はハアバード大學のエリオット老名譽總長だけでございます。

ホワイト博士の氣質と仕事は、實際に於て重んずべきものであつたに拘はらず、人目を惹くゆうな眩惑的なものではなくして寧ろ靜閑な、落ついた事業が残されたのであります。博士の生活は、教育、政治、國際關係の世界に於ける研究と、解釋と、思慮深き文化建設の生活でありました。

十九世紀後半から現世紀へかけて、ホワイト博士の如く亞米利加の教育界に直接に有益なる影響を與えたものは洵に尠なく、博士はコーネル大學の創立とその管理にエヅラ、コーネルの思想と握手して盡力したのみならず更にそれよりも以上に、Collegeの仕事とUniversityの差異を明らかにして、亞米利加大學教育に新しい針路を示したのであります。ホワイト博士の初期の事業は、此二者即ちCollegeとUniversityとの區別を立てて、大學教育に人格力を注ぎ込んだ信念家であつて、コーネル大學の創設當時、此新企圖に多大の刺激を與えた亞米利加及び歐洲の學者

の一團を集め、更にその卓見を、ジョンズ、ホプキンス大學の開校に際して、ギルマン總長に世襲せしめたのであります。博士は一市民として、自己の撰べる黨派の事業に關與して到る處に於て到る時博士の黨與の士は、博士を顧問と見做して政治的指導者と仰いだのであります。

實際關係の方面に於ては、博士は開拓者 (Pioneer) であり、露西亞人、獨逸人、大陸のその他の諸民族と早く接觸したその結果からして更によき新しき國際關係の勃興す可きを洞察して、提案の形式こそ異つたではありませうが國際聯盟の精神はホワイト博士の胸に燃えてゐたのであります。時代は未だ博士の理想に遅ること甚だしく而かも一八九九年のヘーグ平和會議は (博士は同會議に於ける亞米利加代表委員長であつた)、博士の外交手腕と人格とに依つて、獨逸の代表者をして尊敬せしめ、失敗に終らんとした同會議を疑ふ可からざる成功に變へたのです。

ホワイト博士をしてハアバアード大學のエリオット總長、ジョンズ、ホプキンス大學のギルマン總長、市俄古大學のハアバアード總長と同じ範疇カテゴリーに屬せしめて、ホワイト博士のコーネル大學に於ける建設的功績を認めてゐるのであります。而かもこの老總長もイサカの大學街で最近に長逝せられてしまつたのであります。

悲しきしらせではありますがお知らせまでに……………。

## 第二部 大學生活の四季と運動競技

— Mens Sana in Corpore Sano —

—ギリシヤ古諺—

—やは肌の熱つき血しほに觸れ  
も見で、淋しからずや道を説く君—

—品 子—

ペンシルバニア  
シカゴ  
ハーバート (オックスフォード)  
コロムビア  
エール (ニューヨーク)  
プリンストン (ニュージャージー)



秋の新學期  
から冬まで

- 大 學 曆 (College-Calendar)—
- ヂエムオシユア體育館—スチヂヤム競技場— Y. M. C. A. —
- 蹴球の話—ハアバアード・エール—
- プリンストン大學の蹴球—フレヰシユ一年生—
- プリンストン大學のボンハイヤー—
- 冬が近づいてくれば—
- 雪の洗禮—大學生の不文律—

## 大學 曆

亞米利加の大學生活は日本のそれの様にのべつ幕なしの一本調子の單調な生活ではございません。四季の推移が夏冬春秋の移り變りを風にも花にも星や雲にさへも現はしてくるやうに、亞米利加の大學生活はその四季の推移につれて生活そのものの色彩が、生活そのものの雰圍氣が、變り過ぐつてくるのは芝居の舞臺で場面が一幕毎に展開されてくるやうなもので、單調な大陸的氣候も打忘れて暑い寒い愚痴もなく、寒くなれば寒いながらも、暑くなれば暑いながらも、春によし、秋によしの趣向は實に快い程現はれております。

亞米利加の大學生活では大學生鄙語カレッジスラングの一つとして言い傳へられてゐる如く、College Seasonカレッジ シーズン——大學の四季——と謂ふものがございます。あらゆる大學の年中行事が、あらゆる大學の因襲慣習が、このシーズン、シーズン行はれて居ますし、又そのシーズンがこなければ到底その甘味うまみを現はせないやうな風になつてゐるのでございます。運動競技が四季によつてその生命を擡たげてゐますし、音樂會、演劇、會合(Meetings)、舞踊等大學生活の雄々しいものも優しいものも、皆それぞれの嬌姿を四季の色彩にとりまぜて淀みない享樂と濁りない若々しさを持つて居ります。



美しい女性のダイビング



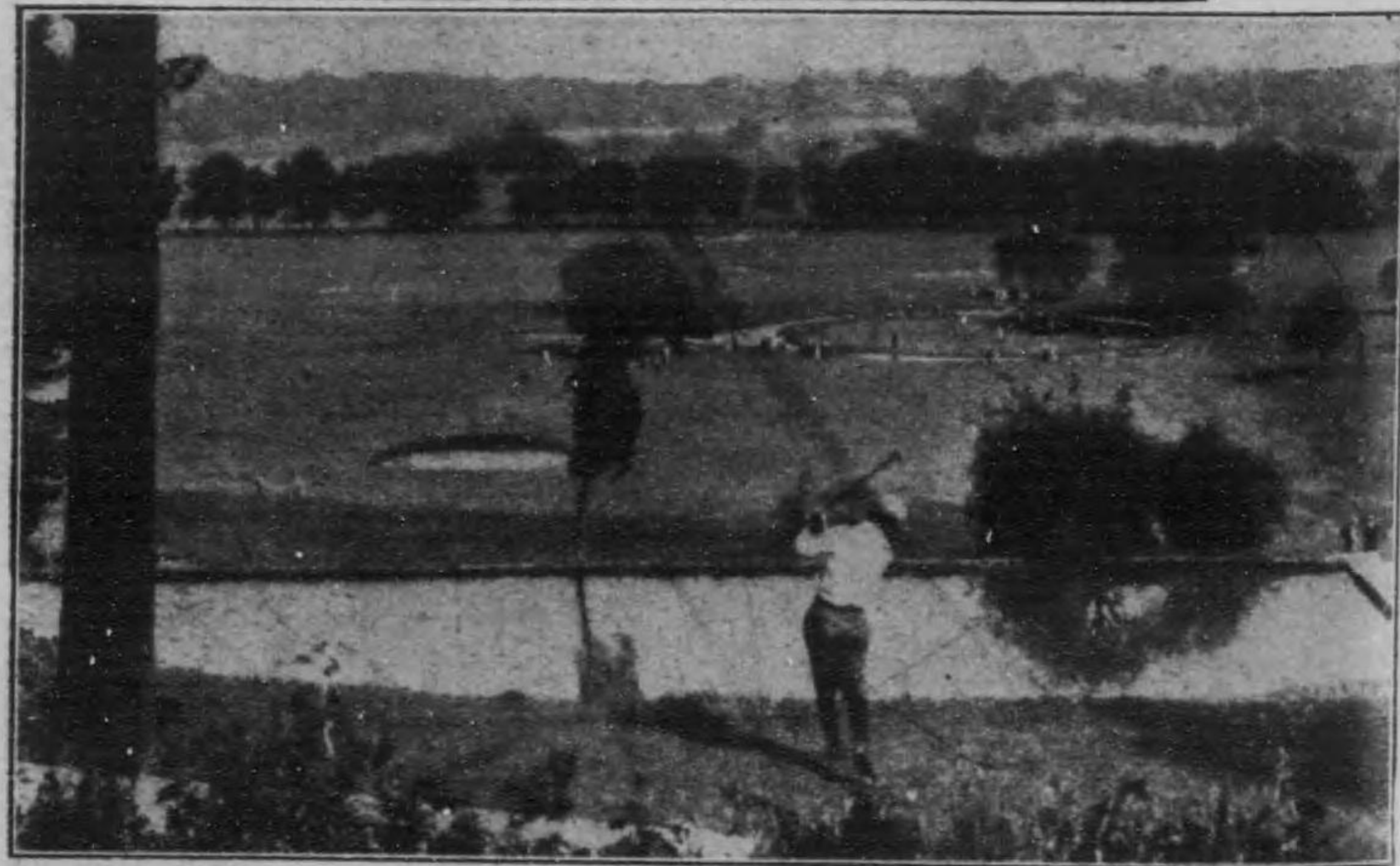
## 大學 曆

亞米利加の大學生活は日本のそれの様にのべつ幕なしの一本調子の單調な生活ではございません。四季の推移が夏冬春秋の移り變りを風にも花にも星や雲にさへも現はしてくるやうに、亞米利加の大學生活はその四季の推移につれて生活そのものの色彩が、生活そのものの雰圍氣が、變り週々つてくるのは芝居の舞臺で場面が一幕毎に展開されてくるやうなもので、單調な大陸的氣候も打忘れて暑い寒い愚痴もなく、寒くなれば寒いながらも、暑くなれば暑いながらも、春によし、秋によしの趣向は實に快い程現はれております。

亞米利加の大學生活では大學生鄙語の一つとして言い傳へられてゐる如く、カレッジ シーズン College Season — 大學の四季 — と謂ふものがございます。あらゆる大學の年中行事が、あらゆる大學の因襲慣習が、このシーズン、シーズン行はれて居ますし、又そのシーズンがこなければ到底その甘味を現はせないやうな風になつてゐるのでございます。運動競技が四季によつてその生命を擡にしてゐますし、音樂會、演劇、會合 (Meetings)、舞踊等大學生活の雄々しいものも優しいものも、皆それぞれの嬌姿を四季の色彩にとりまぜて淀みない享樂と濁りない若々しさを持つて居ります。



美しい女性のダイビング



ゴルフリンクの快き

お承知の通り、秋のフットボール、乗馬、冬の水泳競技——勿論室内水泳場の——バスケットボール競技、討論會、音樂會、歌劇見物、夏の山岳天幕生活——キャンピングと申し馴れて居ますがこれが頗る愉快なものでして、五六人の仲宜しが自働車一臺購入して天幕と炊事道具一式を持つて平原を横切り、山脈をうねり、旅の疲れも何のそのと大陸の夏を心ゆくまで享樂するのですからね——學資を作るために自ら勞働にゆくのも此夏休みであります。——綠陰で親しい婦人友達——girlfriend——膝つき合はして快談しあつたり、詩を朗讀したり、マンドリンにつれて合唱したり、夏季學校は學校と申すよりも大學生の夏の樂園で、春のベースボール、テニスコンテスト、復活祭の舞踊、五月祭の悦び、斯く數へくれば申上ぐるたのしみの種は盡きません程に四季に連れての悦びと、彩の麗しさは思ひ出の綾となつて居ります。

白樺の林は朝靄にひたつて、黄ろい嘴をした鷺みたいの數羽の小鳥が窓硝子を開ける音に驚いて翔つて消えてゆきます。高原でうける眞夏の朝日は輝いたうちに柔らかさがあつて、痛んだ心にはなにより楽しみでございました。逝き父上の百ヶ日も過ぎましたね。さぞかし何かと涙の種と遠くからお察しいたして居ります。こちらでも父上のお最後の報告の電報がついてから三週間も経ましてから父上が御病氣中おかき下さつた最後のお消息を漸く頂く様の次第でござい

ますから、何んでも忙しげに心持を埋めておりませんともすれば獨りで考へ込んでしまふので、細い朝の陽光が窓から霧のやうに吹き込んで来る様な露臺の廣縁で今日はゆつくりと大學の事を甲上げませう。

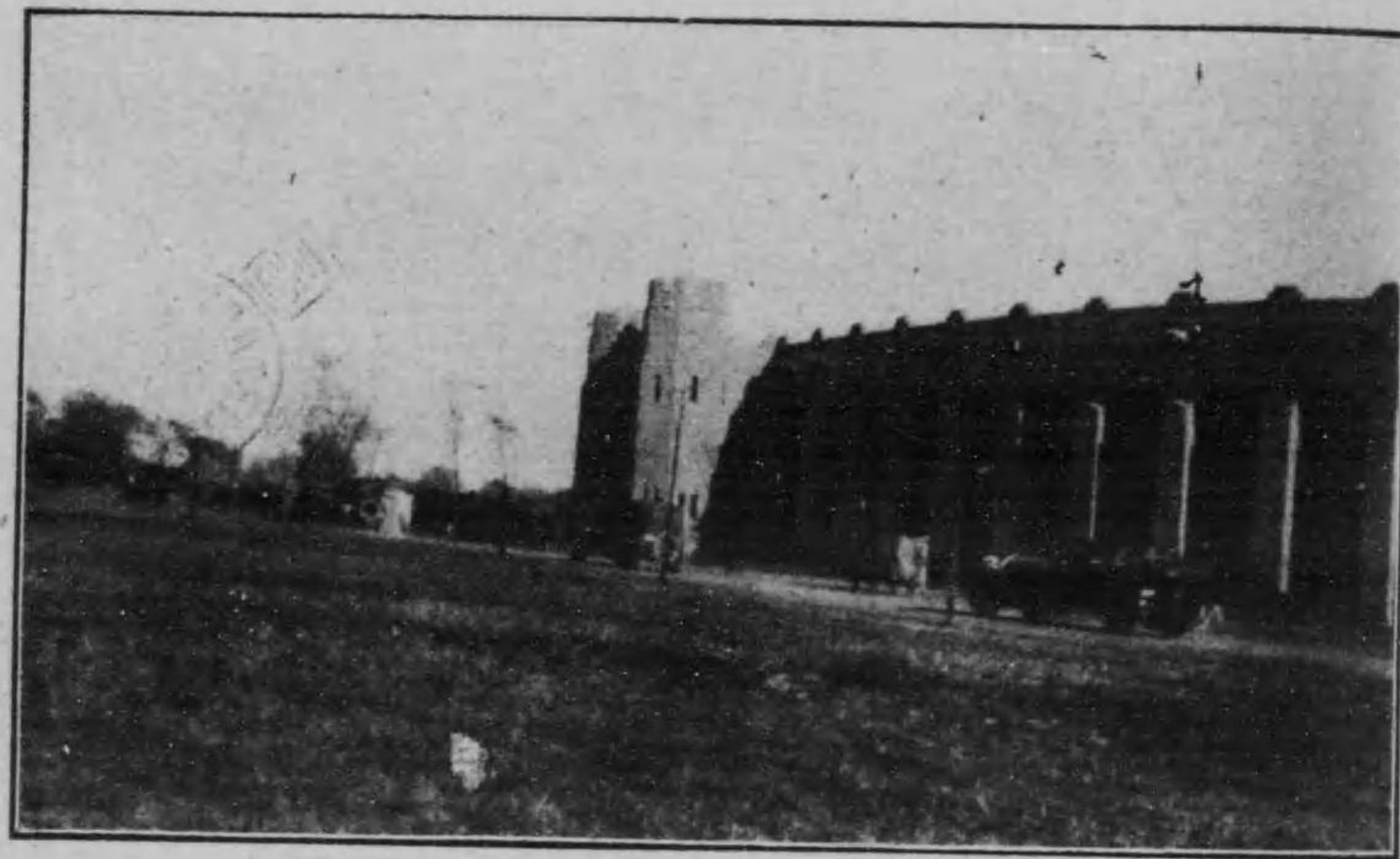
大學の一ケ年。それがどんなに移り遷つてゆくかを、あれもこれもと拾ひこんでみて一つ大學<sup>カレッジ、カレッジ</sup>を綴つてみいたのであります。

亞米利加の大學はお承知の通り九月が新學期で、遅い處では秋の彼岸過ぎ頃から講義が始まり、入學手續も到つて手軽なものでござぬましてやれ保證人のやれ父兄のと面倒なことは亞米利加では流行つて居りません。入學資格は法律科・醫科・神學科以外は概ねハイスクールの四ケ年の卒業を以て許可し、新英蘭州や東部の諸大學は入學試験制度を採用し、中西部南部地方はハイスクール及び入學認可を有する豫備學校<sup>プレパレトリー</sup>の卒業證書査定によりて無試験入學を許しております。法律は亞米利加の大學では所謂 Undergraduate College 以外の Professional school とされておりますので、大學の二年修了と同時に入學許可を與へております。ジョンズ・ホプキンス大學の醫科の如きは單科大學卒業を入學の標準といたしておりますから、日本人にとつては、まづ日本で専門教育を卒へて亞米利加に留學いたしますのが最も賢い方策でございます。

入學すると間もなく、入學宣誓式が校旗・星條旗のもとに儼に行はれますがこれは頗る宗教的意義の深いもので、大學の基督教青年會は入學後のその教科書取次、寄宿舎の世話、又は自活して學修するものために職業紹介をなす等、その活動の目覺しいことは悦れし程であつて、學生團體が洗濯、雜貨販賣、雜誌發行殆んど一切を處理して學生自治の本領を發揮し、毎朝の大學の禮拜堂の勤行は總て青年會の指揮のもとに行はれ、大學の行政的管理まで司つております。而かもその實務的訓練が基督教の犧牲的精神から發露する美しい行動であります、ですから大學入學と同時に大學青年會の會員となるわけで、莫大の基本金があり、學生が年々醸金して隆勢を計つております。秋がそろ／＼と落ちついて空が澄み渡つてくる頃には、若々しい一年生<sup>フレッシュマン</sup>が大學の一年帽<sup>フレッシュマン</sup>を頭に戴いて意氣揚々と校庭を歩いてゐます。新入生の宣誓式とか青年會の招待會とか、各教會の歡迎晚餐會とか、一年生をお客様とした諸々の催が毎宵舉行されてゐますが、どの會合でも酒は一滴もなく、そのかはりに大概の大學集會では大學牧師<sup>カトリック</sup>がまづ新しい大學生に信仰と活動の祈禱を捧げ、その後を樂むのでありますこれで社交的生活の形式をまづ一年生は學ぶのであります。運動場の方では蹴球の練習がいよいよ油をのせてきて、みるからに若い人達の強い力がびく／＼してゐるのです。

入學試験は學術試験よりも寧ろ身體検査が重んぜられてゐて頗る綿密な考查を致しまして、入學してからは一年生は大學の體育館ジムナジウムと謂つて體育をやらせる處の體操の先生が一年生のひとり／＼について適した運動競技を指示したり、發達の不充分の方面を補ふ體育を一週に何時間その體育館でやらせるになつております。體育館では晴雨に係はずどんな運動でも競技でも出来るやうに設備がしてございますし、地下室には浴場水泳槽更衣室理髮室診察室等があり、入浴場の如きは一時いちじきに五百人位入浴をすることが出来ます。午後學校がひけてから二三時間汗を快く出すまで運動して後にタオルを與へられて入浴するのが月に約二三圓の費用で、その上に衣服を入れて置く函まで渡されてゐるので少々勿體ない感じもいたします。米國の大學が運動競技と體育とを重んずることは日本とはまるで比較にならない位で、そのためにどこの大學にでも大きい體育館と競技場(スタジアム)を造つて青年の體育に細心の注意を拂つて惜しみません。

ハアバアード大學にはソルチア、スタジアムと申します馬蹄型の大競技場がございますが、それは約五萬の觀覽者を收容することが出来ますがそれすら秋の蹴球競技には年々と狹隘を感じてきてゐます。一九一七年にエール大學では馬蹄型でなく全くの希臘羅馬時代の競技場を想はせる七萬人を容れ得る楕圓型の大競技場を建設いたしましたし、プリンストン大學にはバルマ



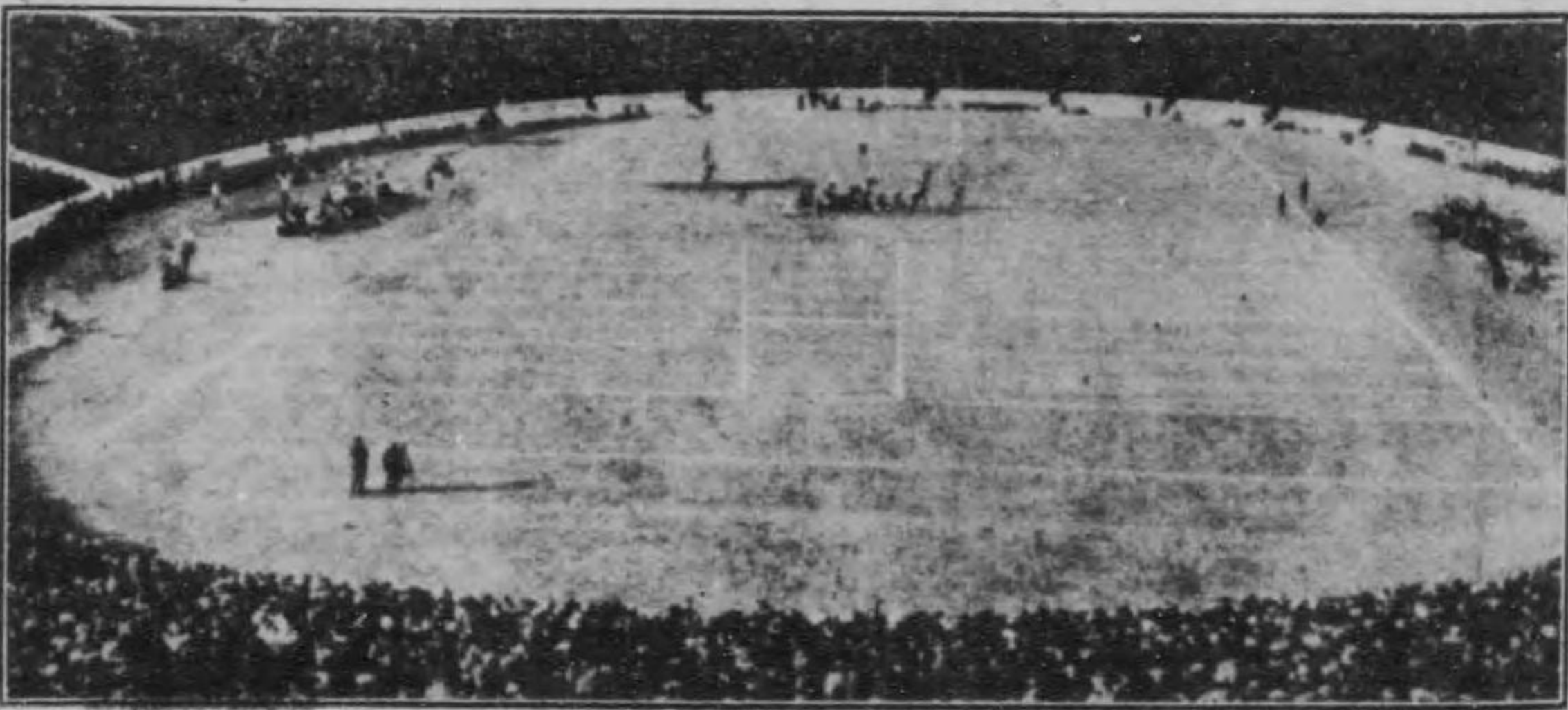
バルマア紀念競技場の入口と内側



エール大学の音頭取り



エール大学競技場



アー記念競技場メモリアル・スタジアムと申しまして、一九〇三年にプリンストンを卒業しました、バルマアーなる人のお父さんが獨力百七十万弗を寄附して建たものだを、ハアバード大學のと同型ではありませんが、少々狭いかと思はれます。市俄古大學のスタツグ、フキルド、コーネル大學のシェールコフ、フイルド等は實見した數々の大學競技場のうちでも實によく整つた而かも大陸的意氣を示す大規模な運動競技場でありました。その何れもが愛兒の記念とかさなくば大學の功績ある人に捧げた記念競技場であつて、青年の體育と意氣の涵養に資せんとする米國國民の偉大さと思はれてそゞろ羨ましくなるのでございます。ともすれば大學の運動競技が選手と言ふ限られた人々の獨占的なものの獨壇場である日本の傾向に比して、米國では大學の運動競技乃至體育が全く普遍化されて、「Every body in the game」の國民的體育主義ナショナル・ヨナリスティックがその實際の上に行き涉つております。曾て在學してゐたノウス、カロライナ州立大學の體育館入口の大理石板の彫刻に、

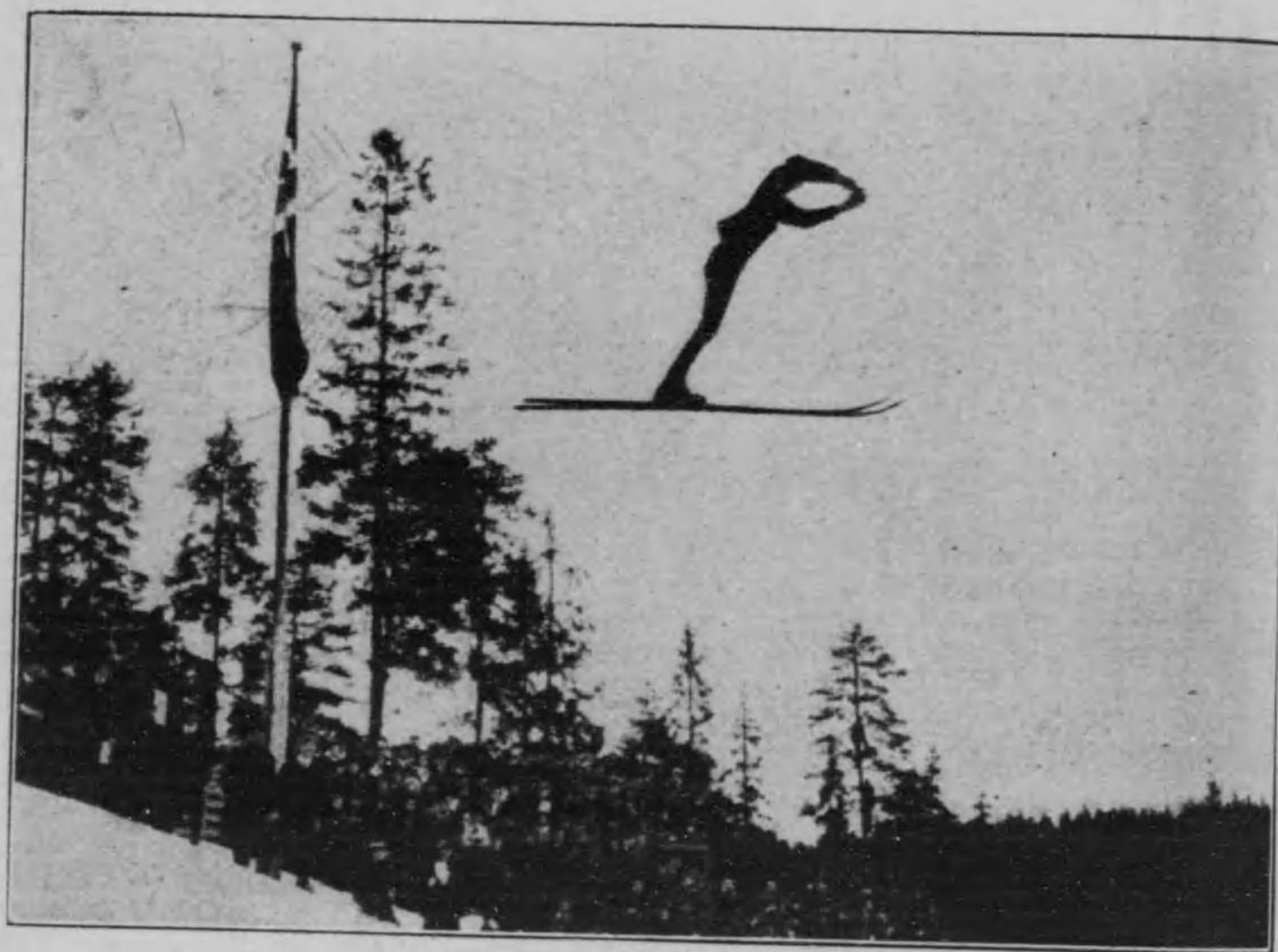
『この體育館を青年の健康と幸福の爲に大學へ寄附す。祖父ジョージ、ウイリアムス』

としてありましたのをみました。祖父のジョージ、ウイリアムスと言ふ人の愛孫が餘りに學問のみに凝り固まつた結果、卒業後間もなく他界したので、その弱々しい愛孫の死からジョージは獨力七十萬弗を若死いたしました愛孫紀念として大學へ寄附し、青年の早死の悲しみを大學へ來る

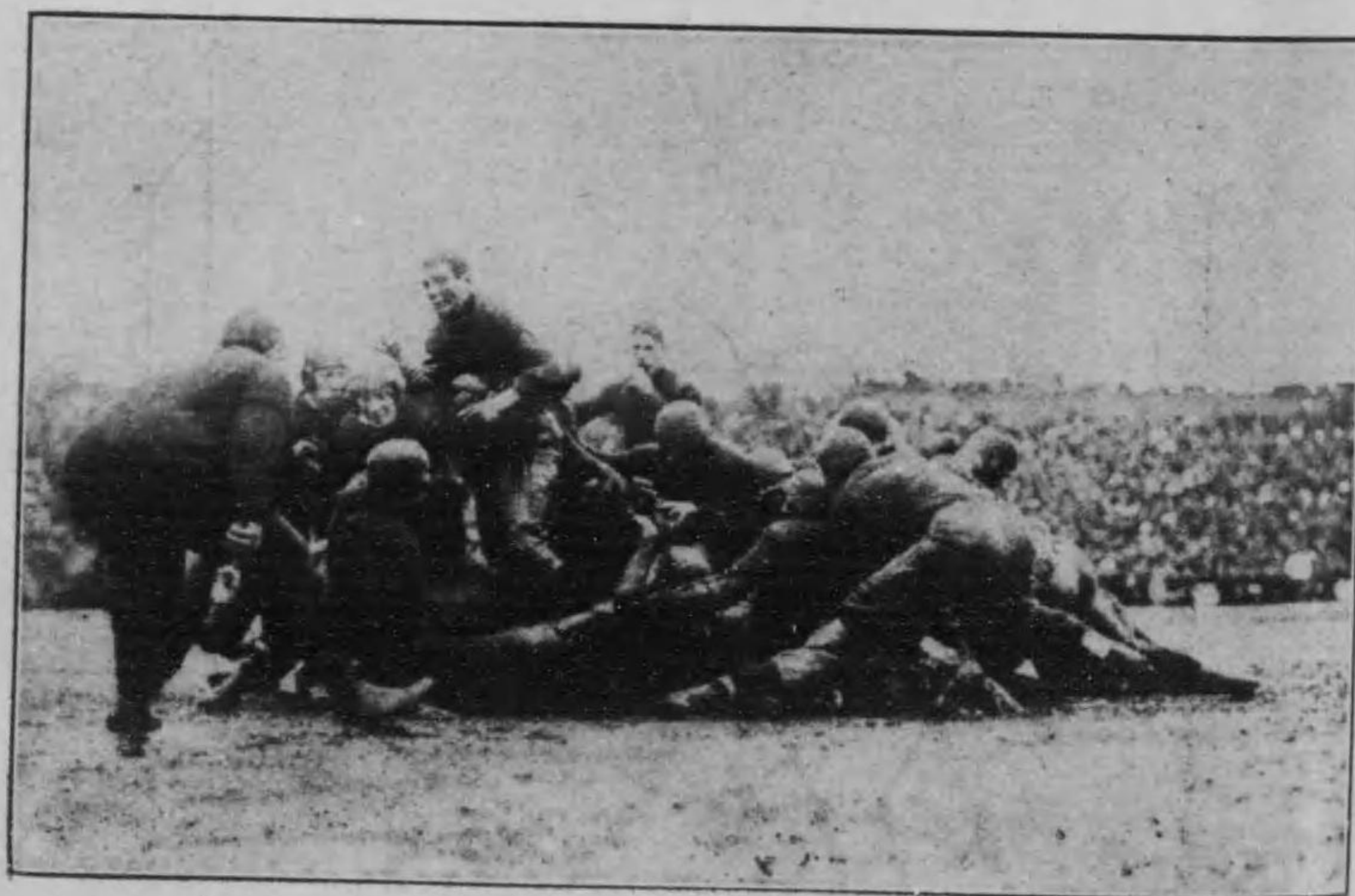


總ての若い人達に注意してやりたい爲に體育場を作つたのだと聞き傳へました。美しい話ではございせんか。運動競技を尊びます反面には大學では選手になる爲には六十五點以下の成績では許さない規定を勵行して運動と學問の併行を期すのみか、大學の選手は青年時代の最も光榮ある得意の壇場として羨望の的であつて、對校競技に勝つた時など大學の鐘をゲームが終るとすぐ鳴らして烽火を擧げ、校庭の中央に集まつて一年生は白いシイツを被り、二年生は顔を赤々と染めて、三年生四年生は思ひ／＼の假裝して全校の學生が長蛇の如く連らなつて大學の音樂隊を先頭にダンスをやつて祝勝式を擧げます。このダンスを大學では呼んで長蛇舞踊—Snake Dance—と申しておりますのも蛇の様に長くなるからであります。ダンスが終ると選手一同を烽火を背にした中央の高い壇の上に羅列させて、ひとり／＼功名話を喋舌らせ選手の名を叫んで拍手喝采をして祝福してやります。

過ぎた秋、千九百廿年の蹴球シイズンはプリンストン大學對ハアバード大學の蹴球競技が千九百拾六年以來歐洲大戰の爲に中絶してゐた爲とその前年即千九百拾九年のブ大學對ハ大學十對十の對競技で別れてゐた理由で、會一會の人氣を呼び亞米利加全州がその決戦の日を待ちあぐんでおりました。元來亞米利加の大學對抗競技は技術の巧拙とか競技の勝敗が興味を中心



スキイの雄壯さ



力と力との闘ひ——蹴球ゲーム——

であつても、それを超越した大きい愛校心の現はれが痛切な興味であつて、倒れるまでも闘はん  
哉の戦闘的精神が若いヤンキイ魂と結んで、熱を沸かし血を騰かせてそこに競技の三昧境が湧然  
として現はれてくるのでありますし、プリンストン・エール、ハアバアードの如き所謂東部の三  
大大學—Big three—の對抗競技は野球にせよ蹴球にせよその競技は謂ふまでもなく  
競技化された三大學の學風の表象で、真烈な運動精神 —Sportsmanship— が躍動してゐるので  
ありますから、一九二〇年の秋ハアバアード大學對プリンストン大學の蹴球競技からは忘れるこ  
との出来難い印象を享けたのであります、その印象記に先立つて過ぎたハアバアード對プリン  
ストンの蹴球對抗競技の過去の記録を見ますと、次の如くであります。

Harvard 對 Princeton 蹴球競技記録

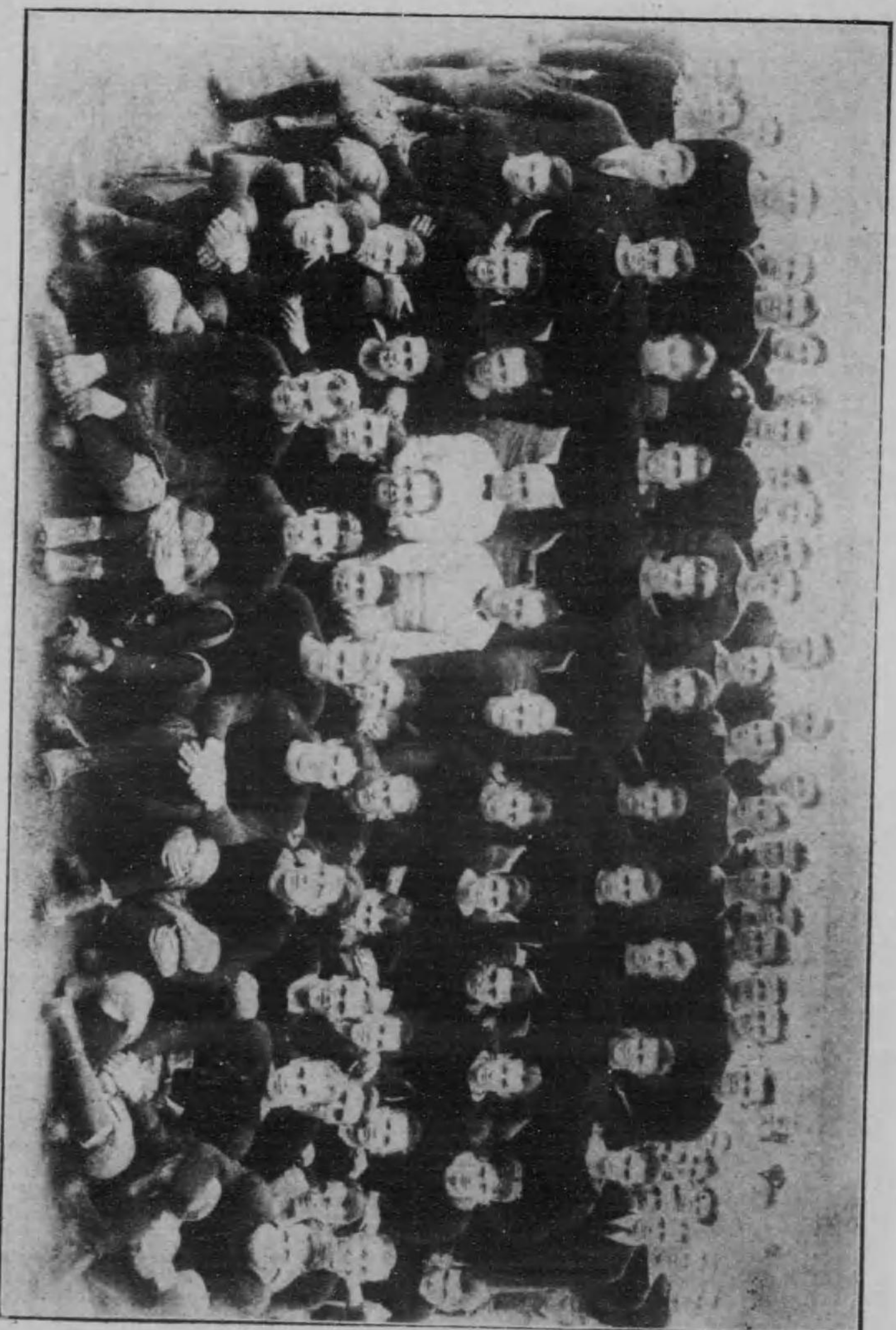
1877—Harvard, 1 goal, 2 touchdowns; Princeton, 1 touchdown.

Princeton, 1 goal, 1 touchdown; Harvard, 2 touchdowns.

1:78—Princeton, 1 touchd. win; Harvard, 0.

1873—Princeton, 1 goal; Harvard, 0.

- 1880—Princeton, 2 goals 2 touch-downs; Harvard 1 goal, 1 touch-down.  
 1881—Prince on, 1 safety Harvard, 1 safety.  
 1882—Harvard, 1 goal, 1 outchdown Princeton, 1 goal, 1 touchdown  
 1883—Princeton, 26; Harvard, 7.  
 1884—Princet on, 34; Harvard, 6.  
 1885—No game.  
 1886—Princeton, 1; Harvard, 0.  
 1887—Harvard, 12; Princeton, 0.  
 1888—Princeton, 18; Harvard, 6.  
 1889—Princeton, 41; Harvard, 15.  
 1890-1894—No games.  
 1895—Princeton, 12; Harvard, 4.  
 1896—Princeton, 12; Harvard, 0.  
 1897-1910—No games.  
 1911—Princeton, 8; Harvard, 6.



一九二〇年のプリンストン大学のフットボール団

- 1912—Harvard, 16; Princeton, 6.  
1913—Harvard, 3; Princeton, 0.  
1914—Harvard, 20; Princeton, 0.  
1915—Harvard, 10; Princeton, 6.  
1916—Harvard, 3; Princeton, 0.  
1917-1918—No games.  
1919—Princeton, 1; Harvard, 10.  
1920—Princeton, 14; Harvard, 14.

一八七七年より一九二〇年に到る迄四十三年間引續いて大競技が兩大學の間に行はれ、そのあひだ聊々も運動競技の公正に恃るやうな競技はなかつたのみか、一八八三年以來英國のラグビー蹴球を所謂眞の亞米利加蹴球—American Foot-Ball—に改造してからは益々隆盛を來たしました。が、一九〇〇年にはゐつてからは一時その競技が大學の關係上中止せられ、一九一一年にプリンストンが蘇つたやうにハアバード大學を一度を破つたのみで、あとはハアバード大學は全米の蹴球競技界の覇者として猛威を恣にしてゐたのであります。

一九一一年の雨に濡ひ勝ちの秋も特にプリンストン大學の蹴球競技の日にはからつと晴れて、永い／＼あひだプリンストンが幻の想ひとしてみてきたことが現となつて現はれたのであります、謂ふまでもなく一九一一年の十一月の第一土曜日の午後はプリンストン大學が夢寐の間も忘れ得なかつた仇敵ハーバード大學を一蹴して見事 *Big Game* の大頭目に始めてなり得た日が來たのでした。

日は過ぎました。

時もたちました。幾年かのあひだいつも／＼秋はプリンストン大學には愁ひの日ばかり續いておりました。最早やプリンストン大學はハーバード、エールの兩大學を打破つて二度と再び蹴球界の榮冠を手にし得ぬかとさへ諦められてきた程に時は過ぎておもしろいのが、一九一九年の秋、それは歐洲大戰あけの初めての秋で、その秋には久振りでの大競技となつてハーバード對プリンストンの蹴球競技は十對十の奇しき數字で現はれて、力を竭くした兩雄は甲斐の信玄と越の謙信を真似て兩々相對峙して下らなかつたのであります。

ニュウジエルシイ州の丘陵の多い大學街を暮れてゆく晩秋冷氣に外套の襟たてて、若い元氣



ハーバードの競技場近くにて



Harvard對Princeton.

のプリンストニアンに伍してボストン市へ急いだ旅は、一晝夜の遠路を物ともせずハアバアード  
大學の競技場へゆく蹴球競技見物のためでございました。紐育市に一泊する間、大都會の秋を青  
村の路——グリーンヴィレジ、ストリート——の旗亭で伊太利料理の奇しき味を楽しみ、ハドソン  
河の何番かの波止場からでる汽船へ漸くまにあへば、船からはひつきりなしに、プリンストン、  
タイガア、ララ、タイガ、ララと、大學愛養歌が合唱されてゐるのであります。ひと宵、船室  
で安眠すれば、翌曉近くボストン市へ着き、呼び賣のどの新聞にもハアバアード大學の表象であ  
る獅子とプリンストンの猛犬が蹴球を掴んでゐる漫畫カリケチュアを掲げ、大きい小さい商店の軒先飾窓一様  
に海老茶のハアバアードペナントブラックアンドオレンジか黒と橙色のプリンストンの校旗を飾りつけて最負最負を  
語つてゐました。道ゆく人はその襟飾ネクタイに、婦人は帽子外套にスカートに、それ／＼ハアバアード  
彌次ファンかプリンストン最負かを表示して、ボストン全市が擧げてこの二大學の對抗競技の景氣をい  
やが上にも煽りたててゐました、一九二〇年のハアバアード大學の蹴球チームはプリンストン大  
學と俱に東部の強勇として末だ土つかずの優勢を保持し、ハアバアードはセントア大學と際どい  
競技はしたもの敗つてはゐますし、プリンストンはアンナポリスの海軍兵學校の若猛者を一蹴  
し去り、全米の大學中最も獍犴なチームとして木曾義仲の様な戦陣を以て奇勝を博すウエスト、ヴ

アジニア大學に前年の仇を報じ、眼さすは新英蘭州のジョン、ハアバアードの堅城とエールの堅壘だけ、これ迄勝誇つてゐたんです。

日は快く晴れて秋氣更に覺えず、劍橋はチャレスの清流近くのソルチャース競技場へは人の潮が流れ込んでゆき、折りしもハアバアードの大學音樂團がタクトを振る指揮者を先頭に校旗を輝かして繰り込み、右側のスタンドに陣取れば、續いてプリンストンの大學音樂隊と應援團は左につき、校歌の交歓からエールを叫び、競技の最高潮は既に競技場に漲つてゐました。

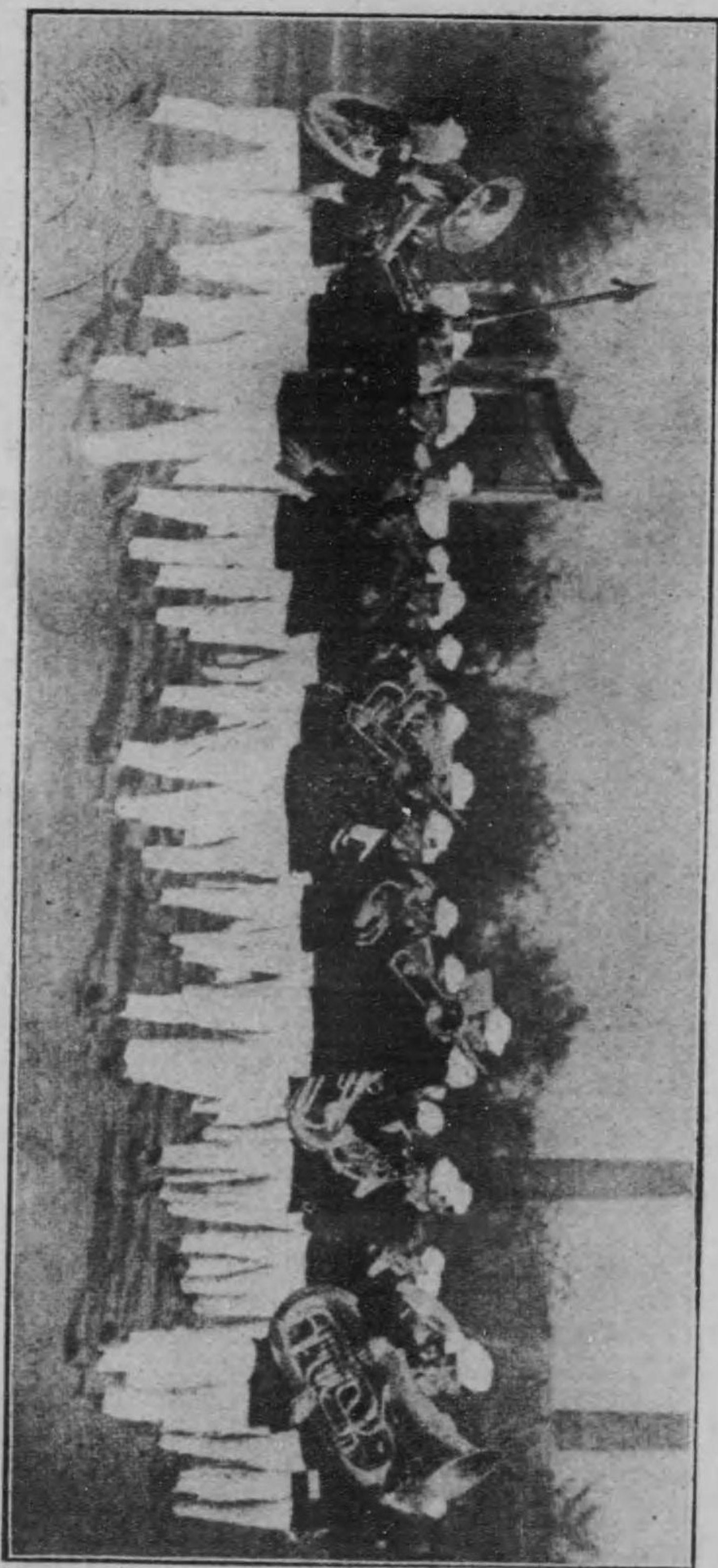
“Rah rah rah! Rah rah rah!”

Rah rah rah! Harvard, Harvard,

Harvard!”

と、ハアバアードの應援團は一齊に叫ぶと同時に、手にするハンカチは白と赤で見事にHの一字を大きくスタンドに現はしました。その美しさ、その微妙さ、この應援ぶりを拍手以外一切の聲援を禁ずと運動場の入口に掲示する日本と比べて文句のつけやうがございませぬまい。

プリンストンは今静まり返つて微動だにみせぬのみか、敵の應援振の美しさを心から祝ふ拍手を送りましたのは恰も箴を敲いて敵も味方も那須の與一が勳功を賞めたゝえたやうに。やがて



Harvard大學音樂隊

プリンストンの chairman leader が潮時みはからつて、舉動と共に相圖すれば、

“Ray Ray, Ray, Tiger, Tiger!”

Siss, Siss, Siss! Boom, Boom, Boom!

Ah, Ah, Ah; Princeton, Princeton Princeton!”

と聲々は競技場の圓壁に反響し、誰も彼も我を忘れ果てて競技の高潮に酔ひ、芝毛もスパイクの痕に薄ら踏み躪られた競技場では兩大學の選手が競技前のブライクス練習に餘念なく、得點記録板は電気仕掛の素晴らしいものではあるが、未だ何れとも示されてはゐません。山雨樓に満ちて正になんとか申す形容辭の外此場合を充分に申上げる語辭を持ちあはせてはおりません。

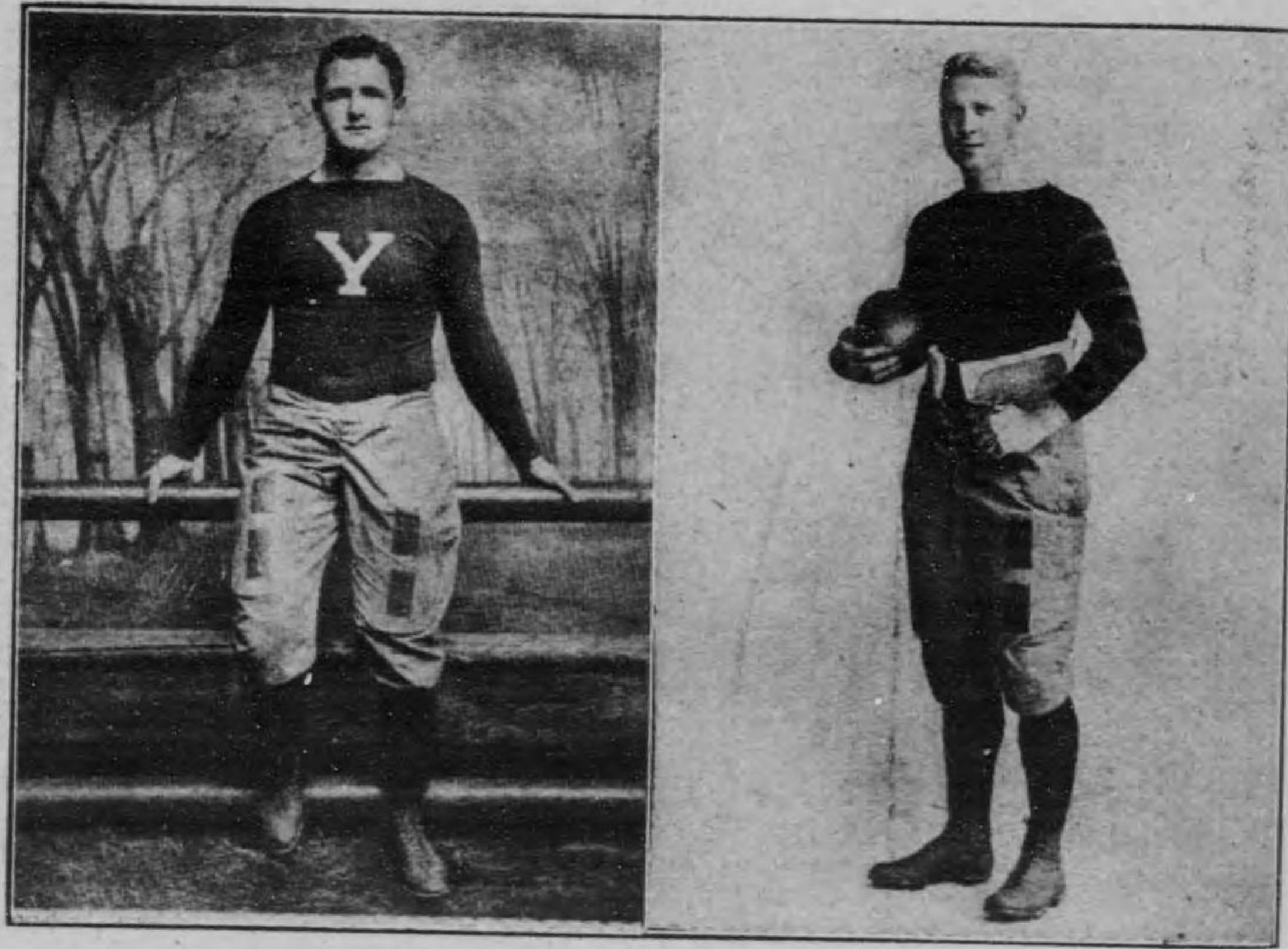
思ふに蹴球には野球庭球競漕と全く違つた競技的心理特徴があるとは信じられませんが、競技と競技者と競技を見る人との三つが一つになつてしまつて、間一髪を容るるを許さぬ團體的意識が最も徹底的に響くのでありませうが、團結的力量的驚くべき活躍のうしろには個人的力量を犠牲にする微妙性が働らいてゐるので、野球競漕に見られぬ興味があるでありませう。命を的にしてやる運動競技に始めて眞摯性が現はれてきて、そこに一脈の鮮光か射してゐます。蹴球の何たるかを知らない佛蘭西からのさる大使が亞米利加の新聞記者に、



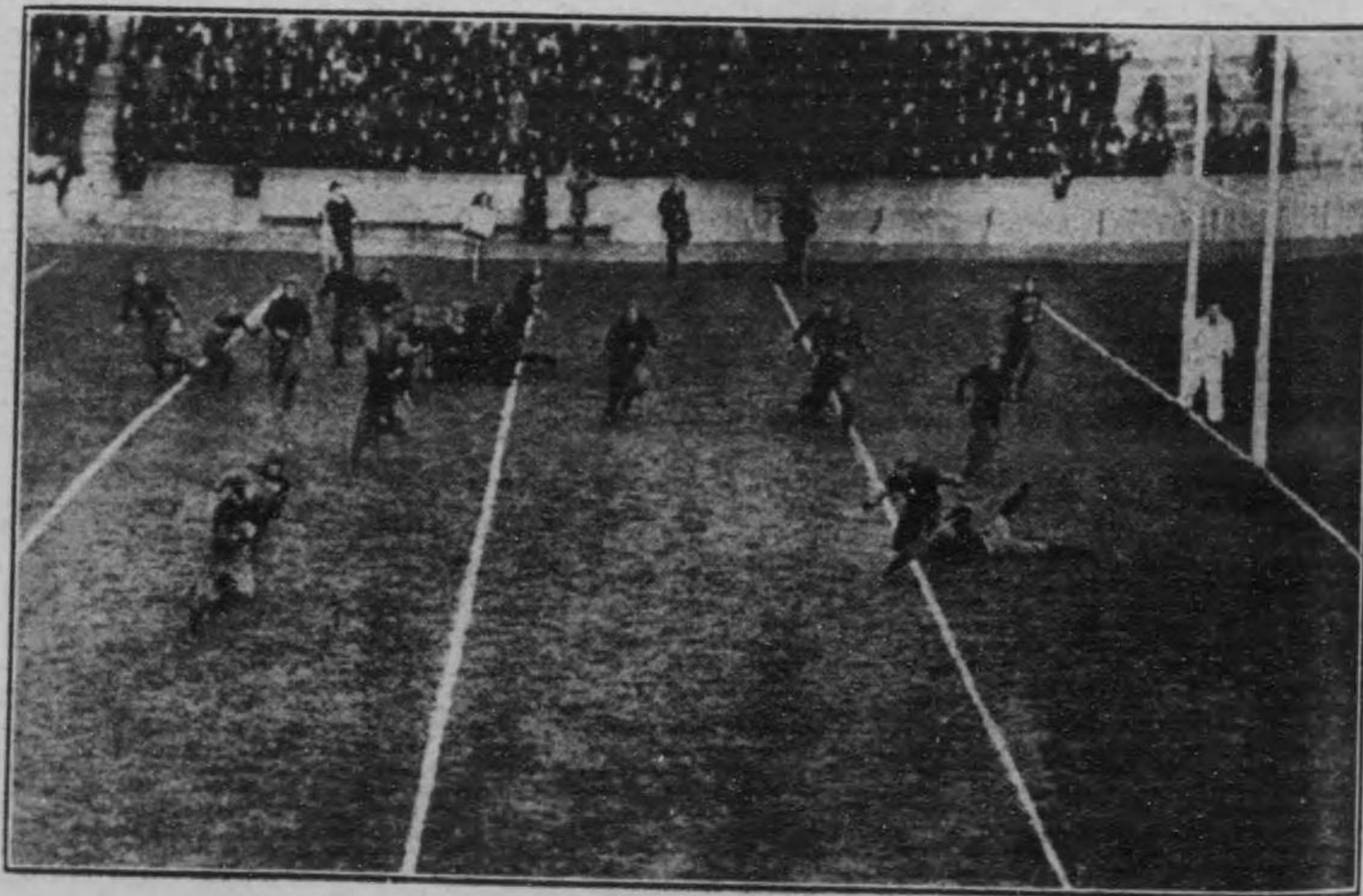
「フットボールとはどんなものか。」  
と訊ねたら、その記者が、

「十一人の集合團體が一塊になつて、他の十一人の一塊とぶつかりあふのがフットボール」と答へてやつたさうだが、大學の蹴球競技は大學と大學とが闘ふためにぶつかりあふ大きい競技であります。

そのハアバードとプリンストンは一九一六年より一八年までの二ケ年間は戦争のために中止されてゐたが歐洲大戰後第一次の蹴球競技としては十對十の對ゲームデ秋を別れたのですから、一九一九年の秋の更めての決戦もその競技の約一時間半は殆んど感激と脅威の連鎖で息つく暇もなかつたのでしたと申さねばなりません。斯くして米國の大學對抗競技の競技的感激はたゞ勝利の女神と敗戦の惡魔がひく競技の糸によるもので、一九二十年のハアバード對プリンストンは矢張り十四對十四の對記録を残した大無言劇として終つてしまつたのでした。言ひ現はし難い情調——負けなくてよかつたと云ふ諦めと、勝たずに惜しいことをしたと言ふ哀愁をませくにし——を抱いて、競技の嚴肅な姿を始めて味つた氣心地でボストンの市街へと馳り去つたのであります。



キヤラハン兄弟  
(右)プリンストン  
(左)エー・ルン兄弟



「ゴール近し」蹴球の妙味

ハアバアード對エール、エール對プリンストンの對抗競技にも申上げたいことは山々ござい  
ますが、エール對プリンストンの一九二〇年の蹴球競技に就きまして、エールのキャプテン、キ  
ヤラハンがプリンストン大學のキャプテンのキヤラハンの兄で、而かも弟のキヤラハンが兄を向  
ふ週はして見事二十七對零の堂々たる競技であつたことの手縁を不思議に感じます。此の競技  
の時兄弟の名選手をもつ老ひたる母親は競技のなかばにハンケチで顔を掩ふてしまつて、競技を  
正視し得なかつと新聞は傳へておました。此場合の老ひたる女親の心情はよくおわかりのことと  
信じられます。競技が終つて、その兄弟が睦しげに握手した時には拍手喝采は競技場爆の上でキ  
ラハン兄弟に祝意を表してゐる飛行機の爆音と共にしばし競技場を振り動かししました。

ハアバアード大學對プリンストン大學の一九二〇年の蹴球ゲームは十四對十四で最も昂奮した  
大競技であつたと同じ意味で、ウエストポイントの陸軍大學とアンナポリスの海軍大學との所  
謂 *Navy and Army* の紐育ポログラントの大競技を推奨いたしたいと存じます。

日本などでは陸軍對海軍の對抗競技などは今の處夢にもみられませんでせうが、而し米國では  
陸軍對海軍の蹴球競技はエール對ハアバアード、ハアバアード對プリンストン等の大學チームに

劣らぬ人氣と熱烈さを集めて蹴球シイズンの華形役を務めております。なにしろ一九一九年には歐洲大戰後の第一回の陸軍對海軍の蹴球ゲームであるだけに、海軍側ではウイルスン内閣の雄者ダニエル海軍卿を應援團の音頭取として紐育、ボストン、ノウフォールクあたりに碇泊する軍艦の水兵が、海軍負かしてならぬものと海軍兵學校の<sup>ナイアブルカデミー</sup>チームの後楯となつて紐育へ押し寄せてまゐりますれば、陸軍でもこれに負けじとベイカー陸軍卿を押したてて在郷軍人まで罷り出でて、東西に陣取つて、「アーミー」「ネビー」の彌次ぶりにウイルスン大統領までもかけてくると謂ふ大仕掛でございました。二百里も離れてゐる處に引込んでゐるものもペンシルベニア鐵道に揺られ／＼て紐育までゆき命がけの切符でみるんですから。海軍の聲援のやりかたは實に巧妙で、陸軍は競技でも聲援でも一輪を贏してゐませう。

昨秋は珍らしく東部のダートマス大學が戦塵によごれた戦装そのまゝで、大西洋沿岸から大平洋沿岸へ大陸横斷遠征を決行いたしました。大平洋岸の覇者ワシントン州立大學を見事屠つて東部諸大學のために氣を吐きました。ダートマス大學やペンシルバニア大學、コーネル大學は強いと申しましたが第二流の蹴球チームで、ハアバード、エール、プリンストンの如く精練されたデリケートな競技行爲よりも寧ろ野武士的の勇猛邁進を緯とするプリミティブの匂ひがあ

ります。野趣横溢で其競技も荒撃の粗雑な刻みがありますのも面白いもので、蠻カラのものにはダートマス對コーネルの競技は大持でございます。

切迫戦と申せば、アメリカン蹴球史上特筆す可き大切戦はピツバーク大學と其歴史的の敵ワシントンジエハアソン大學の競技で、此の競技と謂ひエール對プリンストンの大激戦と云ひ、更にハアバード對エール、エール對ボストンカレッヂの競技はアメリカン蹴球競技の今後の趨く可き傾向を鮮かに語つてゐるもので、亞米利加蹴球の勝つ可き戦法が決定的になつてきてゐることを暗示されてゐるやうに感じられるのであります。それは今までの亞米利加蹴球は選手を重くして體重と體力とを厚用した重砲的攻撃が戦法の主眼でありましたが、最近あまり體重の大きい指數をもつたチームは軽い出足の駛いチームにしてやられ勝ちなのであります。プリンストンがエールを破つたのも、海軍が陸軍をやつつけたのも、オハイオ大學が中西部諸州の覇權を握つたのも、南部の勇猛チーム、木曾義仲のジラジア、テクー——ジラジア高等工業學校がアラバマ大學を二十一對十四で大破さしてゐるのも、皆軽い出足の駛いチームが體重の大きいチームを打ち破つた實例で、擧げてくれれば無限にございますが、此等の實例に由つてみても今後のアメリカンフットボールは愈々其競技の妙味が地上の戦闘から脱して、空間的戦法即ちラクビーの特徴を

採り、バスケットボールの長所を利用して、小粒でびりつとしたやりかた即ち四ツの取組相撲よりも立會の出足の遅速で勝負をきめてかゝる氣合ひ勝負で終始してゆくのではないかと思はれるのであります。そうすればアメリカン・フットボールに對しても我々日本人が日本人の短軀を利用してやがて彼等と對抗する競技の形式を生んでくる日がありはせぬかと私は考るのであります。

勿論英國のラグビー蹴球にも捨て難い趣はあるも、其デリケートな競技にアメリカ魂がトムブラウンの時代から織り込まれて、渾然として統一あるアメリカン蹴球になつたんですからラグビー蹴球にまさる秀でた點をアメリカン、フットボールに認めねばなりません。而かも勇猛にして且秩序ある大競技が米國のあらゆるハイスクール、カレッジ、ユニヴァーシティ乃至は都市チームとしてまでも、秋の運動競技界の代表的競技となつてゐて、これによつて青年の精神と元氣がぐんぐんと力強く練られてゆくんですから羨ましい次第です。今でも秋、而かも大陸性の秋が全く秋晴れと冷氣を覺ると云ふ日頃、蹴球の競技に身も魂も忘れて勝つか敗れるかに熱狂する大學時代をほんとに心から享樂しておきたいと思つております。

蹴球の秋、秋の米國の大學生活、これ程快よい響を耳に傳へてくれたものを知りません。勝つ

た夜、大學の校園の歡呼は歳も老ひもなにもかも忘れて悦べと、たのしい學生の享樂時代の表象でございます。

なす可きものは秋の米國の大學生活。而かも數十年來の仇敵を慘敗せしめた大學の蹴球競技のその夜の悦びを味はねば大學生活の眞諦に徹したもとは言ひ得ないのでありませうか。

プリンストン大學ではエール、ハアバードとの二大學の蹴球競技の前夜は大講堂で學生大會を開き、選手激勵をいたします。その演壇では先輩各部選手の熱烈を極めた激勵演説があり、校歌の合唱、選手の答辭等があつてからエールなりハアバードなりの學生音樂團とプリンストン大學の音樂團とが音樂競技として大演奏會があり、蹴球シーズンの最終のゲームはエールとの大競技で、競技は隔年にホームグラウンドで行ふことになっております。そをしてその宵は大舞踊會が學生體育館で行はれ、歡樂の巷が大學の内、パノラマのやうに現はれ、舞踊場では年若い人々が胡蝶の浮れる如く、ダンスは三時四時の曉までも続きます。

特にプリンストン大學の蹴球競技の挿話として申上げたいのは、ボンファイア—Bon-Fire—のことでございます。

この慣習は數ある蹴球儀式の最も快よいもので、多くの大學が大同小異のセレモニーをも

つておりますが、プリンストン大學のは年來の仇敵エール大學を打ち破つた戦勝を祝福する爲に行ふもので、ボンフワイアは其字義が示はすやうに、其季節を飾つた運動場の中央にあらゆる不用の木片を山と積んで、之に火を放つて燃し上げるのであります。勝つた全校の氣焔は炎々と燃え立焔を取圍んで、欣びの凱歌は天も撼げよと許り高唱され若い血潮が勝利の喜びに沸り立つて、屹然として天そより立つ大講堂のナツサウ、ホールの時鐘塔が此の祝勝火に紅く氣高く照り映ゆる時、誇りと歡喜に我を忘れた幾千の學生は、此ボンフワイアを圍んでダンスに興じ、應援歌に喉を噎らし、果ては市中を練歩いて、市民と共に其の歡びを交歡するのであります。ボンフワイアに燃すべき木片は、其季節の始め頃から一年生が全市に互つて貰ひ集めて、愈祝勝の日には自動車で搬び入れるのであつて、遠が米國學生がやりさうな面白い大學慣習の一つでございます。

### — 冬が近づいてくれば —

亞米利加の大學生々活の冬は東部では十月の末に加奈陀風がみぞれを持つて来るその頃からそろ／＼初まるわけですが西部の方では、如何に大陸の秋が短いとは言へ、十月の末と申しまし

てもまだ南部特有の朗らかな空をもつた秋らしい秋の大學生々活をやつて行けます。

氣候が大陸である丈に、春夏秋冬の四季が劃然と區別されて居ることは、趣味と享樂とを本位としたカレッジライフには寔に都合の好いことで、夏の生活にも、春の生活にも、忘れ難い楽しみや長閑さはございます。然し冷い寒い寒い大陸の冬でも、大學生生活と言へば、相も變らずの賑やかさを味ふことが出来ます。

何とも言ひ知れぬ底冷がして来て、吹き互つて居た加奈陀風が、日が傾きかける頃からはつたり止んで来れば、大學の構内もしんと静まりかへつてまなりますので、外套に包まれて、夜長の讀書の疲れを慰める爲にもと、大學の賣店からサンドウィッチやチョコレートを購ひ込んで部屋に歸つて来れば、完備した大學の寄宿舎だけに暖爐の側には石炭がバケツに幾杯も用意されて、二三の友達と言ふよりも寧ろお仲間と言つた方が良い感じのする連中が既に火を圍んで、笑ひさざめいて居ます。一人がファイと立つて部屋のピアノを弾き出せば、言ひ合した様に一同が聲を揃へて校歌を歌ひ出したり、其時折の流行歌に足踏み鳴らして浮れだします。若しもそれが、バスケットボールの對校競技で對手の大學に勝つた晩でもあらうならば、一つの部屋から洩れ来る勝利の歌は、光が傳る様に早くも全寄宿舎に擴つてあの部屋でも此の部屋でも、机を叩くやら、

喇叭クラリオネットを吹き出すや、或はマンドリンを抱えたりして歌ひ出すのです。何時しか一人の學生が音頭取となつて一階でも、三階でも六階でもカムオンボーイスと一聲かければ、方々からゾロゾロと集つて来て、

レー、レー、レー！

タイガ、タイガ、タイガ！

シス、シス、シス！

ブーム、ブーム、ブーム

アー、アー、アー

プリンストン、プリンストン、プリンストン

とカレジチエアを唱へ出します。若し亦此の晩にちらちらと白いものでも降り出して来るならば、誰れ言ふとなしに「スノイング！スノイング！」と雪の降つて来たことを欣び合ふのです。なぜ雪降りがこんなに悅れしいのでせうか。何しろ全校の學生殆ど全部が、所謂寄宿舎生活をして居るので、雪が降つて来ればとて通學の不便を思ひ遣るにも及びません。雪降りと言へば恐らく冬の大學生活の開劇は、雪合戦と氷滑りとから始まるのです。愈々雪が降り積り、水と

言ふ水は凍りついてくれば、學校の構内にスケート場として造られてある池の面も、一面に鏡如のくに張り詰められます。朝起抜けに、寄宿舎の出口からスケート靴を着けて、坂一つを越えて下れば、そこには元氣のいいヤンキイ共が、朝飯前に一汗かくつもりで右往左往に滑り廻はつて居ます。中には、着けて居たオバースエターまでも投げ出して、薄いシャツ一枚になつて、ホツホツと熱を吹いて居る威勢の好いのもあり、七時から八時半迄の朝食時間に身仕度をしてそれから教室に出て行くのです。

午後になれば、降りしきる雪の中を、學生乗馬倶楽部の連中は、雪見の遠乗と洒落込んで、鞭の音も勇しく出掛ける者もあります。或者は白い雪の中へワザ／＼赤い色で染めたボールを持ち出して雪中のゴルフに出掛ける變り者もあり、體育館の中では十哩のラングレースが行はれたり、バスケットボールは勿論、水泳場では、日本人の吾々には眞夏にだけと思はれて居る游泳が、戸外では零度以下何度と言ふ極寒の時分にも行はれて、ドブン／＼とダイビングの練習に餘念もない者もあります。

夜になれば大學のスケート場では篝火を焚いてアイスホッケーが行はれて居ます。なかには寄宿舎で腹にうんと詰込んで、雪の降り積つた田舎道を、自動車のドライブに出掛けて、雪中突破

と言ふ活動寫眞あたりにありさうな快味を味つて來る連中もあります。

一體日本の冬が特に東京の冬が、餘に寒くはないと言ふ事が東京の學生生活に一段の光彩を添得ないのではないかと思はれますが、此位の寒さに辟易して炬燵などにもぐり込んで、安價な戀愛小説カルタなどに耽けつて居るに至つては、先以て言語同斷と言はなければなりません。そりや日本だつて、雪中登山だとか、スキーだとか、遠漕、寒稽古だとか言ふ冬の楽しみもありますが、兎もすれば、部分的に限られて居まして、一般に、大學生の冬の生活といふものが何となく墮落して居るやうな氣がしてならないのですが、米國では、冬は冬だ、飽くまでも冬らしく健かに楽しみ得るといふことを心から感じて居ます。

先づクリスマス前後になれば、試験も終つてしまつて、學生は自由な氣分で冬の生活が楽しくなつてまわります。冬の大學競技の重なるものはバスケットボールでせう。これが狭い所で、即ち體育館の室内で二つの大學チームが、全力を擧げて競技するのですから、競技其のものも徹底的である上に、其の應援が頗る猛烈を極めたものであります。



紐育市中央公園の水滑



ハアバアードの雪中ホッケー

バスケットボールに次いで水泳でせう。それも其の設備が完備して居るものでは、水泳槽を圍んで楕圓形の大きなスタンドが設けられて居ります。

此の水泳の對校競技も、エール對ハアバード・プリンストン對ペンシルベニア、コーネル對ダートマスなどになると何しろ一弗の入場券が五弗迄値上げされて來るといふ景氣です。勿論學生委員會は定額の切符を定額以上に高く賣ることは嚴禁して居るのですが、事實は前述の様な法外の値上がされるほど盛大なものです。

拳闘は大學競技としては認められては居ませんが、クラス對クラスの競技として學校の人氣を沸かせて居ます。元來ボクシングが所謂體育としては價値あるものであつても、競技として、デンプシーとかカルパンティエとか言ふやうな國際的名聲を呼ぶ拳闘家の大競技が、ニューヨーク附近などで行はれて居ますから、大學の競技としては餘り認められても居ませんし、それに少々残忍な點から言つても隆盛になることは希望して居ませんが、しかし見るからに惚れ惚れする様な肉體美を持つた若者が挑み合ふのですから、勝負を決するといふことに非常な興味を持つて居る米國人は、其の手段の残忍だといふことなどは更に念頭に置いて居ないらしいのです。



冬の大學生活、思ひ出して見ると仲々面白いエピソードがあります。

曾て少時く在學してゐました南部のある州立大學では、二年生が非常に威張る因襲が傳つて居まして、其の起源は何時から發したかといふやうなことは分りませんが、何でも大分古いことださうです。或年の秋のことでした、一年生對二年生のフットボールゲーム、クロスカントリーレース、及びローンテニスマッチがあつたのですが、ところが、此の三つとも入學したばかりの一年生の爲に兄貴分の二年生の方が敗けてしまひました。二年生はさんく／＼な目に遭つたのでした。

心外に思つた二年生は、どうかして其の腹癪に一年生を苦しめる事もがなと、色々と考ひ抜いた揚句、やう／＼考へついたのは非常に無邪氣なことで事實其の風習が犬糞的な復讐として現はれて來たにしても、悪い感じはしないのです。一體米國の大學では、學生委員會といふものがあるつて、それが學生々活に關する全班を指揮監督して居るのですが、二年生は一年生に對して大學の構内に於て學生々活上正しい事であるならば、命令し、或は強制する兄貴分の權利が此の學生委員會によつて認められて居るのを幸として、彼等二年生は、一年生に對して命令して曰く「クリスマス後二月の中旬迄は一年生に限り校庭に於て帽子を被ることを禁ず」といふ次第です。何

しろクリスマスから二月中旬迄と言へば、日本で言ふ大寒の眞最中ですから、寒さも最も強烈な時節です。

そんな時に哀れむべき一年生は、雨が降つても、雪が降つても、恐らくは槍が降つて來ても、構内に於て帽子を被つて歩く事は出來ないのです。此の風習が未だに傳へ残されて、クリスマスが過ぎると、帽子なしで校内を寒さうに、しかも神妙に歩いて居る一年生諸君を見かけます。雨や雪が降つても日本と違つて傘は持たない連中ですから、外套を頭から被つて、教室から寄宿舎へ、寄宿舎から食堂へと歩く所謂カレッツジカストムが傳はつて亦それに一年生は甘んじて居るのです。

所が其の一年生が、或る場合には、二年生を目茶苦茶にブチ負かして、何時でも上級生を笠に着て威張り散らす二年生を打負す時があるのです。その時こそ正に雪の日の第一の壯觀でせう。

冬の雪の日の第一日に於て、全校の學生、單に學生ばかりでなく教授も、教授の妻君も町の人も、乃至は態々此の壯觀を大學へ見物に來る父兄達が待ち構へてゐる處で雪合戦が行はれるので、其日こそ何時もフレッシュ、フレッシュといぢめつけられて居た恨みを二年生に對して晴らす時なので、大學の紀念講堂を境界として、二年と一年が東西に分れ、兩方から、指揮者が出て來て、お

互に握手をすると、最も目覺しい雪合戦が始まるのです。追ひ詰められて、大學の圖書館の中に逃げ込むものもあれば、寄宿舎の非常梯子に駆上つて首をすくめて居る袋の鼠もをります。

## 雪の洗禮

柏、榦の落葉が枯芝に雜つて細かく數多くすき／＼とした梢を見ても、葉の一つだにない白樺か細い幹、白く霞ませのもの、榦の乾き切つた實を掌にのせてみても冬の寒さが切に感じられるやうに、大學の冬は校庭の柏の樹、榦の葉、白樺の黄ばむ頃から始つた降誕祭から三月上旬までは、朝、大學の十八番塔からの「朝の鐘」で起されてステイムの鐵管を氣にしてみたり煖爐に薪を投げ込んだりして寒むがらねばなりません。

呼んで「朝の鐘」と謂ふのは誰がつけたかい、名稱でせう。その由來縁起は大學のこと、云へば素敵に詳細を極めてゐるオフィシャル大學な一覽表をみても發見し得られないから、更に知る由もありませんが、その朝の鐘が鳴り渡ると一齊に街のメソヂスト、プレスビテリアン、ハイス

クルと鐘から鐘と、鐘を呼び起し、呼び起された鐘の響は、寂を破つて丘の上空を縦横に馳り無盡に驅つて、森を越え林を貫き寄宿舎の窓を敲き、此丘に住むものは此に起され、大學總長も教授達も此の鐘で起きるのです。學生達は勿論この鐘で床を蹴つて起き上る可き筈であるもの、曉の夢中々にさめやらぬやうであります。

『一體此處の鐘は早や過ぎる』

『俺のハイスクールでは三十分遅かつた』

『ひと朝でいゝから鐘がこわれてくれるといゝな』

『ボイスの奴め急病で死ぬと？』

ボイスとは朝夕の鐘をならして學費を免除されてゐる自活學生で可愛想に鐘の憎みが温良な鐘樓守にまでたゞり、こんな會話が對ひ合ひの寢臺でとりかはされて朝は起きるまでがたのみで、學寮は各部屋が大概二人宛、處によつては四人仲よしが起臥してゐるのもありませうし、新しい學寮は寢室と自習室とが別々になつて十分遺憾のない設備ですが、古い學寮にはその區別もないものもありますが、無理もないことで古い學寮は二三年前の創建のもあるとのこと御座います。

朝の食堂は七時半から八時半までですが横着なジュニア(三回生)シニア(四回生)は馴れたもので八時二十分頃に起きて洗面もそこそこ猫の真似をして食堂へとびこんでゆき、八時十五分からは食堂にゐるものは、自ら立つて水をとリパンを貰らはねばならぬのは食堂のボーイが學生の働いてゐる連中で、八時半の教室に行けるやうに彼等の時間を節約してやるため、一時に千人位に對する設備はしてあります。

その各々の級の食堂に區別されながらも、殆んど全校の學生が饑舌りながらバクツクさまはみもので、

『お早う！ 昨宵は Smoker (茶話會) で夜更しの罰でねむい』

『勉強した』

『教授の宿題で遅くまでやつたよ』

『嘘をつけ！ 貴様が勉強する事は年に一回もないぞ』

『手紙を書いたんだらう』

『手紙は何日も教室で書いてゐる人だ』

日本の學生のやうにすぬけた朝寝坊や朝食に間に合ふやうに起きて教室をやるけるものも少

ないし、ほんとの勉強家か骨牌の常習連の外は十一時前なのに寢臺にはいつてしまひます。

食堂は十人一組でどの食卓にも話の中心人物がきつとゐると同じやうに、一人の學生が食卓ボーイとして白い衣をつけて給仕をし、働く學生は食費免除で、獻立も材料の購入も一切學生が主となつて切り廻はして調理には誂え向きの黒奴が使はれて居ます。

働いてゐる學生に對して一般學生が甚だ快い態度を以て接し、働くもの自身にも毅然たる態度がほのみえて試験などで午飯の給仕に少しでもおくれたりすると、學生は食卓の學生達に「済まなかつた」と挨拶したり、又は隣りの給仕をして手傳をしてやつたりして働くことに一寸の不眞面な考へもたないで責任を遂行する點はみるから立派なことで學生の身分として於て聊かの不都合もありません。

大學生活で最も楽しいものは食卓の時間でありませう。特に快活な學生のために斷え間ない快談と笑聲が湧いてフォークを動かし小刀を握つてゐる時は彼等の胸には神様の事もなければ故郷のこともなくママのこと戀人のことも何もありません。唯寒い冷たい冬の朝を陽光は微が大講堂の尖頭に薄ら寒げな影を投げかけた頃、白い息をふいて、白樺、榊の並樹道を急ぎ歩んで集まつてくる人ですから、思ひ浮べてゐるのは温かいオートミル、柔かいビスケット、熱い珈

琲と厚げな一片の肉、其の外に思ひ浮べてゐたら、それは恐らく昨宵の寢不足のとりかへしか、甘い戀の夢位のものでありませう。

愛想よく、其語に稚けない日本人にも話の絲口を與へてそらさぬし、漸く覺えたこのフレンチで悪口をついてみたり、落第點とつたラテン語も食卓では一角光らかして喋口つてゐるのは人好しのいゝヤンキイの氣をそのままに曝け出した態度で、

「たくさんとつておけ、此食卓の一年生は大喰らひだから遠慮してゐると何もたべられないぞ」  
「フレンチ (Freshman) とは生育盛りの意味だからうんと喰ふのさ」  
と飄逸な一年生が口返して大喰ひ小喰ひの話で花が咲きます。

朝の「第二の鐘」は八時半に鳴る授業の始まる豫告で、ボーイは片付け了つて教室にゆき食堂には第一の時間に授業をもたない學生達が残つて片付けに忙しく、食費は近來の物價騰貴でどしどしあがる傾きがありますが、贅澤なハアバードの大食堂でも三十五弗位、地方の大學あたりでは普通は二十七、八弗位であらうかと思ひます。

授業の鐘と共に校庭を縦横に駛つてゐる小徑を學生達は帽子もかぶらず教科書とノートが無雑作に抱へて急いで教室へととんできます。こんな時です。一年生が上級生に嘲られてゐるのをみ

るのは、

四五日前の薄雪の残りが生物學研究所の蔭に白く寒げに光つてゐます。

學生は誰でもお互に會ふ友毎に、行き會ふ毎に、「ハロー！ Hello!」と挨拶を交はし顔馴染みになりきつて綽名ニツクネムをつけますのを見ても、親のつけない猛烈なニツクネムの方が通りがいゝとみえます。

日本の學生は何ういふものか微笑むよりも人に會へばむつりする方が多いが、亞米利加人はそこへゆくと碎けてゐて挨拶されたり微笑まれたりして悪い氣をもつものは居りません。ましてや同じ大學の學生が「ハロー、チャレ」と呼びあつてゐるんですから。

脚のわるい若い教授が松葉杖にすがつて研究室へ入つてゆく、教室で出席をつける頃には校庭の道にも人影が一時途絶えて梢から梢へと名も知らぬ美しい小鳥がとびはねてゐます。

大陸だけに氣候も變り易く、小春日和が曇り始めると雪で、雪は降り出すと中々止みませんのも大陸的で、雪が降ると校庭は默阿彌の舞臺の書き割そのまゝの如くに浮んで、楽しいく雪ツクの日となり、雪の朝、雪の夕、雪のものがたりは若い大學生に離れ難い挿話となつて現はれてきます。薄光ツクも消えて、冬の東京でみる薄暮れのくる雲が校園の樹間から見える日の午後は、北から吹

きくる風が冷たく耳朵を掠めて底冷えのする寒さは強く、學寮の煙突から白煙が上がり、蒸氣の鐵管から陽氣がある頃には寒さは愈々大陸的になつてきます。

その頃にはテニスコートにもグラウンドにも人影絶えて僅かに Y. M. C. A. の娛樂室に出かける學生か郵便局か菓子屋に行く學生の姿位しか校庭にもみえないで、白い粉のやうな細かい雪がしんしんと夕暗れて行く空に降り出すと乾いた地面に積る早さは目につく程で『いよ／＼降り出したぞ』と窓際にたゞすんでみると

「雪！ 雪！！」

「雪！ 雪！！」

と學寮と云ふ窓々から學生が白い影をみて唖鳴りあつてゐるを不思議に思ひました。

夕餐の鐘が鳴り響けば外套の襟を立て、白すんだ道を寮から食堂へ急ぎます。静かな雪の宵、幼時に戸外へでたいと強請れば、『雪姫に攫はれます』怖らされた宵とすこしも變りはなく、音もなければ響もなく總てが白い衣に包まれてゆく宵の静けさは部屋に閉ぢ籠つて讀書に耽けるに持つてこいで『今宵は積るな』と硝子を透して林の中學生病院の黄い灯を我を忘れてみつめながら、コト／＼と静黙を破るステイムの通ふ音を聴けばこんな晩あたりに祖國へ消息に感傷的

なことを書いてしまふのであります。味はされる静寂と孤獨味は想像以上に深刻なもので、辛いとは思ひますが又悅れしいもので、トン／＼……と軽く扉を敲くので振りかへつて『カムイン』と言へば學生がづか／＼とはいつて来て早調子でベラベラと喋りながら、一枚の紙を示しながら薄笑ひを洩らして『お前もやれ！』と。

タイプライターでうたれた紙片には

『明朝は積る雪を迎へるから朝餐の時から一年生にこの大學に傳襲する雪の洗禮を與へる。隨所隨時、フレッシュをみたら「雪の幸ひ」を與へる。四時二十分の鐘と共に一年生對二年生の雪合戦を校庭で舉行。一、二年生以外の上級生はいづれにでも組すべし』との回報でありました。

雪の洗禮！ 洗禮を受けて始めて新入生たる一年生に大學生活の扉がひらかれるとは、物質的にしか物を考へ得ぬ米國氣質に麗しい詩の心ではありませんでせうか。

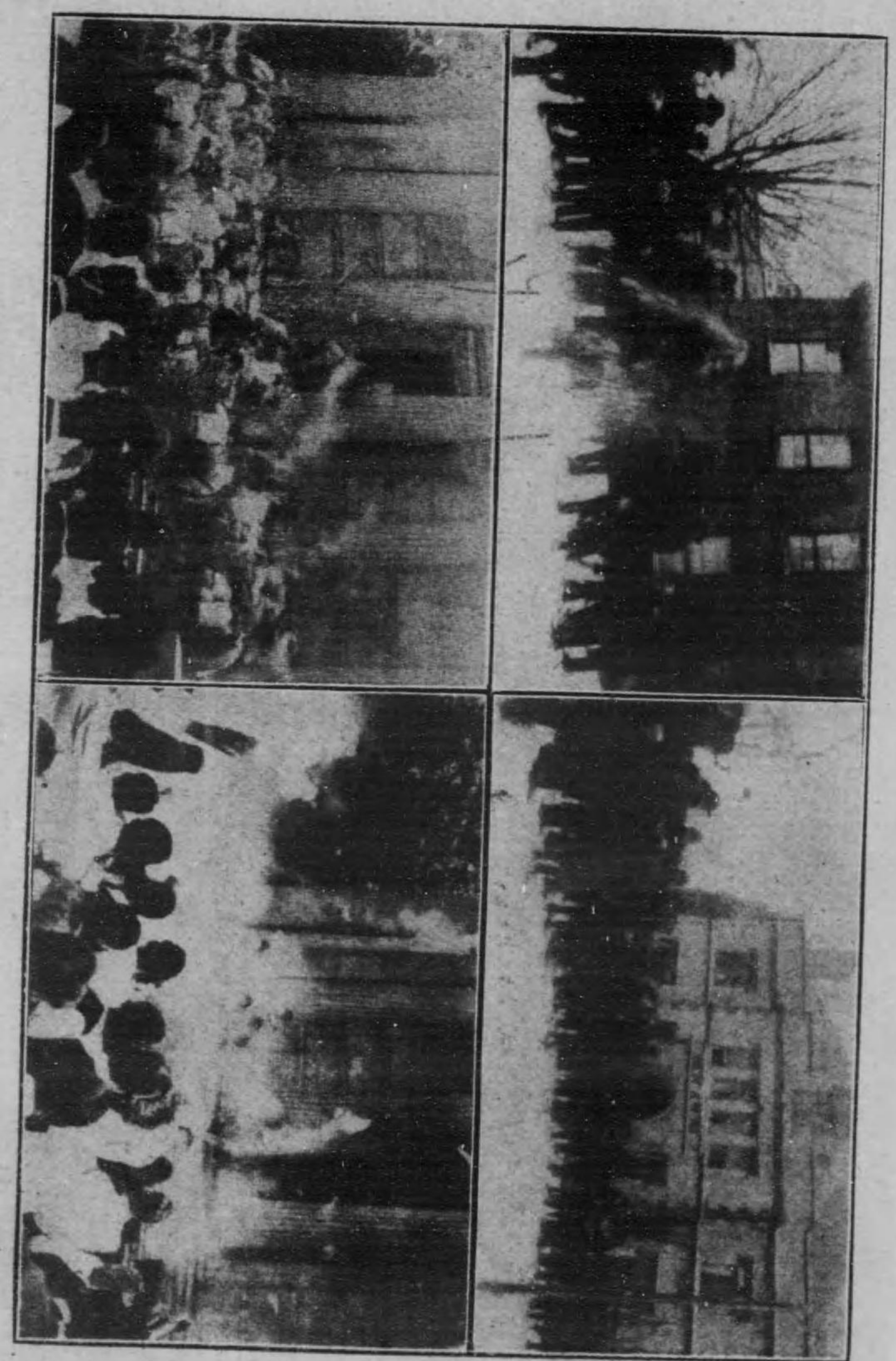
忘れたくない程快いのは大學の雪の朝です。即ち雪の幸ひを與へる、雪の朝まだきに頑強な二年生の群は級エールを唖鳴りながら、手に／＼雪塊を用意して食堂の前に、學寮の出入口によき敵御參なれと一年生を待ち構へてゐますから朝餐の鐘と共に食堂に行かねばならぬ一年生は獨りぼつちでゆけば四五十人から雪塊の一斉射撃を受けねばなりませんし、まご／＼してゐれば食堂が

閉されてしまひますし、食堂の方では「フレッシュ、カムオン」と既に食事を終へた連中が聲を揃へて一年生をほかくとやり出してゐます。意地の悪い奴になると立てた外套の襟の下から覗きこしあつて、一年生は辛うじて食堂へ突入してとびこみます。

んで顔に見當をつけ雪玉を投げ付けるから堪りません、そこで、首をすぼめ、顔をかくして、押此の時に一年生は殆ど反抗することは非常な暴行なこととして傳求的に許されてゐません、抵抗するものがあれば二年生は他を見捨て、それひとりに「メイク、ハッピー、(Make happy)」と押しよせて來ます。そして一年生は此の雪の洗禮の報仇を午後の雪合戦で埋めあはせるのです。

雪の洗禮は食堂や學寮の出入口ばかりでなく、雪の第一日には到る處到る時に一年生は二年生や三年生あたりに雪塊を見舞はれ、最も猛烈にやるのは禮拜の時間で殆んど全校の學生が參集して禮拜堂から出てくる一年生を待ち伏せるのです。

禮拜は土曜日を除く外毎朝出席すべきもので、其出缺は級の出缺以上に成績に影響しますから、雪はこわし、チャペルは休みたくないし、結局雪ぶつつけを受けねばならないのです。十時半から十一時まで祈禱と説教があつて、了ると一同に扉を排して、衆團をなしてとび出す奴をめぐけてやり出せば、それた雪塊は硝子を壊し、逃げそこなつて猛烈にやられてゐる奴が處々にゐます。



Make happy, Fresh 1 年……雪の洗禮

其の晩一年生は、雪がどれほど積つて居ても、どれほど降つて居やうとも校庭の真中に集つて、一年生の雪合戦の歌を高唱しながら、手を繋ぎ、腕を細み合つて喜び合ひますが其の唱ひます歌の意味は非常に面白いものであります。はつきりとは覚えて居ませんが、まあ次のやうな歌です。

『帽子を被らぬ様にして呉れた御前たちに。帽子の代りに、お前たちには雪の帽子を呉れてやらふ。雪と帽子の取換へならば、帽子より雪の塊の方が固くて痛いといふことを教えてやらふ。やがて帽子よりもつと大事なお前達の口からパイプが奪はれたことを氣附くだらう。』

、この唄はその年の春、學生俱樂部が失火して全焼したことがあつて、その失火の原因が二年生のパイプからであると判明したのを楯にとつて、一年生は學生委員會を動かして、クリスマス以後イースター祭に到るまでの間は、二年生は寄宿舎以外の建物ではパイプによる喫煙を禁ずと言ふことになつたのであります。ですから、クリスマス後になると、學生俱樂部の入口で、パイプの火をととして、恨めしさうにパイプをポケットへ捺ねこんでゐる二年生をみうけるのであります。勿論三年生四年生は公々然としてパイプを使用し行るのであります。

プリンストン大學では大學慣習は不文律でこそあれ、永らくのあひだプリンストンの校園で認められてゐるものであるから一年生は入學の臨時にそれを遵奉す可き義務ありとして次のことを一年生に強ひております。それは、一年生はいかなものにも「大學の色」——亞米利加の大學では大學の校色として規めた色をもつておりまして、その色を校旗、ペナント、ピン、襟飾、帽子等に大學の象徴色彩としております。例へばハアバードなれば深紅色、エールの線、プリンスの橙<sup>オレンジ</sup>色と黒、の如くで、校色を謂ふかはりに、Crimson, Blue と色彩で新聞あたりは大學の校名に代用する位に知られております——と使用することは禁ず。一年生は黒の靴、黒の靴下、黒の襟飾以外は許さず、平素着は普通の背廣、それ以外のものは許さず、宵、九時の時鐘、校園に鳴り響けば必らず部屋へ閉じこもること、而かも以上の掟は國祖ワシントンの誕生日まで嚴守せらる可きものとして、それに違反するものは罰則を適用す、と謂ふのみに、まだ——一年生は大學では籠の鳥で、一年生は必らず黒の一年生帽<sup>キャップ</sup>じみたいの帽子を破り、其芝毛を横切る可からざること、街路<sup>ストリート</sup>亦是校庭<sup>キャンパス</sup>に於て喫煙を許さず、校舎近くにてキャチボール等は嚴しいお咎めで、更に面白いのは一年生が大學の構内から街邑へゆく時には大學の正門の出入は嚴禁で、搦手から孤鼠<sup>クマ</sup>と出入す可しはまるで迷兒扱ひで、嚴冬オーバコートを着用す可らず、運動する以外

にニツクア、ポツカアはきてはならないよに到つては少々一年生に同情いたしますが、大學から最も近い珈琲店菓子店で購入することならぬ、運動競技場でいゝ場所へ席をとるには父兄に訪問者を同伴する時でなければしてはならぬ、と謂ふのが細々と「大學慣習」として一年生を拘束するのであります。特に——拙い譯よりも原文でおよみなさる方が遙かによくその意味が現はれてゐますのは——“Seniority of class determines the possession of their side-walk, therefore Freshman are expected to get off the walk for every class”——と、道を歩く時に上級生に譲れと規定すれば反抗的な感情も起りませうが、道の通行権は上級生が決定し得るものだからそれに従へと命令すると噴笑きだしますね。この「大學の慣習」の掟を結ぶ最後の個條に曰く、

「シルクハットを被る特權は三年生及四年生これを有す、されど獨樂<sup>ゴム</sup>を週<sup>まは</sup>す特權は二年生にこれ限る」と。

亞米利加の大學生の無邪氣さが躍如たりと申し得るでせう。獨樂を週し得る特權は二年生にこれ限る、と眞面目となつたゐる處に二年生の惡戯ものの本領が現はされてゐます。



ある雨の朝、校園の小徑を教室へと急いでゐますと、不意に

「Say, Fresh!」  
「さう一年生!」

と二三人聲を揃へて怒鳴る方をみれば、今しも一年生が校園の芝生を横切つてゐるのです。立止まらう。

「yes, sir,」  
「はむ」

と答へる暇もなく、又もや通りかゝつた五六人の二年生は、

「Say, Fresh, dont you know where you are standing now?」

一體どこにお前は立つてゐるんだ、と極めこんでゐるうちに二年生の奴等どしどしと集まつてきて、一年生を罵りものにしております。その一年生は雨の中で泣き面せんばかりにどをしてゐるのやら途方に暮れてゐる様子は、可愛さうにも思へましたが、亦腹の皮の擦れる「大學習慣の喜劇」の一舞臺面でございます。一年生は芝毛を横切つてはならぬと言ふのであります。

郷に入つては郷に従へ、大學に入つては大學の掟に従ふは唯に羅馬に入つては羅馬に従ふばかりではないやをでございます。兎も角も學生生活の挿話は斯くして豊富なことになるのでござい

ませう。

けれど、一年生が大学生として Freshman life の誇は決して規定された掟で踏み躪じられるものではないやをでございます。一年生が自分の影を College boys のなかに発見し得ることは無上の光榮であります。

四年生のあるもとひよつとした機會で一年生時代のことを語りあつた時に、彼は想ひ出でに耐え兼ねたなつかしさを顔に浮べて、「一年生の時のこと、決して忘れる事はない否、決して忘れる事の出来るものではない。私の身が、Freshmenの一人として、大學の校庭に発見された時には、私は踊り上がった氣持で、自由な天地よ、と叫んだが、而し、その聲の終るか否かの瞬間に、悪魔とも親しみ得、神様とも交るとも、私自身の勝手だと、覺つた程に、なつかしい時である」と。

一年生がよく言ひます—Freshman of today is Senior of tomorrow—と。

蹴球フットボールが了つてから

- 討論會 — 大學エテイケイト —
- 音樂會 — 薄明のリサイタル —
- 「メツシナの花嫁」 — 火事だ、火事だ —
- 基督降挿祭 — 愛なくして何の人の一生か —

蹴球競技が愈々終りに近づいてくる頃には、時雨もいつしか霽となり、宵の風も陰鬱に響ひてきて、そろ／＼ほんとの讀書期にはあつてまゐります。

大學對抗討論會が連行的に行はれ、講演會があり、各教會や Y. M. C. A. の祈禱會の歸りには滲みつくやうに互へた月と空のみのこともあれば、雪を迎へる宵もあります。兎も角も冬枯れの寂しい氣持は寄宿舎のたのしさに比して一層に深く思はれてまゐります。討論と言ふものをいかに亞米利加人が好んでゐるかは想像したよりも甚だしく、毎週必らず金曜日午後七時から大學の學生集會所で行はれ談論風發の概があり、問題も仲々實情的のものを採つて抽象的論題を排してゐる傾きが見えます。山東省問題、國際聯盟、強制的軍事訓練等はその一例であります。對校討論會は最も眞面目な禮儀を具へて行はれます。討論には純粹の討論の技巧以外に討議そのものゝエチケットがあり、討論者が燕尾服を着て登壇すれば、審判官も燕尾服で控へてゐると言つた工合で、討論の儀式は尠なくも亞米利加の大學儀式即ち禮儀の典型だと信ぜられます。大學生のエチケットとは彼等の正しき服裝、正しき禮儀作法であり、所謂大學生らしく氣取る

ことであります。討論會には燕尾服で現はれ、舞踊會には夜會服、卒業式にはガウン、遠足にはニツカボツカ、運動競技にはユニフォーム等、大學生にして既に服裝的エチケットがございます。勿論、訪問慰安交渉紹介等大學生には大學生らしい習慣があり、濫りにぶると言ふ卑しい心持は亞米利加の大學生には大禁物で、それとて彼等はそのエチケットに全然束縛された囚れのハイカラ者流でもなく、時と場所とを心得た紳士的のエチケットをもつております。ある冬の音樂會に、切符は二階だから平素のサックコートでもよからうと高を括つて、カラもとりかへず普段着のまま、でかけてゆけば、くるものもくるものも、タキシードか燕尾服の盛裝で婦人をつれて乗込んでくるのに喫驚して、寄宿舎へとつてかへして、トランクの底深く埋れてゐた皺くちやのタキシードをとり出だしたとさへありました。而かもその入口で親しく聲をかけてくれた一友はつい二三時間前迄研究室で亂髪でタイプライタをうつてゐた學友が、隆々とした姿で、髭を剃り髪を撫でつけて、天晴れの紳士ぶりで音樂會へとでかけてきたのでした。

音樂會も大學の大コンサートの外にリサイタル (Recital) が際々ございます。それ／＼特異な音樂的氣分をもつてはありますが、日曜日の午後四時から午後の六時頃まで西へ沈む夕陽の薄光が漸く窓に残されてゆき、大きなホールは夕闇がどつしとつめきつて灯は演奏臺にたった一つ

ぼんやりともされた蠟燭、薄闇から幽暗へと移るにつれて曲の静けさも遷り進む獨奏のおつとりと物寂びた音楽のなつかしさは、パイプオルガンの Evening Recital でありました。大きいホールで、悠るやかに流れてくるパイプオルガンの調べにすべての人が耳傾けて、咳一つせぬ、教養のある聴集と共にリサイタルでの演奏者の心に酔ひこんでゆくのは、忙しい學窓生活にたしかに麗しい樂園の雰圍氣を織りだすもので、今更に此リサイタルなる言葉を考出してくれたフランス、リストの心持を有難く思ふのであります。

時に大學の青年會が慈善のために、漂泊の音楽家をつれてきて、コンチェルト 司伴樂 (Concerto) をやらせますが、旅から旅へ樂器とその鋭い手をもつて日々の糧のためとは言ひながら、藝術に生きてゆく漂泊の音楽家に美しい、たのしい影を発見して、大學生がそのために祝福してやるやさしい心には共鳴せずにはおられません。同じ研究室にゐる F と云ふ波蘭人は、ある雪の宵の司伴樂に現はれた旅藝人の瑞西ヨッドレスの娘のために自働車を驅つて停車場まで送つてやつたのは犯し難い憧憬と同情の囁きを始めて知つた氣がいたしました。

勿論大學には大學生が組織する大音樂園がございます、大學の祭に、大學の競技に、大學の食堂で、時をり學生らしい大管絃樂をやりますが、素人藝のをくゆかしさと申しまうか日本でも

早くモツアルトの行進曲で對校競技にゆく選手を送迎いたしたいものであります。戦争中はやはり戦争に繋がる流行歌が頗る猛威を逞ふして、校園の暗らみから口笛の合唱を聞く時、

「こゝは御國を何百里……」と過ぎた、日露の戦役當時のことを追憶せずにはおられませんのでした。

レツラアの「タンタヂイルの死」邪教の詩、リストの「グランの祝祭彌撒」、シュウマンの「天國とベリ」メシナの花嫁、マクダウエルのものに到つては「インディアン、スイート」から全部、兎も角も音楽に全く聲のわたくしが、歌謡曲や作曲家の名だけでも挙げることのできるのは一の大學の音樂會、リサイタルのおかげでございます。

## 火 事

カン、カンカン、カン、

カン、カンカン、カン、

夜の静けさは聴き馴らぬ鐘の音に破られて、何事と思つて、翌日の下調べに餘念のない時窓際まで出て見ると、間の延びた鐘の音が幽暗の半月の空を流れ、火は茫として空を半焼に焦がして大學の校内でがやつく叫聲が静かなかに微につたはつてきました。春はまだ浅いが夜風は寝巻ひとつの肌にかくふれて火事見物には寒くもなし暑くもなしの好い時候、大學らしい、でかけてみるか、みまいか、お江戸ならぬ米國の一隅まさか火事とて寝巻のまゝの彌次ぶりはお許しあるまいと、周章てカラをつけ衣裳の調ふた頃には火も消えるだらうと思ふものゝ、米國に渡つて始めての近火見物ましてや火の手は大學の構内ときてはお江戸育ちの彌次根性むら／＼と胸に湧き、急に臨んでの早業、外套ひつけて宿のおかみの早言葉もそちのけに往來に飛び出せば、カンカンカンと更に烈しく、火事は確かに大學の構内、行く可しと馳けだせば既にお江戸の火事のもりで『やあい』、と一と聲振りあげてみたくもなりましたが、往來の人影 追ひ／＼かさなつて早口に喋つて御座る異人の口程もあせらぬ態度が小面憎く、四五町が程は息も吐かず、裏門のあたりから兩側の芝の廣場に自動車がかさなりあるのみか、引續いてブウ／＼と警笛鳴らせて自動車の列は大袈裟なり贅澤なりお抱へで火事見舞か見物かと、彌次の學生に伍し校庭に入れば、火はまさに學生俱樂部のあたりより擴がつて圖書館實驗所も危ぶない様

子、一息ついて遠見か近よるかと思案の程もあらず學寮の大學生連思ひついたり置き古るしのホースを消火栓につないで消防隊の實習よろしくとうようするものの祝融の神はお遠慮なく魔の手を擴げて建ちならぶ二三の建物は金的的的中と、ホースからのろろと滲かりぬでたる水勢は到底抵抗力もなく、日盛りに撤き水の氣疎いことは間の抜けた消防ぶりで肥杓子で溜り水を振りまく田吾作の消防も斯くやとばかり胸糞のわるいこと、勇みの哥兄の風貌は探してもみえぬのに、俱樂部はみるから唐紅ひの不動王の怒るが如くに火焰に包まれた趣は物凄く、棟も横なぐりにどつと揺れて落ちた餘勢は、續いて建ち並ぶ學生食堂の大建物を黒煙で渦巻かせてバツとあかるい空をむつくりと突いて聳ってはゐるものゝ累卵の危みと申しませうか、まづ消せないね、と獨りぎめにまづ一服とあたりのがや騒ぎに調子をはずして落着けば學生は益々はしや騒ぐ、大學街の自動車ポンプもやつて來るものゝ火の海へ飛び込んで家財でも取り出すかの氣色もなく、ふいと思ひついたは火元にあまり遠からぬ親しい友のゐる學生俱樂部、でかけて軽いものゝ一つでも背負つてと人混みを割つて急げば外套でかくしてはゐるが夜目にも際立つて艶麗な寝巻の裾をこぼした婦人學生達、手に／＼寫眞機をして笑ひささめく姫御前これはめつそなと寫眞機の暗示あはすに驚きの瞳を投げつけて、ヤンキイの火事見物正に斯くの如くかと、肝膽が將に抜けんと

すればその突端、新しい火勢は毒々しい焰の舌を逞ふして學生俱樂部の二階窓から噴きだして、そこらに蝟集する男學生の群はこれまた天外の野放圖「美しい」とお世辭に姫御前への挨拶と一寸耳に挟んで「はて亞米利加人は火事に對しては浪漫的審美主義なのか」と驚き果てました。

かれこれの暇潰しに、思ひかへつて友のゐるフラタニティーに飛び込めば、椅子をはこぶあり、毛布洋服抱へてうろたえたるあり、暫し亂雜の極でその間火焰はようようと俱樂部からお次へと管め盡くし行くのを家の中へ飛び込んで聲をかければトランクを相手として階段の中途で持て餘ましての折り、むらくとは此時、火事には馴れたり、火は確にのびたり、友よ急げと五尺の短肥に聲だけ大きくして勵まし手傳へだしたのでらう。

煉瓦の建物だけに崩壊する音響は凄まじくも火足はまことにをそく、どつと人波が崩れて遠巻きにと退く遽に人聲あがるを見れば自働ポンプは見事遅かりし由良之助で吐き出す水量正に八龍大王のその如くに、南無三火は消えるかなと、消えるを残り惜しげに思ふも氣樂の至極で、友は悦んだり火勢衰へてゆくの歡びの聲があがつた頃には三軒の大建物は焼き盡されてしまひました。

その歸り道驚いたり寫眞機肩に手に三三伍々學生連が談りながら歸るもの夥しく、吞氣通過

ぎて癪にさはるの手合、お江戸の真中なら毆ぐられた上に大耻し曝らすべきに、良き寫眞撮り得たりと誇り氣に語らふも片腹痛く馳り通る自働車には若き婦人の多くの學生にとりまかれて樂しげに夜中をドライブするを思へば、啞くに羅馬に入つては羅馬に従へと、火事見物も東西その風情を異にいたして居りませう。寫眞撮つたり自働車で火事見物の心得を持つ米國人げに、

『俱樂部もどうせ古いから建て直すさ。もつといゝのが出来ませう。金は直ぐに集まりますよ。』

と、いつぞや或る教授に連れられて俱樂部の食堂で晝食をお馳走になる折り喫煙室にも食堂にもかなりの名畫や古美術品の蒐集棚もありたるを思へばあれも焼けたかと惜しむは島國根性の吝しさ、金は直ぐ集る、新しいよいのを建てませうよと、お國柄の大きいだけにキツキアと金切聲まじえての火事會話には駄洒落も浮ばず、獨りぼつくとポケットに手を入れて歸りければこれはしたりおかみの云ひ草、

“Fine fire” (見事な火事よ)。

お話になつたものではござりますます。

## 基督降誕祭

音楽會や討論會、學生俱樂部の晚餐會、フラタニティダンスに、時を過ごしてゐると、早くも基督降誕祭がまわります。學生は楽しい降誕祭を故郷の家でやるために、

“Goodby, see again”

と忙しげに寄宿舎へしげの別れをのこして去つてしましますが、別段にゆく處とてない我々異國人は教授連の親切なクリスマス招待をたのしんで一夜をたのしく迎へます。

何かと心配して下さる教授の家ではウエルスリイ大學から歸省したお嬢さんが主人公になつて、寄宿舎に居残つた連中を招ひて下さつて、簡單ではあるものの心からの親しさを示してクリスマスのお喜びを願ひて下さいます。音楽、言葉あはせ、將棋、トランプといろ／＼と笑ひ興じた果かお茶になり、贈物を頂いて夜道を友とつれだつて寄宿舎へ歸れば、思ひがけない、クリスマス

ス贈物の小包が二つも三つも入口の鍵にかかつてゐて、展いてみれば、見事なクリスマスのお菓子、而かも、母がお前は獨り寄宿舎で淋しからうと昨日これを調理した、との寸信、陽光のある處、人の情はやはり美しく暖いものと、祈る心は外國留學でなければ味へ得ぬ人の心のやさしさではございませんでせうか。

クリスマスの休暇は大抵一週間で、一昨々のクリスマスはテニシ州から市俄古への汽車で迎へ、その旅路で偶意の挨拶から親しい友となつたMなる美しい婦人大學生は見事なクリスマス挨拶状を忘れずにおくれたとみえて送つてきたのであります。あの人も、みんな楽しい悦ばしいクリスマスをお迎へなさいよと祈りながら、窓をみれば白い雪が降りだして、クリスマスになくはならない自然からのクリスマス贈物が天から届いております。休暇と雪とを結びつけて、雪橇旅行もよし、大學の氷滑場への日参もよし、一つ紐育へでもゆつて日本人らしく日本めしでクリスマスをやらうかと思へば、その日本食さへたべられないで盲腸を病む友をボルチモアの病院へ見舞にゆくことにして、クリスマス休暇を暮す豫定は決定いたしました。

基督降誕祭で故郷へかへつた學生が大學へ戻つてくれればすぐ、氣の早い教授はそろ／＼學期試

験の宣告をしておりますし、一三週間は図書館と研究室とで一日をくらす日が続いてまわります。試験も受け馴れてくれば呼吸のみ込めて、ある學科に對しては一夜漬で胡魔化しをいたしますが、何れにしても忙しいものは試験と遊ぶことの準備で、その試験もどをやら終れば、心も身をも春を待つばかりでございます。けれど雪もまだ深く、讀書はこれからで親身になつてまわります。

二月にはありますと十四日のヴァレンタイン日が待たれます。なんでも此日は随分昔、羅馬のクロデアス王の時代にセント、ヴァレンタインなる偉い殉難者を記念した日のことでございますが、この日には大學生はみんな蜜のやうに甘い戀文をかきます。勿論、毎日々々かいてゐるのさへたくさんございますが、此日はあまり親しからぬ婦人へ親しき交渉を申込んで差支ないとか聞き及んでおりますが、まだ實行してみる勇氣もございません。いづれにしても天使の忙しい、やさしい「愛の日」かもしれませんね。大學のフラタニティでは假裝舞踏會があり、街邑の方でも大きなホテルには大假裝舞踊會がございましていろ／＼に着飾つて、若い男が若い女に五色の切り紙を撒いたり、通りの四角で、かくれてゐて鳴物を不意に鳴して驚かしたり、いろ／＼のやはらかな悪戯をいたしております。愛と云ふものを人のもたなくてならぬものとした一生に

愛なくして何の人の一生ぞ





は、こんな日も決して無用ではないかと衷心から同意したくなるのであります。愛なくしてなんの人の一生でせうか。

春から夏まで

— 春— 忍冬の咲く頃—

— Everyfullday—

— Easter-Sunday—

— 異性と自由交際—

— 山荘で遭つた一女性—

— 學生フラタニティ— 愛は萬象を……—

春 — 忍冬の咲く頃 —

夥しく咲き亂れておりますホニイサク忍冬の蒸し返へすやうに強い薫が漲つてまわりました。四月もいよ／＼薄紫のライラックの盛りとなつて、些かの寒さも消へ失せて遠く丘から丘へ霞がかつて、柔い土にサフラン、水仙がやさしく色づいてゐますのも、春だ、春だ、と自然が鈍感なものに春のおとづれを知らず警報のやうにさへ思はれるのであります。空に浮ぶ雲にも連なる林にも梢の末端にも、土の色さへ融けた柔さで野薔薇の眞紅には目を衝く春の強さがみえてまわりますと、大學の緑園も燃える萌え芽に色づゐて、栗鼠が軽々と駛り、學生も五月の試験の準備などを忘れ果てて春の歡樂を手を展げて待ち構へております。

春、四月は第一日の萬愚節 (Everyfull day) とそれに續いてゐる復活祭 (Easter) に始まりま

異國の風習に物馴れぬものにとつては、冗談と眞劍の境目がぼんやりいたしました。思はぬ不覺をとつて噴きだしたくなることも度々で御座います。風俗の相違、そこは律し難い面白味もござります。

ふと或日、學校から歸へつてみますと、扉へピンで一通の手紙が挟んでありました。

みれば思ひがけない、L教授のお嬢さんの美しい手蹟で、午後二時頃下町のウインドシエイドの入口で待つてゐて下さい、父なるL教授と一所に行つて買物をしたいからと細々と約束の時間と場所とを指示してあるのでございました。ともあれ陽光の輝いた暖い日早速髭剃をしたり、カラとりかへて艶し、時計をみれば下町へゆくには左まで十二分の餘裕もないからと、大急ぎでかけました。

ウインドシエイドと言ふのは此市街で一番大きいデパートメントストアで、入り代り立ち代り出入する人々の数は夥しく目狂しい位で、大急ぎで約束の時間までに来てみれば、そこに待つ筈のL教授の嬢さんのナシア嬢の姿さへみえないのでした。少し早かつたかと出入に邪魔にならない飾窓の側で立停つて待つてゐましたが仲々やつてこないで街路を横ぎつて藥屋で咽喉を潤したり、煙草をのんだり、雑誌を購つたり、ウインドシエイドの二階三階までもあちらち

で探がしてたり、戻つて亦もや入口でかれこれ二時間も織るやうに人通りの繁い處を待ちあぐんだのでした。まさかお嬢さん約束の時間を忘れたのであるまいかと思つたので、念のために自働電話で訊ねてみると、いつもでてる黒坊の召使が、今日はエブリイ、フールだよ、と一言「I am sorry, sir」電話を切つてしまつたのでした。間違ひもなく今日は四月の第一日、萬愚節の午後を三時間も往來で待ち呆けを喰らはせさせられたのです。美しいひとの悪戯では、ましてや愚なことを興がるその日憤慨しても始まりません。早速とつてかへしてL教授のお宅へ伺へば間もなく夕餐だ、忙しくなくば話してゆき給へ、娘もそのうちに歸るだらう。君も早く亞米利加人になつて、亞米利加の慣習に馴れて、娘などにかつがれては大學生の估券にかゝはるよ、との教授の話に腹をかゝへて奥さんも召使も笑ひ興じ、お嬢さんの手際の際におけないのを誇つてゐらしやる次第なのです。まあ晚餐のお馳走になつて、ゆつくりと思つて平素の親しさを馴れて便所へ往きました。戻つてみると客間には教授も奥様の姿もみえないし、臺所には黒坊の召使ひの激つた聲さへいたしませんで、大嫌らひの黒猫がにやんと落着き拂つてゐるだけなのです。これと思つて玄關にでてみれば教授の自働車がなないので、外出だなあすぐ歸るのかと思つて、扉にかけた自分の帽子を不意とみれば何か小さい紙片がはさんであるのです。疑ひもなくL

教授の鉛筆の駛りがき、際々お氣毒だが急用のため今晚は夕餐はあげられぬからそのつもりで、と亦もや一杯喰らはせられたのです。いくら總てが愚なこと今日とて座興もこんなになつては腹の虫が承知しなくなつてまゐりましたが、空腹には勝てませんので獨りのこゝと行きつけのカフェテリアまででかけてゆけば、眞に總てが詐だと云はれる四月一日の萬愚祭の馬鹿くささが胸に浸みました。

なんでもつと技巧的な Everyfull があるとは聞いておりましたが、亞米利加人は全く子供らしい惡戯を悦ぶもんです。それも忙しい國民性には一つの抗毒素として是非必要なかも知れませんよ。

大學などで曾ては火災の非常警報を惡戯したり、食堂の扉を固く釘づけに閉ざしてしまつたりすることが流行つたものさうですが、斯様のことはあまりに公共的の迷惑があるとして嚴禁されてゐますもの、大學の記念像を白い幕で夜中に秘に包んで、只今建造中なんてかいた惡戯はみたこともありません。玩具やカードで人をびつくりさせたり、悦んで郵送された小包を解いてみれば空らつぽの贈物は朝めし前の仕事で、急病だすぐこい、今夜出迎へたのむの電報は月並で極くあたり觸りのない處でございませう。大學生の Every-full には仲々深刻な惡戯もあて意

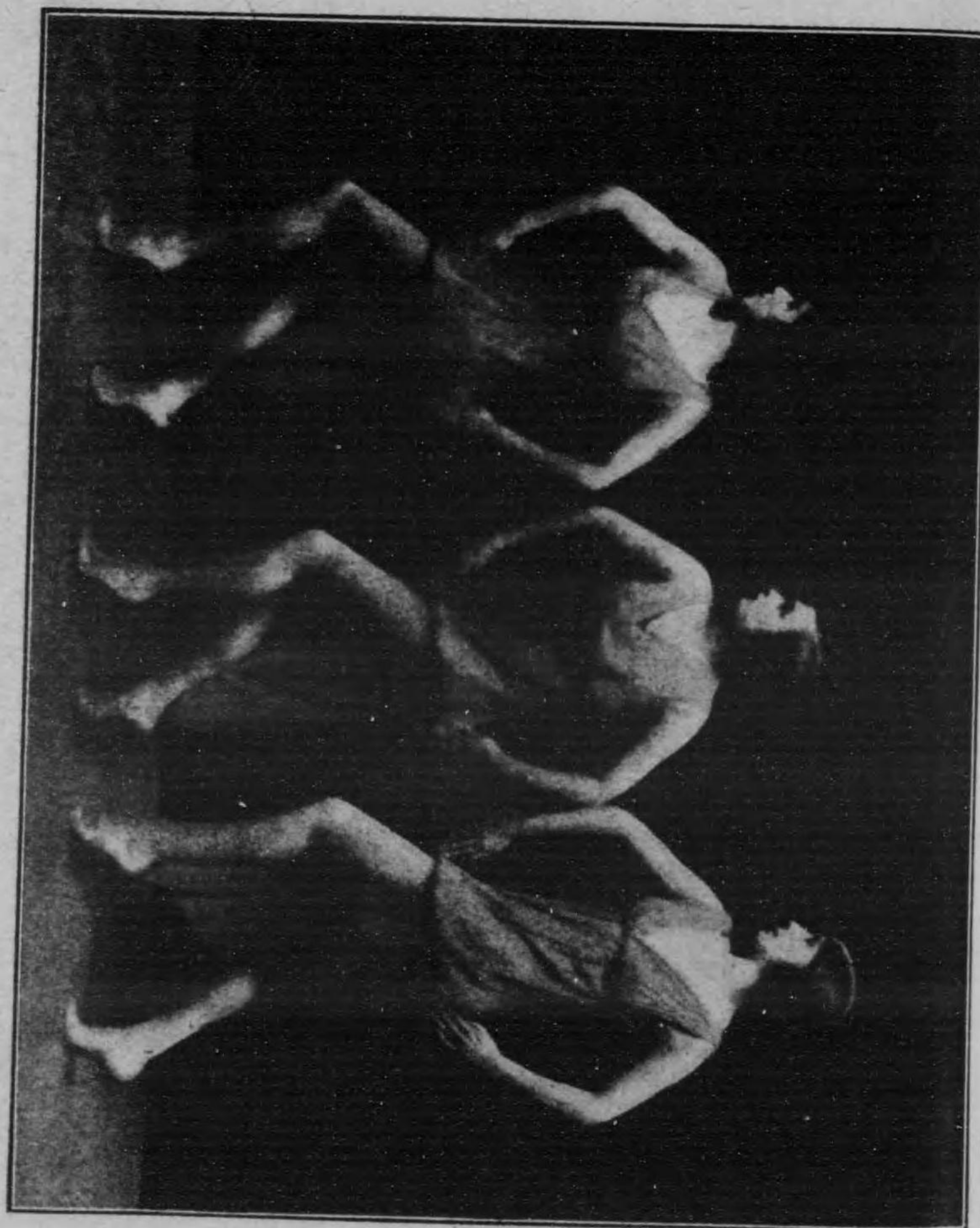
外な怪我さへいたします。

復活祭にはそろ／＼春の輕衣に移つて、ゴルフも、テニスも春の戶外運動として相應しく、復活祭のお馳走は概ね玉子料理で、まさか鶏卵は鶏に復活するためでもございませまい、復活祭日曜日 (Easter Sunday) の前の金曜日の宵から、大學では三年生主催の復活祭舞踊會が催されますが、これを大學生活としては、ジュニア、プロムネード (Junior Promenade) と申しますが、頗る贅澤な大學年中行事の一つで卒業式の大舞踊會、蹴球競技の宵のそれ等と三大舞踊會と申しておりますが、約四日間引續いて華やかなボールで今日を晴れと踊りぬくのでありますから、大學生は容貌自慢の愛人を抱き、親しい婦人友達を呼んで、その入場券から宿泊すべき場所、往復の自動車花輪等の費用では、ひとり婦人を招くと四日間では莫大の費用となりますが、到つて舞踊の好きな亞米利加人は殆んど夢中であります。大學の舞踊は社交的なものとしては非常に洗鍊されたもので、男子は概ね教養ある大學生而かもこのジュニア、プロムネードには一年生は絶対に舞踊することを禁ぜられてゐるので、一年帽を被つて羨ましげに上級生の酔つた觀樂をながめてゐます。舞踊には二年生以上で大學生活の洗禮を既に受けたものばかりで、婦人

は相當の社交的訓練と教養のないものは大學生の婦人友達として招く事を恥じてゐるので、どれも綺麗な夜公服に品のいゝ處をみせて所謂 *Social lady* らしく今宵を晴れとのりこんでまゐります。

舞踊は宵の九時頃から三時頃まで奏樂につれて浮かれぬはうつけものとはかりに夜を徹して踊りぬく。年若くして色と響の神秘の正しい社交生活の歡樂に酔ふことを誰が拒みませう。而かもその歡樂のうちに犯し難い自尊的精神と、他を尊敬し理解し調和してゆく男女の自由の交りが整然として行はれてゐるのであります。お耻しい次第ですが、始めは亞米利加の若い男女の自由交際の華やかさをみてひそかに眉を蹙めました、そをして少しくその自由な天地になまじい首をつこんでみて男女自由交際の危険性を疑ひしたのでありましたが、更に大學のフラタニティ生活のあひだに友達の數々が如何に大學生として婦人と正しい交渉をしておりますものを見るにつけても男女の自由な交際が正しく美しいものであるかを理解する事ができたのであります。

自由と云ふ大きい光の裏には束縛と制限の影は自制自律を強ひております。亞米利加の男女自由交際は野放圖の自由ではありません。自制自律の堅い倫理觀を以て整齊された異性の友情をたのしむ人本來の異極を結びたがる、非技巧的な善と惡との價值判斷を超越した異性をしでつく



舞の盛

る藝術であります。勿論この自由交際を訓練のない日本の天地へすぐ移し植えろとは申しませんが、若い男女が心と心の交りを正しい愛情の繫つなによつてなしてゆくのに何の觸まりがございませうに。亞米利加では婦人レディは婦人レディであつても、友達としては友人なる範疇カテゴリーに入れてその間に異性的區別はなく、寧ろ婦人に對して正しき態度ある習慣の存在しておりますから因襲の力は男女自由交際に對して堅い自制と尊敬を強要しております。むしろ年若い男女の性的思想に對しては日本人の方がより自制なき自由と尊敬なき異性觀をもつてゐるのではありませんでせうか。

### 山莊で遭つた一女性

ある冬のこと、同じフラタニティにおります友人の招きによつて彼の姉妹達とヴァージニア境の山の別荘で二週間ばかりの簡易生活をいたしました。年若い大學生が四人、それに對して年若い婦人が五人、友人の伯母さんがその附添監督(Chaperon)として婦人達と早くまわつております



Virginia 境 の 山 莊

た。二つの大きい寢室の外は食堂應技問兼用のホール一つの山の棲み家で、大きな石積のブリ  
ミタイプな暖爐の前で、夜更を忘れて、吹雪の宵を知らずに夜をそくまで、合唱したり、トラ  
ンプしたり、讀書したり、詩を誦したり、舞踏したり、朝からは山の雪のなかを男女手をとつ  
て徒歩競走（ハイキング）したり、馬の遠乗りにでて、里の百姓家で鶏を購つたり玉子を仕入れ  
たり、殆んど日本では想像さへ許されない位の年若い男女の團樂が展かれてゐました。その山の  
家へ我々兩人が一日遅れてついた時、友人の伯母さんが、これでみな揃つた、處で二人の若い  
婦人がお前達を待ち詫びてゐました、日本人はおとなしい女性が好きださうだから、カザリンを  
お前のお相手（Partner）として選んでおいてあげたと、過ぎた夏一所に友の家の露臺で、毎朝佛  
蘭西語のお稽古の先生となつてくれたボルチモア市のガルチウア女子大學の二年生の極く温順し  
い、そをして大きい瞳の持主のカザリンと云ふ友達の妹をさしまねけば、カザリン嬢悦しげに進  
んできて「久潤ですね」と快活に挨拶するのはこちらが尻込みする程男女の社交性を缺いてゐ  
るのであります。二週間のあひだ、カザリンが當番の朝は早くから起きて、あれこれと手傳のし  
つこ、暖爐に薪を入れたり、カザリンが臺所で調理する側で不器用に葱の皮を剥き、石炭を竈に  
投りこむ、珈琲の工合をみると命令けられて珈琲沸しをひつくりかへしてみたり、臺所の仕度に



手傳ひを致します。カザリンは的礫に光る明星のやうな襟飾の外、地味な服装で軽やかに、深い  
眼睫に朝の潤ひをみせて食卓の用意に忙しいのでありました。

馴れぬ自分が當番の朝、豊かな頬に情の深さを漂せて、水仕事、部屋の掃除仕事、いろ／＼と  
手傳つて、所謂お相手の役目を軽くさせて悦ぶは、カザリンが自分の伴侶であるが故で、散歩の  
時、食卓につく時、眼かくしの時、誰も彼も自分の伴侶を守つて、俱々楽しからんと努むるは  
男女自由の交際が愈々ゐでて愈々餘裕のある眞面目となるのであります。斯くして男と女とは愛  
の眼が展らけてきた時に心に映る異性の本體を極めて理慧と情愛とは孤立を嫌つて薄紅の愛人  
と、紫濃き戀人の影を描いて、自ら選んで自ら擁る人の世の生活をいたすのであります。

カザリンは亞米利加の若い婦人としては決して内氣ではありませんでしたが舊い相識の感じの  
する温情が顔に浮んでゐながら物寂しげに、異國からの大學生を導いてゆく底の情味と、淑なる婦  
人としての嗜みには驚かすにはゐられませんでした。姉のルイズに寄り添ふふたりの大學生はど  
ちらもルイズの友達で、そこに戀と云ふ魔物を近づけないのはルイズの端麗な詩人みたいの心持  
はきつと遠い處を眺めてゐるのでせう、愛と戀との隔きはあまりに低いとみえるのでせう。けれ  
ど山の家の二週間、ルイズは従兄の海軍中尉の好き伴侶としてみるからに羨ましい應對と享樂を

頗ち與へるだけの餘裕はあつたのです。

亞米利加の婦人は決して想像した程の癡馬でもありません。易々として女の前に跪く男を求めてゐるとはあまりに女性尊重に偏した見解で、大學生活を透してみた智識階級には、我々が人の愛情を斯くの如きものと首肯し得るだけの程度で、聖い麗しい男女自由の交際が犯し難い掟を従へて臨んでゐたのです。

勿論我々の留學生活に沙翁が物した程に若い男と若い女との波瀾重々な舞臺面は禁物でありませう。戀は盲目、戀は曲者、戀は死よりも強しと謂ふ、けれども一概に若い男と若い女が縁に繋がるをみて、ともすればお國根性で何の男女の清い交際かと、日本人が集まれば十人が九人まで嫉妬するは些とほんとの大學生活で磨みあげられることをお歎めいたしたのであります。詩人は戀無上と申しましたね。

花と花。句と句。こだはりなく胸に反響する優しき女性との對話や囁きにはまるで童話か童謡の神秘界に羽搏する快い諧律があります。乾ききつた寂寥の異國生活に呼吸して、はるかなに想ひのはてをうちながむ心に、曖昧一切の境を消して、優し淑しの聲は全く粗野な大學生活に燦々たる光りを與へてくれるのであります。愛は萬象を柔かく融かすのであります。

復活祭の日曜日は自然の舞臺で冬と春とがお互に別れの辭を交はしてゆく場面の當日で、この日からお洒落ものは復活祭帽子と春衣に移つて重たい冬の姿をかなぐり捨ててしまひました。軽い春の装ひで野外遊び (Picnic) の男女連が幾組となく郊外へ徒歩で自動車で、なかには愛人と俱々轡を併らべて春の野をゆく貴族的な奴もございます。

フラタニティーの大学生が、フライパン、酒精ランプ、その他の調理具を交代に擔いで豁谷へわざわざ晝餐をたべに日曜日の一日をくらしします。便利な國だけに、肉汁も罐詰、燃料も罐詰、一切合切罐詰ピツクニツクをやつたことさへありました。湖で土人の獨木舟で競漕するのも軽いスコールで水を切つてゆく男女學生の仲睦しさも、春らしい氣分を誘つてまゐります。春の日曜日の朝、讚美歌の歌んで、空に流れる雲に春の舞ひがあらうにとさへ思はれて、忽然として展かれた教會の扉を背に、老牧師は鼻眼鏡の下悠やかな微笑を忍せて、歸りゆく人々に握手してゐます。柔かな風の肌觸りのあたゝかさを思つて、晝餐までを桃園の散歩を思ひ立つて、樹間から小徑、小徑から湖へゆけば道々に遭ふ學生連、きつと相識も相識しらざるも、「グッド、モーニング」と。亞米利加人はたしかに胸の廣い國民ですよ。そをして幾組かの若い婦人學生が嬉々とし

て通りぬけて、湖の學生俱樂部へとゆくのです。湖畔の學生俱樂部では毎週金曜日の宵八時から學生舞踊會がひらかれてゐますが、日曜日は靜かに讀書したり、獨木舟を漕いだり、紅茶珈琲に咽喉を潤して、清い日曜日をすごすには申分のない處でございます。

こちらの日曜日は總てが安息する神の日で忙しいものは牧師と教會の鐘ばかり、郵便物さへ朝一回になつてしまいます。

まあ、迷へる小羊は、四辻の新聞賣りから紐育タイムスに紐育ヘラルド、それに何か雑誌でも購ひ込んできて、春の日永を新聞紙とくらすことさへある位、物靜かな、物足らないこともありますが、フラタニティーの露臺で、トランプに耽けることはあまり詳しくは申上げますまい。いづれにしても大學の春の日曜日は長閑な氣分でくれてゆくのであります。

學生俱樂部の三階はどをも煩さいので、大學街の町端で、遙かに湖を眺められる二階につき三日前に移りました。

朝醒めて、寢臺からまはりの壁を眺めてはもつとねたいなあと寢不足のとりかへしをしたいと思つても、窓外の春雨の落葉をたたく音の繁さに誘はれて、朝の湖の水面をみに窓際にたちま

したが、亦もぐりこんでしまひます。復活祭からは講義が全部午後になつたので、午前は大概部屋にゐて讀書をいたしてをります。晝餐と晚餐だけフラタニティーの學生と一所にして、朝だけ階下で家の人達と簡単に済ませてゐますが、愛蘭土系の人々で到つて物堅い家族ですから引越し好きにも當分長続きが出来る氣がいたします。それに二階の窓からみる湖の水色が日に幾度となく複雑に變化し、高緯度に位してゐるせいか、清澄な空が紫の水面に對應して美しい色をみせてあたりの靜けさのうちに物とも知れぬ音響と湖面を渡る微風とは融けあつて徐々と繪にだけ浮ぶ音樂的の靜律を窓まで迫まつてまゐりますのは、何よりのたのしみでございます。

桃、梨、杏、李、林檎の花が一時に咲いて、春を誇りげに明るくして、その樹々の根元の薄黒い土から小さい紫の菫、黄の水仙が咲きつれ、丘の春は今が酬だと申さねばなりません。春盛りと思つて油断してゐれば、をとなしやのカザリンがお手製の復活祭の挨拶に、

“The fragrant blossoms of the spring

Do homage to the Risen King

May each a precious symbol be

とかいてよこしましたが、亞米利加の若い婦人の消息の微妙さは全く感心してしまふのです。

もともと油繪に親しみながら、繪畫史や建築史にひどく凝つてゐるだけに思ひつきが鋭く、今日も突然とかなり長い手紙をよこして、獨り寂しがつてゐる惱みをそれとなく聴きなさいよと迫まつてくるんです。復活祭の大學生舞踊にはきつとあつてあげるから、其歸りは家まで一所に送つてきて下さいと寂しい氣がしてならない深春の丘の讀書生に新しい瑣細をぶちまけてまゐります。

學問といふ薄闇い殿堂に徘徊してゐる若ものにも、時とすれば幻と夢の世界に憧れて、春のやるせない愁ひに郷愁か神經衰弱かと兎もすれば考へ込み勝ちの時で、そんな時に情を籠めた籠めないやうな、御推察に任せてあげませうの、手紙のやり通りは慘酷でせうが、始めて遭つた時から直ぐ解かつたやさしい微かな笑ひは、遊戯だよと、囁かれれば誘はれてゆきたい優しい迷になるんでせう。女の最も美しいのはなんでも微笑む時と涙ぐむ時ださうですから、カザリンは微笑む時の美しさを悟つてゐたので、想い出しても浮ぶ物憂ひなきやさしい婦人と印象したのでせう。

ヴァジニア境の山脈、冬の休暇を俱々よき友達として山の家の生活をしてから時をりの消息は断ちませんでした。若き婦人と若き男とのたよりの掟は、あまりに迅速な返事は失禮だし、自體

婦人は男へそんなにすぐ返事はかゝない、書きたくも一週間ぐらいは机の引出にゐれてから書いてくる。それより早ければいゝ便だよ、と亞米利加の若い人達の不文律を聞き知つてゐると、カザリンからの始めての返事は投函した日こそかなりの日數が経てゐても、うかつに示す女性のやさしさは書いた時と投函の日と五日も違つて早く、待たれる程それからの數々のたよりは待たれないうちに部屋の入口へきつとをいてゐるのです。別段と苦勞もない娘心で、豊潤な大學生生活に夢のやうな憧れに浸つた日を續けてゐるものには愛の囁きは學科の油繪よりも楽しい日課かも知れないでせうか。

カザリンから、

あなたからのお手紙は過日寄宿舎の窓から姉のルイズが覗きこみながら放りこんでゆきました。

復活祭舞踊にお招き下さつたことはほんとに悅れしうございます。ルイズも乾玉唐黍からの招待状を享けてはゐますが、相變らず靜かな調子で、別してうれしい顔付もしてはおりません。エイコツクもゆくらしい。そをすると山の家へ集つた若い女達はみんな招待されてゐ

るらしいが、山の家の生活は忘れられませんね。

あなたが町へ兄のチャレーと買いのものにて、オートバイが山道へかゝつた時の惨事<sup>アッセンスト</sup>は今想ひ出しても顫へます。よくふたりともひどい怪我をしなかつたもんだと、エイコツクもルイズも顔を見あはして話すことが際々ございます。肩の痛みは春の頃がはりにもお差支ないでせうか。お大事になさいますよ。

こんどの日曜日には伯母とジョンがジョンズ、ホブキンスの兄とわたしを訪ねにくる筈で今から日曜日の外出をたのしみに致しております。

お勉強をなさいますよ。

消燈の鐘はとをに鳴りましたが、一寸もねむくないので困ります。

では、おやすみ……………。

あなたの「月の顔」より。

と、面長のカザリンは大きい潤ひの眸をみはつて、時をりの便りを、異つた國の生活では寂しからうの思ひ遣りからかいてくれたのでせう。乾王<sup>ゴッド</sup>唐<sup>トウ</sup>黍<sup>コ</sup>とはルイズの友達のあだなです。

日記帳のあひだに挟んでおいたカザリンの手紙を一つ二つごらんに入れませう。秘密ではありませんし、あなたは始めから同情してゐて下さつたんだし、東西洋を異にして住むあなたへ洩らしたからとてカザリンから痛い抗議もできません。而し舊い男女道徳と女大學を唯一と擁る母あたりに迂濶に洩らされては困ります。最近ここから母よりの、お前様いつもくおかはりなくのお家流の消息に對しては、「萬卷の書籍<sup>ブックス</sup>はよめども母びとのたよりの程に涙覺えじ」とのさばらしたくないのですから。下手な翻譯よりも年若いカザリンの原文にどの位潤ひと微妙さがあるかわかりませんからきたまゝの原文で……………。

……………College.

“quarantined”

Feb. 1st 1919.

Dear—

Have you ever been in quarantine for anything? If you haven't sensed the sensation, you don't know what you have missed. You have a great deal to look forward to Friday night we had a Call meeting of the student body and we were told that we should be under quarantined for an indefinite period of time. Which means that we can have no collers! That we cannot go down-town, that we must go for a long walk everyday or play tennis, and we must use every preventative to ward off the flu! We have no cases yet!!

Now, "S—", I want to ask a favor of you, do you mind? It is this—"we have planned for one of our Y. W. C. A. programmes for February or March to be about the "Japanese"—the country, people, history, interests, needs, etc.—and we wonder if you would condescend to come over to "G—college" anytime that it is convenient for you, and speaks to the girls at our Y. W. C. A. meeting. You know, just give a talk something like the ones you made at "Mountain Villa,"—Would you be so gracious? All of us now would be delighted to have you come.

Tonight, Mrs. Boyed, Drake, and Williams are going to give their reports at Y. W. C.

A. I have to talk next Sunday night about Spirit of the college life, and what was it? It is hard to define. I just know that there was a living, vital, uplifting something that made us satisfied and gave us a certain feeling of pride and loyalty and love for humanity and for every body. Do you know of anything I could say about our "Winter-mountain-life, except that it was "Wonderful"!!

I appreciate the books and pictures you sent. But it seems to me you would have sent one of yourself instead of one of ourse. I am sending two or three of the best I have. None of them were good much, but something that will always remind us of "Mountain—villa"

Please let us know if you will come. Remember that anytime that will be convenient for you will suit us exactly.

Sincerely

P. S. Do you remember Miss Narcissa Riddick? She told me she knew you through

美しい夢をのせて駛る美しいひとの胸には、不馴れの外國語で喋らせることも美しいと思ふのか、無遠慮にお自分の欲することだけを強いてゐますが、若い美しいひと達の前で英語で演説をするのは難しいもので、山の家で賑やかに笑いさざめいた歡樂はこの罰を背負はねばなりませんでしたが嫌ですと断れば角がたち、その角がたつよりも、寧ろ美しいひとの細い眉が顰むことが氣になりました。怖しいことですね。

## わたしの栗鼠

あなたはあまりに、わたしに親切過ぎます。親切すぎてもわたくしは怒つてゐるのではありません。すぎた方がやっぱり悦しいのです。日曜日の夕方に大學の病院から漸く部屋へ還つてまゐりました。暖爐の前

で編物を始めておりますと、妹思ひの姉のルイズがわたくし宛の特別配達スペシャルの小包をもつてきて下さいました。もをよくなつたの？、と微笑みながら小包をみせびらかして、誰からの？と。わたしはすぐ解つたんですよ、それが誰からきたのか、そをして何がはゐつてゐるかがね。でもすこし昂奮エキサイトして封を解きました。香のたかい白薔薇！

わたしよく覚えてゐますの、山の別荘でみんなして何の花が好きだと選びあつた時に、わたしの我儘はあなたを無理矢理に譲しゆしかせて、わたしも White rose とはさせたことぞ。

「白薔薇は何の具象か？」

「清い友情！」

奇麗といふよりも、思ひ遣りの深さを示すがすがしい姿は、病院をでたてのわたしにどのくらひの歡びとたのしさを與へてくれたか、お想像はできません。もをほんとにいゝんです。すこし暖はでましても、でも誰も彼も少しは暖はしてゐますの。

エイコツクが病室へこのあひだ一寸お見舞にきて下さつた時の話に、話の題をこちらから出してそれを話して頂きたいとお願ひしたんですつて？ お氣の毒でしたね。このあひだでさへも、

「お前の手紙をよむのさへ辭書を使つてよむんだ」と、英語つてそんなに面倒な言葉でせうか。けれど大丈夫、あなたがわたしにかいて下さる手紙ならわたしが保証いたします。わたしの保証ではをいやでせうか。

エイコツクに、

「難しいことをたのむとこないかも知れませんが、人つて案外思ひ遣りのないもんだと感じました。わたしはあなたが話し易いと思つたことならどんなことでもみんな聴きたいのですからね。そをしたらエイコツクの

「どんなことがいゝの？」

訊ねたあとから、すぐにエイコツクと手を繋いでみた姉のルイズは「カザリン、あなたのお話がいちばん話し易いゝことなんでせう」

と顔みあはせて微笑んでゐました。ほんとでせうか、あなたとわたしの話くらひ世間に難しいことは存在してゐないと思つてゐましたが。でもエイコツクもルイズも知つてはゐるのね。むづかしいと云ふことは屹度知つてゐるのでせう。さつきもルイズは暖るわたしの背をたゝんでくれました。やさしい姉だと思ひます。が姉は寂しい人ですよ。今頃は二階のホールで詩でも考へてゐるんでせう。姉とは部屋は別つなです。

白薔薇はマントルピースの上にをきました。

今宵は必ず白い薔薇の夢をみませう。

愛らしい花の贈り物にお禮をのべてねませう。花へあつまる日の光は白いでせうね。

故國を離れて、馴れたとは申しますものの、言葉の相違、人情の相違、生活の相違は寂しい心持になつて感傷的な憂愁に陥り易いのに、底ふやうな、顔れかゝるやうなカザリンの心持は一體なんなんでせうか。カザリンはほんとに愛と情に渴へてゐる異國人の心の奥底が透視する程にまだ愛と情とに培はれた歳ではありますまい、ほんの娘心のやさしさからと思ふと、氣遅れの返事のペンも懊惱を忘れて駛るのでせうか。

わたしの小さい栗鼠に。

今日の午後 火曜日——に招待状を送りました。土曜日の宵八時から大學の文藝會にゐらして下さいね。ほんとにうれしい、来て下さることを豫期してはおりますよ。

大學文藝會は、あなたの大學のとはすこし違ひますね。もつと艶な、甘いもので、西班牙風邪のためにびておりましたのが漸く土曜日の宵に。延びてよかつたの。もを少し早ければあなたは紐育でしたものね。こんどは無理にお話をと、お希ひするものはひとりもおりません。待つてゐるものは唯ひとり、それにルイズは是非手渡したいものがあるからと言つて心待ちに待つてゐます。

従兄のダニエルが昨日學校へ訪ねてくれました。お噂はしました。フラタニテイのイニシユイシヨンの晩



のことをね。

大學の雑誌は頂きました。それから紐育からのもの、ほんとに有難うございました。

これは招待状についてのほんの駛りがき。おみて下さるとのお返事を待ち詫びております。

黙まつてゐると何處まで引づられてゆくのか、解り兼ねて茫然として手紙の數々をよんでは、空を掠むる白雲の影を追ふのです。晴れやかな笑ひ聲が聴えたり、胸を倚せかける金髪の佛さへ描けます。夢の世界は美しい誘惑となつて現はれたのでせう。でも空々しく煩い姿だと追ひのけてゐませうか。イリアムとクララは千仞の溪谷の底で意を語たり、クララは美しい瞳とやさしい髪の持主で、イリアムは黄なる顔を黄白の甲に固むる騎士でありました。雄々しい騎士と淑やかな女との愛は白銀の槌で黄金の鐘を鼓くうつせみの世の歡びでありましたからこそ、クララは秋の清き宵の星の宿を一帶に胸に集めた心地で息を凝らして、眸を据へて、騎士の握り緊めた手を凝視したのです。優しい想像の糸が圓かな夢の筥に觸れると總てを美しく織りだします、けれどその織布は美しいばかりですぐ破れてまわります。國に還る日が必らずくると考へれば誰が筥を手にして樂しげにこの愛の織布を綾と織り得るでせうか。遣ふは別れの始めとか、カザリンに

遭つてからは時間潰しの消息を英文に綴るも一つの稽古かとさへ珠算弾く醜くさが感じられていたのでございます。大學では新學期の時間表が掲示されて、忙しいことは既に告げられたのみか、今學期はよむ可き参考書の名題すら覚え切れぬ程澤山あるのです。

土曜日の宵はたのしかつたのです。この前のやうに美しいひと達の前で、氣耻しく喋べる事もなかつたし煩はしい舞踊もなかつたし、わたしの大嫁らひの監督のF老嬢があなたのお部屋の番でもなかつたのは大變に悅れしく思ひました。

沈丁香の春の香りが夜の闇のなかを流れてゐる庭園で、ゆつくりと話のできたのは、うれしく思ひませう。ふたりがあんなにゆつくりと話をしたのは、「山の別荘」の日から今日までなかつたのですよ、黒い夜會服、黒味勝の眸、そをして思ひ遣りの深い款待ぶり、これがわたしにはあの日の深い印象でした。詩の朗讀も獨唱も、みんな忘れて覚えてはゐません。

淀みがちな話かたをするあなたが、わたしには努めて明らかに話して下さるのはわたしが英語を喋る國民でないからでせう？のみならず白い薔薇に黒い夜會服をとりあはしたのも、あなたの藝術的な思ひつきで、

「若いのに何故もつと華美なものを」と訊ねたら、

「黒い色と白い色とがあなたが好きな色だと言つたのを覚えてゐるから」

とお答へでしたが、なぜわたしの言葉をそんなによく覚えてみて下さるのでせう。わたしはそれを考へると限りない疲れと寂しみが襲つてくるのです。それでも、あなたが数あるあなたのお友達の中からあなたのため一枚の招待状を下さつて、あの大勢のなかで、これがわたしの最もいゝ友達、とみんなに紹介されたことには心からやさしい乙女の友情を長かれと誇つたのでした。

けれど、友情ですよ、ほんとの友情ですよ。それ以上をお信じになつてなりません、追求してもなりません。あなたは愛蘭土人で、わたしは……。

友情はあなたを幸福にしておいたひとつの情操だと堅く信じて疑つてはあけません。ルイズにもエイコックにも部屋友達にも俱々よろしく。

あなたの栗鼠から、

すらりと瘦せたカザリンが長い睫の下にしめじめしい目の潤ひ、あらはに腕を組んで、黒い夜會服に白い薔薇の花束を胸に挿んでたつた姿には、動もすれば物愁ひ沈む喪服のひとの面影があつたが、どをして年若い女性がこんなに淡い薫を残して消えた香の地味な落着いた姿をするのかとさへ思はず訊ねてみたいが、氣まぐれにさへ愛人と眩むた魅力が浮足でいつしか胸へ迫まつてまわりますので話が霞んでしまひました。

黒い色の好きな人は昔から寂しいひとなんでせうか、と少時は凝とみつめてしまふのです。

自由な國では自由な交渉を男と女との堰を構へずに綺麗にやつてのけてゐるのですから女の大學では男を招んで女のお相手として一夜を濃やかに語りあかし、踊り盡くして何の間違ひもありません。大學の創立記念日文藝會茶話會音樂會には婦人が男の友達を多勢招く事が出来れば出来る程立派な婦人だと言ふのだから、東西人情は異なつてゐますね。カザリンはたつた一枚の招待券を「おゐで下さい」と惜しげもなく特別配達で、試験と願をつけあはして屈托してゐるものにつきてまわりました。あの黒い眸が始終わが傍にあるならば、——と思つたり忘れたりしてゐるものに、おゐでなさい、ゆつくりとお話ができる。——説得したやうな顔付きですから、ゆく可し語る可しとは流星の如く臆する面もなく大學の招待の宵を軀を黒い衣に包んで、瓜磨の藝術とやらで、指の尖までお化粧してでかけました。

まづ宵に集る男の訪れものは籠の鳥か囚人か、大きい應接間にゐれられてうよくと蝟集して、どれもこれもタキシードの襟や靴を氣にしたり、早く遭ひたいと思つてゐるせいか、足が浮はつて、確かに貫目はない、と思ひながら窓際に同じ大學からの連中が集まつてゐるのに仲間入り

て待つ程もなく、應接間の入口に、老嬢が大嫌ひの鼻眼鏡で、「どうぞ」と言ひます。

ひとりゆけば、「ミスタウイリアムス」と招待状の男の名を呼ぶと、その男のお相手が夜會服の婦人連の中から現はれて、手を取り腕を組んで廊下へと消えてゆきます、カザリンが多勢のうしろで首を心持ち傾けて微笑んでゐます。かれこれ五六十人目でカザリンと握手しました。

いくつかの部屋をいろ／＼に裝飾して、自分の友達をつれてくる部屋には男の大學のベナントを懸けたり、その大學の色の電球をつけて、凝つたなあ、と思つてゐると、茲でゆつくりしませんか、そのうちに音楽が始まりますよ、と隣りの部屋の高ひ笑ひ聲に早くも女の細眉は聳まつたのです。その宵、招いた人のこない、招くひとのない女學生は接待役で、アイスクリームだサンドウイチだと羨ましげに聊かの嫉妬もみせず動いてゐます。

音楽は始まり、骨牌の遊びも、舞踊が始まる前の款待は極く淡泊に運ばれてゐます。庭にでて月の光で睦しげに物語るものも、骨牌しながら暫くも、亞米利加人どをしならきつと心の底から浸しんで楽しからう、悦れしからう、と思ふのです。——きつとおわで下さるとは思つたが、片意地のあなただからとも——と話の糸口は案外に軽く、ふたりの物語は山の簡易生活と友情<sup>フレンドシップ</sup>に始終してゐたのです。

# 欠

# 欠

Letter-writing は男女自由交際の最もたのしい技巧の一つで、遭つてみて、いゝなあと感じが直覺すれば、まづ男が極く形式的に文通を許して頂きたいと緒は切つてはなたれ、忘れた頃に女は淑やかな筆つきで應へてまゐります。磨いた技巧は瑣細な感情の表現となつて、縁の糸は綾となり亂れて、物言はぬはなんとやらで書くべき思ひは無盡蔵にあり、書きたいみたい返事を貰らひたいので、相手の心持を懸念して自己の心持を懸念して甘い消息スマイルはいくら辿つても辿り盡くせぬ愛の告白となり、なつかしの懺悔となれば、ふたりは書くべき日を一週の何日、何時頃、と決定めてか、れば、宵の静まる頃置時計を眺めて、時計が銀の鐘を象牙の撞木でつく透つた響は同時に愛の響となつて齎されるのであります。フラタニテイの悪戯ものどもが静まり返へつて勉強かと部屋を覗けばペンは澱みなく離れたなつかしのひとへの便りで、始めは馬鹿な絲瓜なのと貶したものでした。それが禁斷の果實の味を知れば郵便函に封筒の影なくば物寂しく、見馴れた宛名とその封筒はあけるまでが楽しみで、よんでみるまでが重む心地して、讀めば憂ひを眉に漂はせ、歡びを頬に浮ばせる、一喜一憂の喜悲劇を演ずる役者の顔面神経のやうに毎日郵便の爲めにやつてゐるのですから亞米利加の大學生も忙しいことあります。

Dear "little moon",

Receiving your welcomed letter, I am very glad that you say you enjoyed being with me Saturday night and I was afraid you would not enjoy being with me. But let me say that I truly enjoyed being with you. Yes, dear "little Moon", it was refreshing our friendship to say the least, to be with you,

But, my dear, I feel so unworthy of what you seem to think of me— I fall in so many ways of coming up to what I should like to be and of being the ideal boy that I ought to be— Dont think too much of me, will you ? But this is my motto :

"I am but one,

But I am one—

I cant do every thing,

But I can do something,

what I can do I ought to do,

what I ought to do, God

Helping me, I will do."

A strange mood I am in tonight. Will you forgive me for being so frank and writing such a letter ? I hardly know how to express what I mean to say, but you will understand, will you not ?

I have decided to stay here during the Easter-holidays with your brother, Donald. Since we have the Easter Dance, Donald, and I will be together and my friend from Baltimore will be with us and probably I will go to New York with him after the Easter Dance. If my friend will not come to here, I should like to go to your home with you and Donald after finishing the dance. Your vacation begins tomorrow, dont it ?

Possibly I should like to send the Easter dance invitation to you, but I believe you will not come down here, do you ?

Sincerely

"little Squirrel"—

## 久振りてカザリンへ

T  
に

『お別れしてからそろ／＼半歳近く過ぎてしまいました。この冬は、あなたのお好きな雪もよく降りましたね。S町からのお便はいつも辛らひ思ひで頂いてゐました。今日久しぶりで丘の家の机で、想ひ出の消えぬうちにせめてのたよりをかゝして頂きませう。この遠い寂しい南部の田舎の丘の家から……』

あなたがC大學を目出度く卒業されて、愈々新英蘭州のHへ更に留學の爰を移されたことはわたくしの心からの悦びを申し上げたいのでありますが、けれどあなたが斯程に親しんでくれた、そをして、わたし、のみならずわたしの家の人達みんなが、よくあなたを理解することのできた異國のあなたが、轉學によつて更に遠い地へ隔てられてゆつたことは、遭ふ機會がいくらあるとは申しながら、わたしには愁ひの種となつてしまつたのであります。なぜなれば、あなたはきつとわたくしの言葉をゐれて、わたくしの兄弟があれ程好きだつたHへおゐでになることであらうと豫期しておりましたのに。あなたはそれを裏切つてしまつたので

す……』

とスコットランド、ネツクの消印のあるお手紙を頂いてから、いくたびかわたしはあなたに消息のペンをとつてはやめ、やめては亦とり直したことでございませう。

わたしはあなたのお言葉を裏切つて、この寂しいカレッヂ、タウンで、ヴァレンタイン、デーを迎へました。あなたはこの手紙をおよみの時に屹度長い眸で反逆者よとお憾みになるかも知れませんね。けれど、あなたが口辭に、

『わたしも、メレデスを卒業したらポストンの美術學校へゆく』

とおしやつてゐたことがポストンへゆかずしてこの大學へくることにしてしまつたのではないかと、特に考へることもございます。それ程あの當時は眞摯にあなたの一言一句を考へずにはゐられない心持をもつてゐたのでした。なぜかわたしはあなたと近く住めば住む程苦しい闘ひを續けねばならないと思つたからなのであります。

遙に桃の果樹園を見をろす丘の上のあなたのお家で、蒼白い空がだん／＼と西へ沈む夕陽の名残りに色づいてゆく頃、いつもの優しいお顔に思ひがけない憂ひの影を漂せて、

「……では、基督降誕祭にはきつと南へかへつてゐらしゃいよ。電報さへあればリッチモンドまではお迎

へにゆきます……」

と別れの握手をした時の印象は今も追憶となつてしまつたのです。約束をたがへて、クリスマスにもゆかず、お手紙の返事さへ怠り勝ちでございました。

丘のあなたの家を去つた頃は親しい友は加奈陀の旅にたつて、下宿の人達も黒坊のアイダアールを獨り留守居に残して避暑にゆき、寂しい下宿に獨りではゐられなくなつたので、あなたのお言葉を胸に刻んで、あなたからのお手紙を——勿論はじめからのをみんな——旅行鞆の底深く秘めてケンタツキイ一の山脈へと急いで去つてしまひました。

あそこでの日頃はケンタツキイより申上げた通り、湖で獨木舟を漕いだり、岸に繁る白樺の樹陰に網床をつて讀書と苦しい回想に耽けておりました。時には大學招待會の宵のことも、フラタニティ・ダンスの一夜も想ひ出して、獨りはなれてゐる手を凍らせたいと思ひつめたことも際々でありました。

その時頃、既にあなたと再び親しく遭ふポストンにはゆきたくないと叛逆な心が萌したのです。而し、それはほんとにあなたに背いた心からではありませんでした。あなたのお親切を忘れるためではなかつたのです。それでも斯くするより外に道がないとまで思ひつめてしまつたので

した。あなたが、わたしも來年はきつとポストンへゆくからと、おしやればおしやるほど、ポストンへゆくことは怖しいことに思へてならなかつたのであります。なぜかと、強いお詰問は、やさしいあなたですからきつとなさらないでせうが、亦お約束になぜ背いたかは、いつかわかりませう。而しあなたのお勧めに背いたものに、悲しい日がくることはよく存じております。けれどもゆく可き處を背いても、どこに去つても、どこにゐても、心と心との囁きが消えてゆかないなら、背いたのではありませんと思ひますが。離れてゐた方があなたのために惨しい日のくることを一日と遅らしてゆく事になると祈る心を拾つてやつて下さい。異國人などをしの濃い友情、それはあなたにもわたしにも決して幸福の日を齎らしてはきません。ですからわたしはお言葉に背きませんでした。近づけば近づく程、その不幸の日が現はれてくる氣がしてならないのですから。

けれどもあなたがその不幸の日のくるのを敢て拒ぬとおしやつても、わたしの弱い心には耐え難いのです。遭つた日がお別れをする日の始めだつたんです。

もを何もかきましますまい。シンシナティの雪の遠乗も、市俄古の吹雪の宵も、大學の復活祭の日も、丘の家の楽しいまどゐも、みんな消をてゆく想ひとなる方が、あなたもわたしも樂かもしれません。

くる春の復活祭にはああなたの好きなライラックの花も咲いて、南部ではきつと夢のやうな想ひ出の歌がきつと、丘の家の窓から洩れてくるでせう。

春になつたら、あなたの叛逆者も亦再び南の春を戀しがつて、ふるとヴァージニアの春を訪づれるかも知れません。それもしつかりとは申上げられません。

あんまり感傷的になつてはけません。唯さへお弱い心に、鋭い衝動は決してよいものではござりません、お弱いあなただと思へばこそ。

ステイフな便をさしあげてみました。メレデスのアトリエの前の白紗は二月の南の暖さにもまだ咲きひらきませんか。先日のおたよりのなかへ送られて来た桃の花はヴァージニアの匂ひでいつはいでした。

ともあれ、この友情主義者<sup>フレンドシップニスト</sup>はいつその偽りの假面<sup>マスク</sup>を脱ぐことがあるのでせうか。脱ぐと苦しみます。みなさんよろしく。

カザリンは氣の沈んだ日には、疲れ弱つた胸に耐えられぬ思ひを打明けてきたりしておりまし

たが、總ては幻となつて消えろ。と突きつめてくればくる程冷たくなる狡い氣性は、無氣に過去の繋ぎを切りはなしてしまひました。紐育から船出の前、ウエスタンユニオンの電報用紙四枚に餘る次の詩を挨拶の代りに送りました。

“Good-by, dear, good-by,

seems hard, somehow, to say the words that mean

The thing we do.

Good-by, dear, good-by;

I hope the future will be good to you.

Good-by, dear, good-by.

Lets smile a little, while your big hand grips

Tight into mine—

Good-by, dear, good-by.

Climb on, the train is moving down the line—

Good-by, dear, good-by.



we've had good days together,

just we two,

since first we met.

Good-by, dear, good by—

we'll say the words, but we will not forget—

—from "Arthur L. Phelps,"—

船が紐育を出てから二日目、滑らかに風いだ海原を船端の欄干にもたれて眺めてゐると、なぜ  
歐羅巴へ急ぐのかと、ふと考へたのです。その夜、

"my love and sincerity go with you"

の無線電信をカザリンから受取りました。

ふたたび亞米利加に還ることなきも軀は歐羅巴への旅にゆく時に、亞米利加のエピソードとし

てこの話を残してゆきませう。

其後カザリンはどをしましたか。またいづれ……。

——ある日の日記から——

Fraternity initiation.

静かな白日まひるの陽光が校庭のクロウベの生ひ育ちをつよめてゆくやうな、南部サウスの春はいちどきに  
踊りあがつて、ライラックもホニイサアクルも誘惑するやうな芳香をたかめて咲きだし、桃の花  
はとうに散つてゆき、空を仰ぐと淡い明るみが一日増しに深く濃くなつてまゐりました。さぞか  
し日本の春も桃の花から春雨・櫻の花となつて三春の行樂に人の倦くるを知らない頃となつてお  
りませう。

春。桃の花の咲く頃、薔薇の匂ふ頃、外國生活では耐え難い郷愁ノスタルジイを覚えてくる時頃で、晴れた  
朗らかな日には裏庭のローンに出で、うらかな日を享けて轉び臥して草の香に心ゆくばかり浸

つております。而しやはらかな春が訪れてくるまでには短い晩秋がすぐ寒となつて、降誕祭には既に雪が氷になり、幅霽な空が続いてゐても儼しい冬もどをやらやれ雪櫃だ氷滑だと騒いでゐますとすぐ過ぎてしまつて、過ぎた降誕祭の休暇にはテニシイ、ケンタツキイの山脈を横断してシンシナテイから市俄古、ミツシイビイあたりまでの大陸旅行をいたしました。旅からかへればすぐと學期試験が続いておりましたので、復活祭の休日までは消息の自由すら奪はれた心持で起臥をいたしておりましたが、どこやら春の移り變りから初夏へかけては大學の授業ものんびりとしておりますから茲々當分は霧のはれた氣分で硝子窓に映つる新緑の濃やかさでも味はひながらそろ／＼とアイスクリムの味でも想ひ出しておりましたか。

而しこんな時分ですよ、ほんとの郷愁と謂ふ感じを知つてくるのは。路を歩いてゐても、落ちてゐる一片の葉にも限らない哀愁を覺えて、日々の雑多な有りふれた事に心を奪はれて深く省みてゐなくとも、ふるとした時に愁ひすくない日頃ではないと思はれて、寂しく思ふ時に母などのお便りでも頂くと誰れやらの歌ではありませんが

「萬巻の書はよめども母君のたよりのほどに涙覺えず」

の實感が湧いてまゐります。遊子亦愁ひ多しと申しませうかね。一片の葉にのみに限りません。

青い空にも、灰色の壁にも、靜かな微風にも、將亦淡い戀にも止めどもない愁ひが潜んでゐるのでございます。

試験が終つた頃からフラタニテイの生活は賑やかになつてまゐります。亞米利加の大學生活でフラタニテイの生活はある意味で凄い色彩をつけた生活で、獨逸の大學生活の眞義がブレイメンに存するなれば、英國の大學生活は牛津劍橋の大學生を中心として燦然として輝く社交生活即ちソサイテイとクラブにありと謂ふなれば、米國の大學生活は普遍化された典型ではまづ校園生活に存在し、獨逸のブレイメン、英國のソサイテイに比すべき特殊化されたものはまづ亞米利加の大學生活ではこれをフラタニテイ(Fraternity-life)に求めねばなりませんと申上ぐるのも決して過ぎた言ひぶんではございますまい。

大學生活なるものが本質的に社交的な生活を帯びてゐることは亞米利加の大學生活を一たび経験したなれば非定し得ない特徴であることを認めますが、その小さい社會的生活のなかで更に特限された趣味中心かさなくば特殊の目的のために團結して生活せんとする傾向がありまして、これを日本的に觀れば階級的にか亦は郷土的に團體を結ぶのに反して、亞米利加の大學生は趣味的

にか學術的にか結社して生活を享樂せんとするのであります。勿論今日の亞米利加のフラタニテ  
イの會員なるものが社交的フラタニテイ (Fraternity) にあつては富豪の子弟が贅澤三昧の大學生  
活をなさんがための傾きがあり、學術的フラタニテイ (Literal Fraternity) にあつてはその會員が  
優秀な學生と限定せられてゐますが、學生であることには何等の制限も階級もないのでありま  
す。もともとフラタニテイとは大學生が結んだ秘密結社でありまして、その主旨は友情の親睦を  
計つたのでその始めその秘密結社の稱號を希臘文學 (Greek Letter) で表示した慣習があつたので  
これを Greek-Letter Societies と呼び慣らされてゐましたし、その結社が秘密でありましたが故に  
College Secret Societies とも謂はれてきたものでしたが現今では College Fraternities と變稱され  
てゐるので、なかにはそのフラタニテイが組織された大學や所在地の頭文字を使用してゐるもの  
御座います。希臘文字の一例としては Kappa Alpha (K A) Alpha Delta Phi (A Δ Φ) の如き、  
大學の頭文字を使用するのは Union Chapter, Hamilton Chapter, Waterville Chapter, Middletown  
Chapter の如きであります。要するに秘密結社の名を少々不可解の希臘文字を以てするのが極  
く普通であつて、それを示すに會員はその會名を示すピンや襟飾を以てしてゐます。

フラタニテイを目的上から種別すれば社交的フラタニテイ、學術的フラタニテイとなり男女共

に社交的フラタニテイは異なつたものを有しますが、學術的フラタニテイは男女同一であります。  
そをして會則をフラタニテイ憲法と稱して、會報年報を以て聯絡を計り、毎年一回、全米フラタ  
ニテイ會議を開催して統一してゐるあたり實に大規模であつて、フラタニテイ、ハウス即ち會員が  
集まつたりね泊りしてゐる俱樂部は實に華美典麗を極めたもので、舞踊室、圖書室、談話室、浴  
場、娛樂場等と殆んど到り盡くしたもので、その建立費は會員相互の學金により、卒業生は大學  
の運動會蹴球競技卒業式と年中行事に事よせて集りつどひて新舊の交りを深くしてゐます。フラ  
タニテイの會員として一つの家に團欒するのは一は社交的訓練と大學生活享樂の上からみて歡ば  
しい事でも、その他の學生から距たつてしまふと云ふ弊がないでもありません。ですから大學生  
活と云ふ大きいスケールからみればフラタニテイ對非フラタニテイの暗闘は常にみえてゐます  
し、特に大學の學生委員選挙、音樂會舞踊會等あらゆる催しの際にはかなり露骨な對抗が行はれ  
て、プリンストン大學ではウイルスン總長の時代にフラタニテイ全廢を斷行した事實さへあるの  
です。けれどもフラタニテイの出發が民衆的であるべき大學生活の破壊でなくして、その大學生  
活をしてより高い、より享樂的なものとなさんとする意義である以上これを全廢する事は一顧す  
可き餘地がありません。全廢されたプリンストン大學のフラタニテイは依然として學生俱樂部と

して享樂的生活を續けてゐるのは興味ある事實であります。

Kappa Alpha は亞米利加のフラタニテイのうちで最古の組織としてその他のフラタニテイの生みの親として名譽ある歴史と慣習を有しております。一八二五年にさきだつて數年前、丁度バイロンが歐洲では死んで、米國の民衆詩人ホイットマンがまだロング、アイランドで十歳位で渚で漁り、海鳥の生活や難破船の慘事に眼を聳たつてゐる頃に、ユニオン大學の大學生が戶外運動競技と藝術本位のために秘密結社を結んだのですが、それが漸時に隆盛となつて一八二六年にはユニオン大學の「<sup>ナイト</sup>Knightsの宿舎」と謂はれた處を食堂としてそこで晚餐を共にして思想、社會、學生生活の問題を談らひ、秘密結社の名辭として希臘文字の  $\Sigma$  を冠して、始めて亞米利加フラタニテイの種を蒔きました。而かも先驅者や開拓者は常に味ふ可き苦闘を経て、この秘密結社の種はウイリアムズ大學に飛來してそこに第一次の兄弟分が殖えると同時にシグマ、パイ、なるものを生みました。漸次、フラタニテイなるものが普及して一八四四年にはゼネバア大學に、五二年にはプリンストン大學に、續いてそのフラタニテイの會員が撒布されたヴァージニア、コーネル、トロント、レイハイ、マギールの諸大學へ種を植えて幹から枝となり梢となり、南北戰爭の結果此フラタニテイが北部と南部に感情的に分裂してしまひましたが、北部フラタニテイ出身の名士

では政治上に於ても教育界の名士でもかなり擧げることが出来ます。

南部  $\Sigma$  は一八六五年にヴァージニア州のレキシントン<sup>カウチン</sup>のワシントン大學——現今のワシントン、ライ大學——に始めて創建されて以來南部の諸大學、ヴァージニア、ジョージア、リチモンド、ノウス、カロライナ、テキサス等各州に跨がつて網羅する勢力を有して南部の諸大學のフラタニテイでこれ以上の勢力あり歴史あり因襲の深いフラタニテイではございますまい。南部の諸州で由縁深い名家の子弟は殆んどこのフラタニテイの會員であつて前海軍卿ダニエルズ氏の如き大統領ウイルスン氏の如き皆南部  $\Sigma$  の出身であります。

日本の風習で渡りもの、土工が親分子分の關係を結んでゆくに一種特別の慣習がありますやうに、亞米利加のフラタニテイではそれに似よつた慣習があります。もしも私が現在留學してゐる大學の一フラタニテイに加入を許されるとその會員たる資格は終身のもので、且何處の大學でもその屬する希臘文字を同じうするフラタニテイでは必らずこれを兄弟として交際してゆくのであります。各大學のフラタニテイはその爲めに聯絡機關を設け、舊い會員は新しい會員の就職から結婚の世話までしてゐる位に深い友情關係を示してゐるのでありますから、會員たるべきもの

は非常に精選されて、そのために委員を設け、加ふるに所謂 Fraternity initiation (入會宣誓式) なる風習が行はれてゐます。

溢れるやうに陽光が窓際の安樂椅子に讀書してゐる娘のエデナをとりまいてゐる春のひる頃、窓越しに眺めてゐると、エデナは立ち上がりながら透き通る程に白い兩腕をのばして今更らしくあたりをみわしながら、ふいと

「今晚、お前のフラタニティ、イニシエションがあるんでせう？」

と白い絹の上衣をびつたりと纏つた艶麗な姿を横向きさまに聲をかけてくれました。不思議な春の香が微かに焔をはいてゐるのかと思はれる白日は靜かに樂に會話を進めさせてゐるのです。

「そうだ。今夜だ、」

「お前も愈々亞米利加の大学生らしい洗禮を受けるんだらう。晝餐にはお馳走をしませうね。」

と謂ひながら早くから女親に別れて淑やかな祖母の手一つで育てられた柔順な娘は表情に富んだ

微笑を残しながら奥へはゐつてゆきました。

「一體 Fraternity initiation とはどんな事か」とは毎々聞かされてはゐましたが、今宵特に自分がその洗禮をうけるんだと思ふと早く夜のくるのが心待ちに待たれたんです。

丁度一週間程前に、フラタニティ入會宣誓の通知を受取つた手紙のなかに、夜十二時半に大學街の共同墓地の裏門へ白い敷布を被つて立つてゐるとの事がかゝれてゐるので、それを娘のエデナにみせると笑ひながら

「You lucky」

と顔をみてゐるのでした。兎もあれ、夜十二時少し過ぎに白い敷布と細い紐を用意して墓地の裏門にゆきました。手紙の文句通り頭からすっぽり被つて細い紐で首の處をくくつてしばらく春の夜更を獨りしよんぼりと待つてゐると、四邊は寂として聲もなく白い暗い大空が布を透してみせるやうな氣がしてゐましたが、一つも人影はみえず、何處かの暗い隅にかくれて何者かゞ様子を窺つてゐるのかも知れぬと思ひながらも、たすいんでゐると突然に、靜かな調子の低い聲で

「Stand up」

と耳元で囁くのです。命ぜられる儘に立ちあがると一人足音が後へ廻はつたと思ふと二三人で驅

を抱へて一人が眠かくしを更に強く二たまはり三廻りも巻きつけてぐる／＼と眼のまはる程にその邊を引張りまはして自働車のなかへ乗せたのです。馳りだした自働車はどうやらそのエンジンの音響では同じ研究室にゐる親友のDのものらしいが、果してDがつてゐるのかどうか、のりあはした人々も一様に深い沈黙を守つて誰がゐるのやら見當すらつきませんでした。

ひやりと頬をなでたと思ふと、太い重い聲で、

「Snake」

と謂ふのです。その聲はたしかにDの聲らしく思ひましたが、「蛇だ」とは思へないので、案外落着きをもつてゐました。幌の中では葉巻の匂ひが蒸すやうに罩つてゐることはわかりませんが、一體どこへ驅つてゆくのか、どうするのか一向にわからないのです。自働車があまりに警笛を鳴らさないので大學街を通つてゐるのか、それとも亦外へ向つてゐるのか、唯々時をり遠くを馳る郊外電車の軌る音が霧の裡からきかれるやうに遠のいてゐるのでした。そのうちにひとり詩をやりだし始めました。詩の意味はなんでも、

「しばらくして、樹の影に、

男と女が身をひそめた。

女は泣いてゐた。男は空をみてゐた。

沈黙の夜半に流れてゆく星よ

.....」

と言ふやうな記憶しかありません。その間、聲を出せば

「May」

と叱かりとばして、飽くまで沈黙と静肅とを強制してゐますが、靴をとつてしまつたり、手に油らしねた／＼した溶液を流したり、松脂を嘗めさせたり、種々雑多の悪戯を皆して、くす／＼と笑ひをこらへてやつてゐるのです。こんな風で二三十分も馳つたと思ふと、亦もや抱きおろされて運ばれた部屋は、眠かくしにも浸み込む程に明るい部屋で、黙まつてはゐますが、どや／＼と出たり入たりかなりの人数がゐるらしいのです。手をひかれて椅子に坐はらせられるとすぐ、犬の眞似、しろの、日本の猿の鳴き聲をしろの、ジャパニス、ムスメの歩きかたをしろの、「都の西北」を唱へると、しろ／＼と難題を出したり、そのあひだには四這ひにさせて尻を叩いて

「Come on, Pig」

のあまりに見つともよくない拷問を好き勝手にやらせられるのでした。それでも日本人の故に他

の連中よりはあまりにひどくないやうに思へました。愈々全部の連中が終ると、遠い國の歌のやうな静かな曲で次の部屋へ誘われるのです。一人／＼無言のまゝで眼かくしをとつてくれるので、正面をみるとフラタニテイの旗と象徴たる骸骨が薄ぼんやりした灯にてらされて御堂の法燈にゆれる如來様みたいの氣が致します。フラタニテイの最上級のものが、儼かな態度でフラタニテイの憲法を読みあげて、新しい入會者は一齊にひれふして禮讃を行はせられます。まるで活動寫真でみる土耳古あたりの宗教的禮拜の型で、その寮圍氣と謂ひ、その裝飾と申し、ほんとに秘密結社の宣誓式で、朦朧として、現實を離れた幻の世界で、過ぎた時代の修道院の禮讃を憶測したくなるのであります。いろ／＼と古風な、フラタニテイに傳統された式があつて、それが終ると、急に華やかなフラタニテイ、ソングの合唱となつて、次なる食堂で宣誓晚餐を始めます。そうすると、皆が

[you, our new brother]

と温い握手をしてくれて、始めて正式の會員となつたわけなのであります。この晩の入會宣誓式は日本人たる私がゐたせいもありませうが非常に寛大な拷問でしたが、もつとひどいのはいくらでもあります。裸體にして體中をインクで染めたり、重錘を尻尾にさせられて部屋中馳けさせられたり、殆んど言語同斷のさへあると聞いてゐます。ハアバードのあるフラタニテイの入會宣誓の時に、冬の寒い空に胸上げをして噴水のなかへ放り込んで死に致らしめた事さへあるさうで、近來はだん／＼と軟化してくる傾きがありませう。

女の方のフラタニテイをソロリテイ (Sololite) と申しますが、その入會宣誓式では申上ぐるを憚る位の猥褻な行爲や暴力的な事さへあるさうで、それを愚弄であるとか無禮であるとか子供らしいと思ふ感じがあるなれば、その人は到底フラタニテイ、メンバマーとして入會を許されずまい、子供らしい、無邪氣な、而かも元氣に溢れた惡戯氣は亞米利加の大學生の眞生で、衷心から短い大學生活を享樂するにはフラタニテイ、イニシュイションの馬鹿々々しさもやがてのしかつた想ひ出となりませう。

## 春の運動競技

亞米利加の春は天鷲絨の光澤をもつた蒼空が朗らかに晴れて天地山川あらゆる自然美が一時に躍りあがつて、青草嫩葉が銀の光射に燃えて大陸の春らしく、なかにもにげ足のはやい南部諸州の春は復活祭近くからぼか／＼と軽く汗ばむかと思つてゐると早や四月の中旬には香の高いライラックも散りうせて五月の中頃には白熱の初夏らしい光がきら／＼と目もまばゆいやうに輝いて、軽いコートに大學帽でベースボールの應援を古代ギリシャ時代の競技場を偲ぶ白壁の圓形か馬蹄型の鐵筋コンクリトースタントでやつてゐても晩春の氣持は心の奥底に浸みこんでくる位で、佛蘭西の未來派畫家しか描くまいかと思はれるやうに線と線との動靜に基律をふくませて活躍する愛費歌の音頭取を凝視してゐれば上衣を脱ぎ捨て相擁して躍踊したいやうに空想勝ちな心持を暮らせて陽光は夏らしくなつてしまつてゐます。長い間競技場を塞ぎました寒さも氷雪も打

忘られて大陸の人々は晩春から初夏へかけては心から大學運動競技を享樂し始めます。復活祭あとさきがきつかけで、中西南部の諸大學では各州とも一齊にベースボールの熱狂を煽り立て彌次は申すまでもなく人といふ人はヤンキ魂をぶちまけて澄み渡つた朗空の下で「熱狂の野球」を祝福いたします。勿論大學應援團はベースボールの競技をいやが上に男性的零圍氣に誘ひゐれてしまふ程に猛烈な應援ぶりをみせて層一層と運動競技の若々しい鮮やかさを彩りて亞米利加の大學の秋が蹴球の戦で彩られるに對して春から夏へかけての大學生活の穩かさは野球のデリケートな快技とその大規模な應援の叫響で麗しい日光のうちに吸ひこんでしまつて研究室に靜かに讀書に耽つてゐるのはあまりに修道院的な態度だと年を忘れて、一切を没却して歡びを享けたくなります。大學のベースボールチームの奮激と職業野球團の世界選手權爭覇戦とは、野球競技としての愉快さはよしや同じであつてもゲームが織り出す逸樂と感激は決して同じ計度であり同じ性質のものではありませんし勿論インサイドベースボール、プレイヤーとしての職業野球團選手の一舉一動には見逃すべからざる競技の妙味と勝敗の酣醉が湛へられてはゐますが、彼等の競技力には神秘的な恍惚さがありませぬ唯職業として一日の勞作に従事する職業競技家になんで歴史と傳統、誘と森嚴を尊んで大學の野球史に汚點をつけてはならぬと踏張つて一投一捕する大學チームの眞



摯がありませんか。よし前代未聞の本壘の暴君、ベープ、ルウスが打ち誇る腕にもプロフェショナルの臭ひは浸みこんで黄白の悪臭があります、ましてや投手が弗札と弗札とのあひだに抉つてサンドウィツのハムの代役をしてゐるからにナショナル・リーグのためにアメリカン・リーグに買収されて實力本位、兼戦の巧妙で勝敗を決す可きを買賣贈賄の悪徳行爲で自己の競技を片付けてゆく職業野球團の競技は徹頭徹尾最負が最負だけのタイムに夢中になる運動精神——スポーツマン、シツプ——そのけの興業師の試合で兩國は國技館あたりの八百長相撲と同視す可きものとしか思はれません。其處へゆくと大學タイムのゲームには侵す可からざる愛校心の熱と血とが脈々として流れてゐます、選手が勝たずんばやまずの顔面筋肉の所有主であり、相手を一蹴去らざればヤンキ魂が承知せぬと頑張る若武者でありそれをうんうんと後押しする大學生が反逆革命の群集以上の猛犸な集團でも一寸やそつとの行き違ひで對校ゲームを中止すること十數年になつても早慶試合復活は未だしとかの寢言に欺されてゐる夢遊病者みたくのものではありません。

應援も聲援も生を賭して往く概がある。若いヤンキであつても運動精神と公正の競技を遺傳的に受けたアングロサクソンの「競技の血」も上は一枚下のはちやんと立派に用意した偉らい連中で競技には酔つても運動道徳と競技倫理は缺く可からざる紳士道の要素と信じてゐるから此複雑な

心持ちが運動競技を尊敬もさせ愛好もさせて『おやじが運動をやつてはいけぬとの言ひついで！』と日影の桃の樹みたいのひよる長の體に青白い顔をして神經衰弱と云ふ烙印をつけてゐるやうな大學生は探がしてありません。『大學へはゐつたら俺はきつと蹴球選手になつてジョン、スミスの名を永遠にユール大學の『運動競技史上に残す』とか『大學タイムの一員としてプレイヤス、ベンチの一隅に腰をろす時に體軀におこる武者振ひはやがていつかは議會の演壇にたつて合衆國の國政を叫ぶ時に演壇脅威を打消すものだ』と豪語して、コーチが命懸けでつくりあげる練習の渦巻に自らとびこんで懸命の努力をつくす大學生はさらにゐます、さら處大學生の大部分が否殆んど全部が大學の運動競技を代表するものとなることは銀時計や優等證よりも意義あるものとしてゐます。なにせよ野球選手の選定は加奈陀から吹きくる氷雪まじりの寒風が凍れ凍れと北米大陸を横斷してくる十二月も基督降誕祭前後に始まります。野球競技家として自信あるものなにも、誰でも大學のベースボール、シーズンに大學の記録を最善ならしめんと希ふ學生は何日何時グラウンドに集れと掲示すれば吾と思ふ若猛者はぞろ／＼と練習にでますと百戦百巧の老コーチは補助コーチを督勵して選手及選手たらんと欲する有象無象にコーチを始ます。晴れてゐればベースボールグラウンドで、降れば體育館の練習場で、しばしは基本練習で肩のよしあし運動神經

の鋭鈍から筋骨の發達工合を判別しますと同時に天才と非天才の選り別けをそれとなく胸に秘めてをきます。勿論此練習レイズンの辟頭にあたつて大學校醫と體育館指導員（Physical Director）の嚴格なる心身検査即ち體重身長から血壓の高低更に心理學的検査までX光線を利用して試みますのでその時に心身に缺陷を有すれば體育館の指導員（Physical Director）はその人のために懇に探るべき體育競技を教示して激烈なる練習に参加することを許しません。練習は猛獐であり訓練は嚴格であつても根本的の用意の怠りのないことは如上の一例でもおわかりであります。それですから練習中に疾病で倒れたり練習を中止するやうなことは餘程の場合でなければありません。此點に付いても在來の日本の無茶主義は大に改良すべきであらうかと信じます。

十二月の基督降誕祭後、と口にすれば易々たるものゝ、新聞ではボストンの市街は大吹雪で市街自動車は停まつたの紐育市では街上が凍つて市街鐵道もなく吹雪が一週間も積いたのと冬の猛威が極度に吹き捲くつて脅威がる時で、日本から書生の分際でもやれ温泉旅行のやれ歌留多の炬燵のたのしみのと安價安逸の冬籠に耽溺してゐる時に既に彼はまだ來ぬ春の四月に火蓋を切つてをとされるベースボールシーズンの寒稽古をやるのですからやるものもやらせるものも苦痛と努力は承知であつても承知し切れぬくるしみて、大凡の人選が決定してコーチが誰を何のシイトに

彼をサブにと胸三寸の裡にきめかゝる時には東部の諸大學即ちハアバード、エール、プリンストン、ダートマス、ロチェスターの諸大學は雲の殆んどない南部諸州の諸大學へ武者修業道場破りを兼ねて練習試合の日割（スケジュール）を發表します。試合を申込まれた南部の諸大學では待つてゐましたとばかりに迎へ戦に備へてゐます。その南部諸州の大學とはまづ有名な處でヴァージニア州立大學、ノウスカロライナ州立大學、ウエスト、ヴァージニア大學、少し南部山脈地方でテニシイ州のヴァンダビルト大學に下つてはジウラジア州のジウラジア高等工業學校の野球チームは東部の強チームを迎へて闘ふだけの力と歴史をもつてゐます。元來南部諸州は東部諸州即ち新英蘭州に比較しては大學文化の非常に遅れてた地方ではありますがヴァージニア州とノウスカロライナ州は南部戦争の時に南部の覇者中堅たりし州でその州立大學は史的關係からしても東部の大きい舊い大學にあらゆる點で對抗せねばならぬ運命をもつてゐますが現在ではどをしても第二流になつて南部諸州のなかで最も強いのがジウラジア高等工業學校とセントアカレツチで特に後者に到つてはハアバード、エールを野球に庭球に惨敗せしめる勇敢者で東部遠征を企て南部のために萬丈の氣焰を擧げてゐます。南部の大學でハアバードと傳統的に挑戦するのがヴァージニア大學、エールのエリスのチームを時に土俵の土とするのがノウスカロライナ大學でジウラジア高等工業とセ

ンタアカレツチはエール、ハアバードをして畏怖せしめる大物喰ひで、昨冬はエール大學がジウラジアテクノロジーのグラウンドへ寒稽古傍々試合にゆけば、ハアバード大學は冬でも冬らしくない生温いテキサスの平原に練習にゆき、木曾義仲の蠻勇と源九郎義經の氣概をこつちやに混ぜこんだやうな悍獍のダートマス大學では母校のグラウンドで雪のなかを糞くらへと皿を流しつゝ練習したと傳へられてゐます。

コーチは勿論自稱大家や烏天狗の出来そこないの徒輩はひとりもおりませんし、一シーズンには尠なくも二三千弗や五六千弗もつて大學ティムを訓練させるものですから立派な経験と恥しくない洞察力をもつて選手からは信頼され選手を心服せしめ競技に對して全責任を負ふてゐます、時には職業野球團プロフェッショナルリーグから適當の選手を引きぬいてコーチにすることもありますがそれは甚だ稀なことであると聞いてゐます。僕が南部のある古い州立大學にゐた時のある日グラウンドへ選手の練習をみにゆくと、その日にコーチが慶應のユニフォームをきてどなつてゐるではありませんか、少々變に思つて練習後體育館の入浴場で訊ねてみると、彼は市俄古の白踏軍に加つて日本へ來た有名な職業選手でした。そをして私をみて『日本人かほんとに嬉しかつた。實は支那人だとばかり思つて……』と厚味のある大きい手で握手しながら東京の話大阪の話、早慶の話を彼と胸

襟を披いたことなぞも今では思ひ出での一節です。而し大概はその大學で昔鳴らした選手を迎へて技術本位よりも愛校心本位のコーチを歡んで迎へてゐる傾向があります。

その點から言へば市俄古のページ主將などは日本にもよく知られてゐる一人でせう。只に野球のみではありません、秋の蹴球でも冬のバスケットボール、初夏の競漕でも大學の運動競技はその始めが猛烈で、急仕立のコーチもゐませんし、粗製濫造の選手もゐませんし、而かもコーチと選手の關係は他所目にも羨ましい位に立派なもので此點は移し植えねばならぬ異邦運動競技の園に咲く花であります。

運動精神スポーツスピリットとか公正の運動競技のとプロバカンダばかりしてゐてコーチが少しでも眞面目嚴正の練習法を採れば陰險陋劣口にす可からざる小細工を弄したり朋黨を組んでコーチを苦しめたり、あるひはコーチを推薦しておきながら選手を使唆してコーチ排斥やコーチの指導を阻害したがる小人輩のゐるお家騒動的の奇映畫を簡潔と公正を本則とする運動競技界に搬出する日本の斯界とは比較にならないと存じます。自由平等は亞米利加の國是でもあり米國大學そのもの、理想ともする處、而かも統一と協力を必要的條件とする運動競技は自由を制限し平等を束縛するを餘儀なくします。その時にコーチは選手を統率するために絶対無限の權利を以て最優秀のチーム現

出に努めますがそれでも個人的偏見は毛厘もなく正々堂々自己の所信に向つて斷々乎々として進みます。選手も只にその練習指導に従ふのみならず競技の策戦掛引一切を擧げてコーチに任せて一意専心勝負に激してゐます。勿論大學ティムの選手が運動競技上の指導は勿論のこと日常生活の一飯一茶の末端に到る迄コーチの一言一句によりて終始するは大學競技が勝敗を最終の目的にするよりも『人格建設』の訓陶としても當然のこと、首肯し得ませう。職業野球團の選手でも紐育巨人軍のマグロー監督が人指指一つ微動さして選手をノック、アウトする状況はコーチと選手の状態が水も洩さぬ美しさを偲ばせてゐます。斯くしてコーチは大學運動競技にあつては選手と俱に切り離す可からざる重要な要素であるのみならず、人を發見し造就する教室にまさる大學教育の眞底をグラウンドから湧かせてゐます。

エール大學の名コーチ、ウラルタア、キャンプ氏はアメリカン、フットボールの創建者として且エール大學の蹴球コーチとしてのみならず米國の國民體育の指導者として其人格と識見は國際的名聲を博し、ビル、ラウバアーと言へば亞米利加では『プリンストンの名コーチ』かと誰彼の區別なく頷ぶかせるフィラデルフィヤの名高い辯護士であると共に蹴球の猛襲と負けじ魂のブリノストン、スピリットの鼓吹者として一世に名だたる紳士であります。その外市俄古のスタッグ

氏ペンシルバニヤ大學コーネル大學の陸上競技の泰斗、競漕界の大聖雄は俱々コーチ尊重論を裏書するアメリカン運動競技界の主んだ名星であります。いかさま『大學の春の競技』をお話しようとして話は脱線しましたが本線に立ち戻つて一つ今でも忘れ難い興奮した競技の印象をぼつくと申し上げます。

ヴァージニア州とそれに隣するノウス、カロライナ州とは南北戦争の時代から州と州との對抗上ヴァージニア州の州民が『俺はヴァージニアンだ』とビュリタンの血統を威張れば他方では『タアヒル』とノウスカロライナ州が殖民の創始時代の奮闘的歴史を誇つて何事にも片意地を張りあつてひけとらぬ州と州との亞米利加諸州中でも歴史の深い州で、特に南北戦争の時には南部の頭領として覇を握つて北部諸州に對抗しただけに州の人々はお國自慢ならぬ『州の誇』をもつてゐるので、それがノウス、カロライナ州立大學とヴァージニア州立大學との對抗競技に遺憾なく現はれてゐます。處がヴァージニア州立大學は州立大學としては加州大學に次ぐ大きいもので、古い點ではカロライナと殆んど同格位の有名な大學ではあるし、東部の大きい大學とは對抗競技をより多くなし得る位置にもあるしるので、カロライナ大學は過去五六十年間常に壓迫され勝ちなのです。まあ、ベースボールのシーズンに愈々兩大學がはむつたとしますね、そうすると、ヴァージニア大學

がエール大學と小手調をすればカロライナ大學の方はハアバードと稽古試合をすると云つた調子で、練習法や選手の技倆を密偵するスパイは大學の舊選手や若コーチ連が姿を更へてひそかにさぐりにゆきます、その大學が何しろ東京と神戸位離れてゐるんですからね、それでもスパイは殆んど兩大學の試合の試合前になれば連日にかけてゐますし、何れの大學とする試合にもスパイは出かけて、一舉一動を齎らしてかえります。兩州の新聞は、出来るだけ詳細に練習記を發表したいとあせりますが、いよ／＼となればコーチは一般學生觀覽者にある一定の時間にはスタンドにはゐれないで、對校ゲームの策戦に耽り出します。當日になれば州の少し大きい町には電話でゲームの経過が殆んど寸分を争つて報告され、群集は山をなしてホテルや新聞社前で電氣板エレクトリックボードに現はれてくる數字をみて一喜一憂に囚れてゐます。

父親はヴァジニアで母親がタアヒルだから家庭では兩派に分れて息子息子の應援にくるのさへある位で、小さい家庭的悲喜劇があるわけです。毎春五月中旬に三回勝負に州と州との對抗的野球試合をして熱狂させてゐても、そこに何の障害もなく寧ろそれによつて、大學生のみならず州全體の人が運動競技の愉快に浸つてゐるんですから、これを十有數年も早慶試合中止なぞの是非を論じてゐる國柄とは雲泥の差があります。

## 大學の運動競技

—College sports and games—

## 第二信

### — 亞米利加の競漕界概況 — (一)

ツルゲネイフの小説「煙」の一節に、

『もしも英吉利人と談話を交へたならばその會話は直ちに運動競技に及び、佛蘭西人とならば女と酒に、露西亞人は露西亞それ自體か露西亞人それ自身の生活を説くであらう』

と謂ふのがあつたと記憶しますが、實際英吉利人は談話而かもほんの一談片にさへも運動競技の言葉がはゐらないことは無いやうに運動競技を愛嗜するのはやがて英國運動競技を勃興發達せしめた所以で蹴球 (Football) 競漕 (Rowing) 庭球 (Tennis) 水泳 (Swimming) 競馬 競走 ゴルフ、クリケット、ホッケー、殆んど總ての戶外運動競技が、「英國製」の商標を貼付せねばならない

經路を経てゐるのでありますのはお承知と存じますが、何んと申しても英國は運動競技の祖國でその絢爛人目を眩惑する完全の域にある英國の運動競技の今後の趨勢と新進の米國の斯界とを比較してみれば大學運動競技(College sports)にせよ職業競技(Professional sports)素人競技(Amateur sports)にせよ米國のそれは未來に異常な發達性を認めることが出来ませう。これは敢て獨斷的な觀察ではないと秘に自負して居りますが、乍併元來が保守的で而かも貴族的趣味から勃興したジョンブルの運動競技は全くブルジョア階級有專物の觀があつて無產有產俱々超階級的に享樂し得るものでなく非常に階級的になつてゆく傾向は英國にあつては頗る明らかであるのに反して、米國の運動競技は大學競技にせよ職業競技にせよ將亦純然たる素人競技にせよ全く民衆的であると同時に米國にあつては、「運動競技の一般化」——Popularization of Athletics——の潮流が濶瀾として動いてゐます。ゴルフ、テニスの職業競技家が英國には存在しても大きい民衆を悅樂せしむる職業野球團の勃興は過去にも今後にも發見することは米國の國民性としては難事、英國の運動競技は飽くまでも貴族的階級的な趣り方とすれば米國のは徹底的に民衆的ならんとする力をもつてゐませう。然而英國にしろ米國にしろ運動競技の基礎的精神が唯單に勝敗にあるのではなくして英國の紳士道は運動競技から湧きあがつてゐると言はれてゐる位に、亦イートン、ハローの校

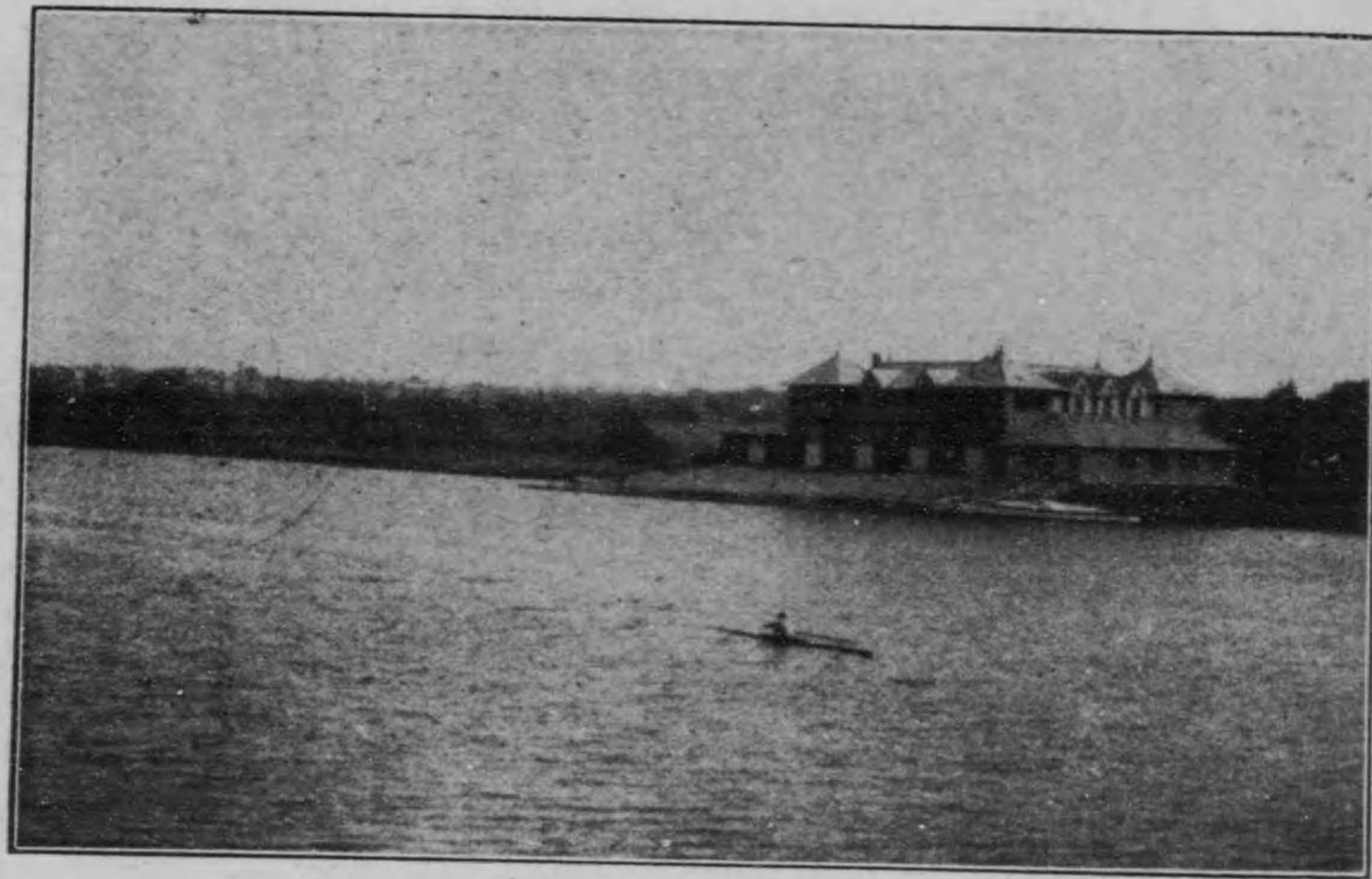
風が蹴球の對抗競技に現はれて英國の興隆これあるがためであるとウエリントン公をして嘆美せしめた風潮は所謂運動競技の「公正の競技」——Fair Play——の倫理的觀念は正々堂々と競技することに現はれて正しき競技——God game——は技術の優秀よりも必要な條件として競技の最根本則とされてゐるのみか、亞米利加蹴球(American foot-ball)は英國のラグビー蹴球にまさる大競技でその競技の進化につれて「公正の競技」なる競技倫理(Sport-Ethics)は強烈になつてゆくことを發見することができます。亞米利加蹴球が絶対に正しく、競技することを必要とするのは詩人サツカレイが

「誰が勝つたか、誰が敗れたか、

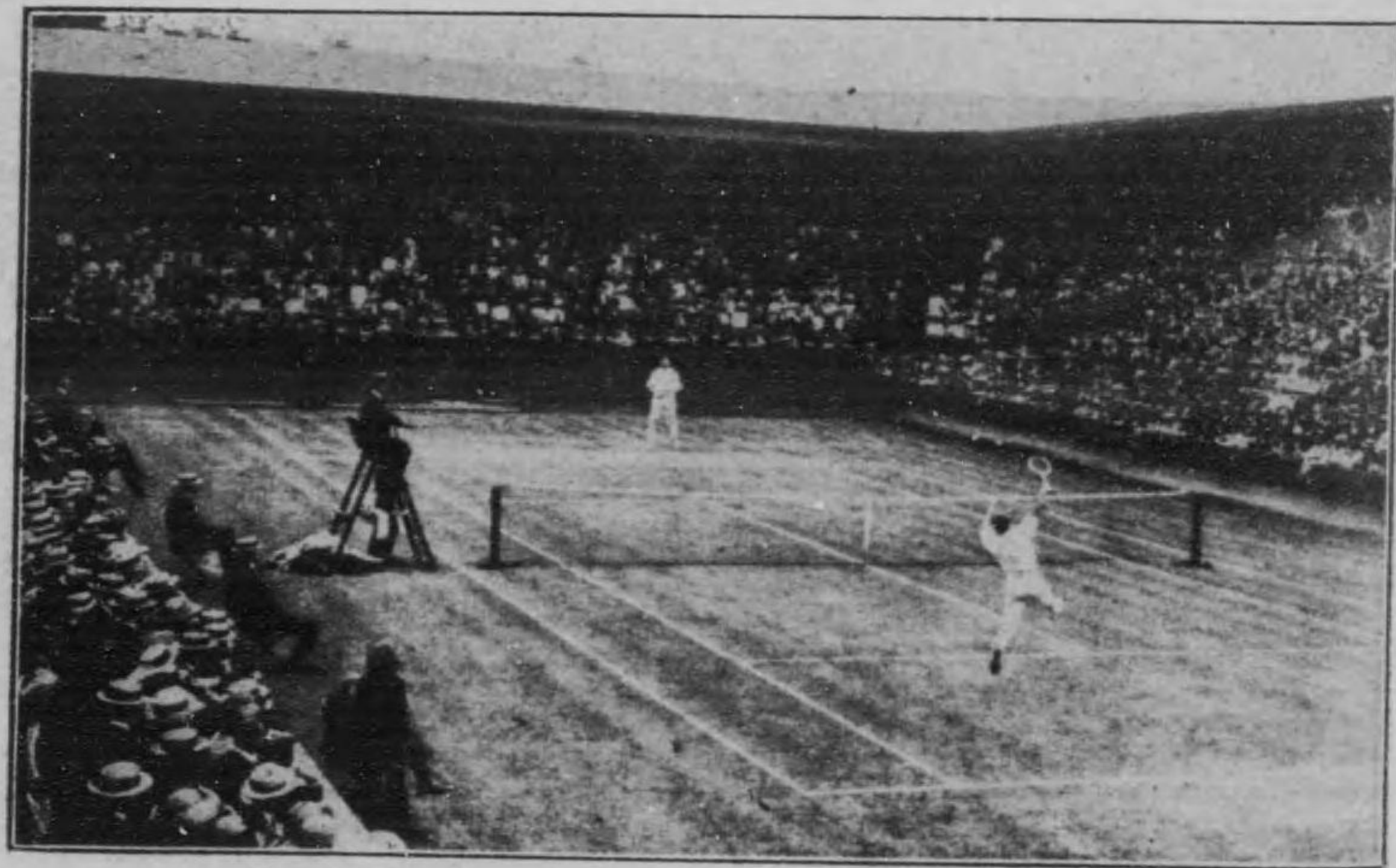
敗けても勝つても正しければ、勝つも敗けるも紳士として恥しくなければそれでよい。勝敗のために神に禱れ」

と謳つたのはフェアプレーの精神であり且亞米利加蹴球の眞底であります。勝つも敗けるも全力を盡くして競技することは力の動靜から言へば人事を盡くして天命を待つ三昧境で「紳士として、」一言は將に正々堂々の氣慨で「男で御座る」の大きな啖呵であります。在米中幾多の運動競技の祝勝會慰勞會の席上幾度か「フェアプレー」の言葉を耳にしたことでありませう。運動競技の

第一義は正に此の「フェアプレー」の一言に盡きます。而かも此フェアプレーの觀念は競技家が競技するにあつてのみ體行すべき標語ではありません。運動競技を鑑賞する第一義も此フェアプレー即ち正々堂々の態度を必要としてゐます。香の高い運動競技とは唯單に技術の科學的研究とか競技場の設備の完全とかの形而上の意味ではありません。發達したる運動競技とは謂迄もなく技術の優秀、複雑、設備の完全、競技の昂奮性、策戰の巧妙等と共に洗練されたる鑑賞眼の存在を要求します。換言すれば品位ある觀覽者であり眞摯なる聲援者であり眞面目なる批評家の現出を具備することであります。この洗練されたる鑑賞眼の存在はやがて運動競技にも影響して非競技家に迄運動競技の根本精神たる「公正の競技」を尊ぶことを教へますから、正々堂々とは行はれる運動競技はやはり正々堂々と鑑賞し批評し享樂せねばならぬわけであります。即ち見物人聲援者は直ちに公正の態度を保持して競技場に臨む必要があるので米國の大學競技で見逃がしてならぬ長所は聲援が全く正々堂々と行はれてゐることであります。米國の發達したる運動競技は正々堂々の鑑賞者の存在を得て更に美しいものとなつてゐます。亞米利加蹴球はその競技が表面上粗野放蕩な點がみえてゐますが、その裏面には微妙殆んど言外のデリケートな技術をもつてゐて、そのデリケートな一靜一動は敵側の應援團が占むるスタンドの方で行はれる時に命令する



ハアバードの艇庫



デイビスカップ争覇戦



シグナルに對してもしも敵の應援團が阻害せんとするなれば少數の人々の彌次聲援でも充分混亂せしむることは容易であります。フットボールゲームにあつてはこのシグナル（陣形構成を命令する）をなすその一瞬時が亞米利加蹴球の妙境で競技者は敵も味方も最も緊張して續いて起る攻防の闘ひに構へる寸秒の時ですから所謂山風樓に滿つの慨があり、觀衆は昂奮する、應援團はその得點の如何によつては是非とも大々の聲援を與へたい時でも、正しい競技としては競技場にある總ての人々は固唾をのみ鳴りを鎮め宛も奈須の與市が扇的の具ふる狀況でそのシグナルの最もよく行はれることに備へてゐてこそ、そのフットボールゲームはよき競技であります。罵聲嘯號殆んど耳にすべからざる下劣の態度で應援する聲援や敵の競技を阻害せんとする群衆が競技場の一要素であるからには將によき競技ではありません。

近來日本でも運動競技に與る人々は公正の競技なる精神はかなりに體得されて來たと信じますが觀衆に至つては未だしであると思ひます。競技を觀る人々も競技家と同じ正々堂々の態度で競技を鑑賞することは運動競技を發達せしむる大原動力であることを充分に自覺して欲しいと英米の運動競技を觀るにつけ常に感じました。

要するに米國の大學運動競技はプロフエシヨナル、アマチュアスポーツに超越した優秀性をも

つてゐるのは自覚した運動競技が漸行されてゐるに由縁するので、インタカレッヂエイト・アスレチックユニオン（大學對抗運動競技聯盟）の組織もその他對抗競技の規約制限の一切の眞意は唯よき競技を表現せんがためであつてペンシルヴァニア大學の如き頗る優秀な蹴球チームをもつてゐても一度その選手資格に不足な點があつた爲にハアバード、エール、プリンスストンの第一流の大學チームは茲々久らく蹴球競技だけを對抗することを中止してペン大學に一つの反省的制裁を與へてゐます。エリオット名總長がハアバードの蹴球チームを激勵した辭が「吾々は強いチームをもつよりも正しいチームを有することを誇る」であつたとは味ふ可きことではありますまいか。強いチームは良選手の買収不正な競技法によつて現出し得るかも知れないが正しいチームは左様な事實では描き出せないものであつて強いことよりも正しいことを望むのが米國大學運動競技の標語であり究極の目的であるのは大學の學風がグラウンドから生れてくるからであります。宛も米國の國民性に根強い執着が運動競技に現はれてゐるやうに米國の大學生活には運動競技で齎らした麗しい色彩が輝いてゐます。獨逸の大學生活がブルメンとビーヤ、英國の夫れがソサエチイと淑女によつて光彩陸離たる觀があれば米國の討論と運動競技によつて理想化されてゐると言ふのも一面米國の大學生活に生々潑潑の光を投げつけてゐるのです。

「亞米利加第一」主義は歐洲大戰が齎らした亞米利加思潮の大潮流でありこの潮流の渦巻きは運動競技をも捲き込んで世界第一主義に徹底せしむれば止まぬ執着性をもつてあらゆる機會に現はれ雄大な自然と廣漠の大陸の風貌は「健全なる精神は健全なる身體に宿る」と實踐躬行する青年を必要として今後の半世紀に亞米利加はどの位の雄飛をなすかは吾々が凝視してゐる運動競技の方面にも極みなく實現されることでありませう。

劍橋牛津兩大學のチームス競漕が世界的競漕として國際的熱望の對象となつてゐるのは未だこれに匹敵す可き大競漕ないからでもありません。競漕そのものとしての劍牛兩競漕は過去を尊重す可く未來は米國の大學對抗競漕に新しい憧憬を感じざるを得ません。歴史的競漕としての牛津劍橋競漕の興味が湧くならハドソンの上流ボケブシイに行はれる米國六大學對抗競漕は亞米利加的誇大幻覺が事實化された大規模の競漕で牛津劍橋競漕の微妙な競漕感はなくとも大陸的競漕としての雄壯味は覺えられます。一寸想像して見て下さい。北西部のウイスクンシン州のウイスクンシン大學は二十何呎かの細身の競漕艇を擁して遙々とハドソンの航路にやつて來るのみか彼等は平常の飲料水と異なつてはとウイスクンシンから飲料水まで樽詰で運んだと噂されてゐるし、シラキユウス、コーネルの紐育猛者としての兩大學競漕團が馳せ参じ、ペンシルバニヤブ

リンストンの古武者が押し寄せ地廻りものコロンピヤが土地つ子だけに主人公顔で送迎するあたりは墨堤十里河精の覇を争はんとする光景は唯々曉天の残星で、米國の競漕を斯くして堂々競漕の祖國英吉利の牛津劍橋の壘を摩してくるわけです。總ての運動競技が斯如き性質を帯びてはゐますが、特に競漕と蹴球とはプロフェシヨナルプレーヤーやアマチアプレーヤーをして遂行し難き難澁の練習法と攝生法を必要とする點から大學競技として最も鮮かな特色を發揮してゐます。亞米利加では競漕は晩春から初夏へかけての大學大競技で練習は秋から春へかけて寒い冬を顧みず續行せねばなりません。その練習が一夜漬の隅田河的とは全然その趣を異にしてゐますので、やることなすこと總てが根底から出立して單純な一練習法の支葉にも亞米利加魂の健實性が存在してゐまた。競漕選手の練習法としては先づ第一に、徒歩、馳足、體操、砲丸擲が強筋法として課せられ、飲食物の攝生は殆んど過酷な程で自墮落な墨堤選手の宜く耐え得るものではありません。ハアバード大學の競漕選手は練習期間中、食養法を非常に重んぜられて食卓からはライスの外の野菜物はその影をかくし、魚肉は禁ぜられて牛肉羊肉焼パンオートミール及び飲料として極少量の水とミルクが毎食事に許され渴に耐えることがオーアスマンとしての第一要件とされてゐるばかりか、無論選手たる可きは如何な愛煙家でも練習期間は絶對的に酒精と共に烟

草は禁止されてゐます。エール大學の競漕指導員のニコラス君にニューヘブンの體育館の水槽で遭つた時に、

“No smoke, no drink, no wine and beer”

か競漕練習の「四ツの禁戒」だと訓へてくれました。恐らくこの四禁戒はあらゆる運動競技を通じて對絶的必要でありませうがニコラス君の特殊な強筋法は競漕開始の二ヶ月は朝六時に起床して空腹を抱へて徒歩を三四哩してその二分の一以上を馳足をなし時には選手は彼等の手に重量を適度に量つた分銅さへ持たされます。午前午後一回宛四哩の力漕を實行する事を日課となし、食養法としてはハアバードあたりと大差なく唯ニコラス氏はごく弱い茶を一つの興奮劑として特に許してゐました。練習法が科學的であると同時に食養法も重要視されて選手の攝生自重はみるからに快く、プリンストン大學のコーチャの如きは食事練習の一部分であると迄に極言して身體の疲労程度の測定回復を計る可き方法に到つては米國の大學では遺憾なき研究と實行とを進めてゐます。いくら八本撓の競漕艇を浮べてみてもその練習法や攝生法が依然として前世紀の粗暴な範圍を脱せず唯徒らに大言壯語して競漕して競漕は勝てばこと濟めりと出艇の前後に喫烟し甚だしきに至つては合宿生活を好都合としてトランプ將棊等の夜更するのは果して何のための合宿練

習であるのかその解釋に苦しまざるを得ません。彼我その合宿生活を思ひ比べて冷汗を覚えて云ふ術を知りませんでした。更に加へて一言競漕カヨウと其コーチャー(指導員)との關係に就いて申上げたいと存じます。米國ではコーチャーが運動競技の有能有驗の士であるのみならず科學的研究に徹してゐる方針を採つてゆくからには批難の聲も全然なく加ふるに選手及びその四圍がコーチを尊重して競技の練習方法選手選定その他一切に對して果斷的態度で全責任を負ふておりますから外部からの容解を許さず、而かも麗しい友情を以てとりまかれて師の影は三尺去つて踏ますの倫理感が織りなされてゐます。再々繰返しますが指導員を尊重しその尊敬す可き指導員を優遇することは今日の日本の斯界にとつて亦とない必要な觀念と信じてゐます。米國の大學では大學の運動競技指導員を決定する權能を大學體育會の最高幹部に委せてその最高幹部は教授——Faculty——から運動競技に經驗理解のある教授を一名及び全學生委員會——Students Government——運動競技委員會——Athletic Committee——から相當の代表者を選出したものによつて組織されたもので、無論各々大學特有の組織はありませうがその形式の差異こそあれ自治精神と進取的態度を共通としてゐることは日本の大學の運動競技委員會が無能無策の幹部に束縛されてゐるのに反して着しい優秀性を有して大學の運動競技事務一切の處理から運動競技基本金の管理までし／＼と手際よ

く運ばしてゆくのは頗る興味を呼びますくらひであります。この全能全權の委員會が選定した指導員ですからそこに絶對的服従と絶對的尊敬が起きてくるのは當然であつて研究と練習の疑點以外何等喧しい抗辯すら聽く事ありません。

亞米利加の大學運動競技界の指導員として全世界にその國際的名聲を擧げたのはエール大學のフットボールコーチャーとして且は亞米利加蹴球の考案者としてのウォルター・キャンプ氏で、氏が四十年の春秋を擧げてエール大學のヤングボーイスの體育運動競技に捧げた功績は唯にエールの運動競技の發達に資したるのみか全米の運動競技家に「指導」の觀念を注入せしむると共に米國が一九一六年四月突發的に歐洲大戰に參戰した時に國民的總動員を絶叫して運動競技の理想を有意義ならしめてキャンプ氏の理想を謳歌したのは「素人の運動競技」——アマチュアスポーツ——の價値を米國國民の腦裡に印せしめたものです。エール大學の名指導員は國家有事の秋に一躍軍事的國民總動員の精神上の指導員となる可き用意をもつてゐたのです。

フレッド・ステイブソン氏は一八八八年のエールの男らしい撓カマの人としての一名に加へてアメリカンレガタリーのコーチャーとして今尙名聲を擅カマにしてゐるのみか、擧げ來れば親しく面接した年は老ひても指導としての全能を謳ふべき人々は數え切れぬ程に潤澤であるのも羨むべき